

香川県農業試験場移転事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告
第4冊

西末則遺跡IV

2014.3

香川県教育委員会

序 文

西末則遺跡は香川県農業試験場の移転に伴い発掘調査を行った香川県綾歌郡綾川町北（旧綾南町）及び山田下（旧綾上町）に所在する遺跡です。

発掘調査は、平成 13 年度から平成 17 年度にかけて行い、縄文時代から江戸時代までの遺構・遺物を検出しています。なかでも弥生時代後期頃に掘削された大規模な幹線水路跡や古代末から中世にかけての大規模な集落跡の存在が注目されます。

西末則遺跡の内容については、平成 16 年度に弥生時代後期頃の大規模灌漑水路や奈良時代の火葬墓、奈良時代から江戸時代にかけての集落跡がある遺跡の南東部について、続く平成 17 年度には弥生時代後期の自然河川や古代末から中世前半にかけての集落跡がある遺跡の西部について、さらに平成 18 年度には縄文時代の石器製作跡や中世前半の集落跡がある遺跡の北半部についてそれぞれ整理作業を実施し、『西末則遺跡 I』・『西末則遺跡 II』・『西末則遺跡 III』としてそれぞれ刊行してきました。

今回刊行しますのは、平成 14 年度に調査を行った範囲の報告です。遺跡の南東部に位置し、縄文時代から中世の遺構・遺物を確認しました。特にこれまで県下でも類例の少ない縄文時代晩期の土坑や中世の墓跡を検出したことは特筆されます。またこれまでと同様に中世前半の集落跡が展開しており、当時の中世の集落跡の全容が分かりつつあり貴重な資料となるものです。

本報告書が香川県及び綾川町の歴史研究のための資料として広く活用されますとともに、埋蔵文化財に対する理解と关心を一層深めるための一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から出土品の整理・報告に至るまでの間、関係諸機関並びに地元関係各位に多大なご援助とご協力を賜りましたことを、ここに深く感謝申し上げます。

平成 26 年 3 月 20 日

香川県埋蔵文化財センター
所長 真鍋 昌宏

例　　言

1 本報告書は、香川県農業試験場移転に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第4冊で、香川県綾歌郡綾川町山田下（旧綾上町）ならびに北（旧綾南町）に所在する西末削遺跡（にしそえのりいせき）IVの報告を収録した。

2 発掘調査は、香川県教育委員会が調査主体となり、平成14年度は財團法人香川県埋蔵文化財調査センターが調査担当者として実施した。

3 発掘調査は、E地区を平成14年4月1日から平成15年3月31日まで実施した。発掘調査の担当は以下のとおりである。

平成14年度 小野秀幸 柏 徹哉 飯間俊行

4 調査にあたって、下記の諸機関の協力を得た。記して謝意を表したい。（順不同、敬称略）
香川県農林水産部農業経営課 中讃土地改良事務所 綾川町経済課 地元自治会 地元水利組合

5 報告書の作成は、香川県埋蔵文化財センターが実施した。執筆・編集は小野が担当した。

6 報告書で用いる座標系は、国土座標第IV系（世界測地系）で、方位の北は国土座標第IV系による。
また、標高は東京湾平均海面（T.P.）を基準とした。

7 遺構は次の略号により表示した。

S A	柵　列	S B	掘立柱建物跡	S D	溝状遺構	S E	井戸跡
S K	土　坑	S P	柱穴跡	S T	墓	S R	自然河川
S X	その他の遺構および不明遺構						

8 報告遺構名は整理区画と遺構の種類により、通し番号により再整理を行った。さらに、整理区画を明確にするために、遺構名中に整理区画記号の「c」を記入した。

9 挿図の一部に国土地理院発行の1/25,000地形図『滝宮』を使用した。

10 遺構断面図の水平線上の数値は、水平線の標高値（単位m）である。

11 土器観察表中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖2010年版』を参照した。

12 石器実測図の周縁に表現されている線は、調査中の破損を破線で、古い折損については実線でそ

それぞれ復元線を記入したものである。また、使用痕についてはその範囲について顯著なものを実線で、軽微なものを破線でそれぞれ表現した。また、剥離面を黒塗りしているものは調査中の破損部を示す。面的に摩滅が観察できる場合は、その範囲を一点鎖線で示し、擦痕が認められる場合はその単位及び方向を線描した。

本文目次

第1章 調査の経緯

　　第1節 調査方法と整理方法 ······ 1

　　第2節 調査体制と整理体制 ······ 6

第2章 調査の成果

　　第1節 調査区の概要 ······ 7

　　第2節 E地区 ······ 7

第3章 まとめ

　　第1節 遺構の変遷 ······ 78

　　第2節 E地区の古代遺構 ······ 78

　　第3節 中世における集落の景観について ······ 79

挿図目次

第 1 図	遺構位置図	1
第 2 図	グリッド割図	2
第 3 図	年度別地区割図	3
第 4 図	調査区割図	5
第 5 図	G10 区東壁土層断面図 (縦 1/40・横 1/80)	8
第 6 図	G10 区北壁土層断面図 (縦 1/40・横 1/80)	9
第 7 図	G10 区南壁土層断面図 (縦 1/40・横 1/80)	10
第 8 図	SBc001 平・断面図 (L/60), 出土遺物 (1/4)	11
第 9 図	SBc002 平・断面図 (L/60)	12
第 10 図	SBc003 平・断面図 (L/60), 出土遺物 (1/4)	13
第 11 図	SBc004 平・断面図 (L/60), 出土遺物 (1/4)	15
第 12 図	SBc005 平・断面図 (L/60)	16
第 13 図	SBc006 平・断面図 (L/60)	17
第 14 図	SBc006 出土遺物 (1/4)	18
第 15 図	SBc007 平・断面図 (L/60), 出土遺物 (1/4)	18
第 16 図	SBc008 平・断面図 (L/60), 出土遺物 (1/4)	19
第 17 図	SBc009 平・断面図 (L/80), 出土遺物 (1/4)	20
第 18 図	SBc010 平・断面図 (L/60)	22
第 19 図	SBc011 平・断面図 (L/60), 出土遺物 (1/4)	23
第 20 図	SBc012 平・断面図 (L/60), 出土遺物 (1/4)	24
第 21 図	SBc013 平・断面図 (L/60), 出土遺物 (1/4)	25
第 22 図	SBc014 平・断面図 (L/60), 出土遺物 (1/4)	26
第 23 図	SBc015 平・断面図 (L/60), 出土遺物 (1/4)	27
第 24 図	SBc016 平・断面図 (L/60), 出土遺物 (1/4)	28
第 25 図	SBc017 平・断面図 (L/60)	29
第 26 図	SBc018 平・断面図 (L/60)	30
第 27 図	SBc019 平・断面図 (L/60)	31
第 28 図	SBc020 平・断面図 (L/60), 出土遺物 (1/4)	32
第 29 図	SBc021 平・断面図 (L/60)	33
第 30 図	SBc022 平・断面図 (L/60)	34
第 31 図	SBc023 平・断面図 (L/60)	35
第 32 図	SBc024 平・断面図 (L/60)	36
第 33 図	SAc001 平・断面図 (L/80), 出土遺物 (1/4)	37
第 34 図	SPc016 - 0051・0054 平・断面図 (L/40), 出土遺物 (1/4)	38
第 35 図	SPc0056 平・断面図 (L/40), 出土遺物 (1/4)	38
第 36 図	SPc0077 - 0202・0256 平・断面図 (L/40), 出土遺物 (1/4)	39
第 37 図	SPc0270 平・断面図 (L/40), 出土遺物 (1/4)	39
第 38 図	SPc0272・0273 平・断面図 (L/40), 出土遺物 (1/4)	39
第 39 図	SPc0281・SPc0282 平・断面図 (L/40), 出土遺物 (1/4)	40
第 40 図	SPc0301・0310・0313 平・断面図 (L/40), 出土遺物 (1/4)	40
第 41 図	SPc0324・0369・0371 平・断面図 (L/40), 出土遺物 (1/4)	40
第 42 図	SPc0349・0656 平・断面図 (L/40), 出土遺物 (1/4)	41
第 43 図	その他の SP 出土遺物 (1/4・1/2)	41
第 44 図	SKe001 平・断面図 (L/40)	42
第 45 図	SKe002 平・断面図 (L/40), 出土遺物 (1/4)	42
第 46 図	SKe003 平・断面図 (L/40)	43
第 47 図	SKe004 平・断面図 (L/40)	43
第 48 図	SKe005 平・断面図 (L/40)	43
第 49 図	SKe006・SKe007 平・断面図 (L/40)	43
第 50 図	SKe008 平・断面図 (L/40), 出土遺物 (1/4)	44
第 51 図	SKe009 平・断面図 (L/40)	44
第 52 図	SKe010 平・断面図 (L/40)	45
第 53 図	SKe011 平・断面図 (L/40), 出土遺物 (1/4)	45
第 54 図	SKe012 平・断面図 (L/40)	46
第 55 図	SKe013 平・断面図 (L/40)	46
第 56 図	SKe014 平・断面図 (L/40)	47
第 57 図	SKe015 平・断面図 (L/40), 出土遺物 (1/4)	47
第 58 図	SKe016 平・断面図 (L/40)	47
第 59 図	SKe017 平・断面図 (L/40)	47
第 60 図	SKe018 平・断面図 (L/40), 出土遺物 (1/4)	48
第 61 図	SKe019 平・断面図 (L/40), 出土遺物 (1/4・1/2)	49
第 62 図	SKe020 平・断面図 (L/40)	50
第 63 図	SKe021 平・断面図 (L/40), 出土遺物 1 (1/4)	51
第 64 図	SKe022 出土遺物 2 (1/2)	52
第 65 図	SKe023 出土遺物 3 (1/2)	53
第 66 図	SKe022 出土遺物 1 (1/4)	54
第 67 図	SKe022 出土遺物 2 (1/2)	55
第 68 図	STe001 平・断面図 (L/40), 出土遺物 (1/4・1/2)	56
第 69 図	STe002 平・断面図 (L/40), 出土遺物 (1/4)	57
第 70 図	SDc001 断面図 (L/40), 出土遺物 (1/4・1/2)	58
第 71 図	SDc004 断面図 (L/40), 出土遺物 (1/4)	59
第 72 図	SDc006 断面図 (L/40)	59
第 73 図	SDc015 ~ SDc018 断面図 (L/40), SDc015・SDc016 出土遺物 (1/4)	60
第 74 図	SDc017・SDc018 出土遺物 (1/4)	61
第 75 図	SDc020 断面図 (L/40), 出土遺物 (1/4)	61
第 76 図	SDc023 出土遺物 (1/4)	61
第 77 図	SDc027 断面図 (L/40), 出土遺物 (1/4)	62
第 78 図	SDc028 出土遺物 (1/4)	63
第 79 図	SDc032 断面図 (L/40)	63
第 80 図	SDc034 断面図 (L/40), 出土遺物 (1/4)	63

第 81 図	SDc044 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)	63
第 82 図	SDc048 断面図 (1/40)	64
第 83 図	SDe072 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)	65
第 84 図	SDe073 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)	65
第 85 図	SDe074 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)	65
第 86 図	SRc001 平面図 (1/100)	66
第 87 図	SRc001 出土遺物 1 (1/4)	67
第 88 図	SRc001 出土遺物 2 (1/4)	68
第 89 図	SRc001 出土遺物 3 (1/4)	69
第 90 図	SXc001 平・断面図 (1/40)	69
第 91 図	SXc002 平面図 (1/40)	70
	出土遺物 1 (1/4)	70

表 目 次

- 第 1 表 平成 24 年度整理作業体制一覧表
 第 2 表 西末則遺跡 IV 出土土器観察表
 第 3 表 西末則遺跡 IV 出土石器観察表

- 第 4 表 西末則遺跡 IV 出土金属器観察表
 第 5 表 西末則遺跡 IV 出土瓦観察表

図 版 目 次

図版 1	E 地区 (G10)	北壁土層 南から	図版 7	E 地区 (G8)	STc001 人骨検出状況 東から
図版 1	E 地区 (G10)	SDc001 中央壁土層断面 西から	図版 8	E 地区 (G8)	STc001 完掘状況 南から
図版 2	E 地区 (G10)	SBe012-P10 遺物出土状況 北から	図版 8	E 地区 (G8)	STc002 柵跡？ 南から
図版 2	E 地区 (G8)	STc002 土層 東から	図版 9	E 地区 (G8)	STc002 柵跡？ 西から
図版 3	E 地区 (G10)	SDc017 土層 西から	図版 9	E 地区 (G8)	SKc021 土層 南から
図版 3	E 地区 (G10)	SDc018・016 土層 西から	図版 10	E 地区 (G10)	SAc001 (西半) 東から
図版 4	E 地区 (G8)	SKe021 完掘状況 南から	図版 10	E 地区 (G10)	SBe009-P06 遺物出土状況 南から
図版 4	E 地区 (G8)	STc001 土層 南東から	図版 11	E 地区 (G10)	古代掘立柱建物群全景 南から
図版 5	E 地区 (G8)	STc001 上層 南から	図版 11	E 地区 (G10)	古代掘立柱建物群全景 東から
図版 5	E 地区 (G8)	SBe006・008 南から	図版 12	出土遺物 (1)	
図版 6	E 地区 (G8)	全景 東から	図版 13	出土遺物 (2)	
図版 6	E 地区 (G8)	SDc027 全景 南から	図版 14	出土遺物 (3)	
図版 7	E 地区 (G8)	STc001 人骨検出状況 南から			

第1章 調査の経緯

第1節 調査方法と整理方法

1 調査の方法

調査の経緯については、「香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 西末則遺跡I」(香川県埋蔵文化財センター 2005)に詳述されていることからここでは割愛する。ただし、調査・整理の経過については方法などで補足があることから、上記の報告書(以下「西末則遺跡I」と記す)を再掲する。

対象地を調査するにあたり、まず事業予定地全体に南東隅を基点とする20mメッシュのグリッドを設定した(第2図)。グリッド基点A-1は国土座標第IV系(旧日本測地系)のX=135.820、Y=40.520で、座標北の方向に1、2、3…、西の方向にA、B、C…と付し、各交点をB-2、D-2等のように呼称することにした。また、20mメッシュのグリッドの呼称は南東隅の交点によっている。本報告で調査区名・グリッド名・座標軸交点を表記する際には、以下のとおり表現する。

座標軸交点 10-G (X軸基点から60m西のラインとY軸基点から180m北のラインの交点)

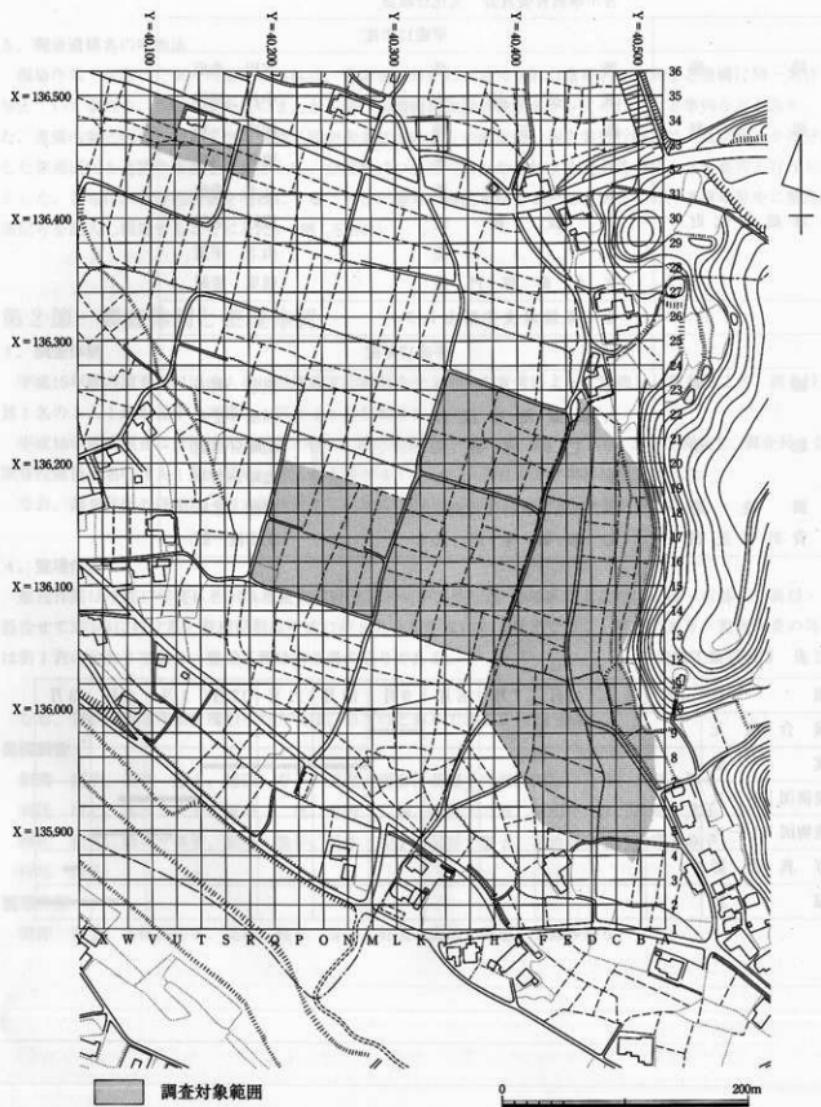
グリッド名 10Gグリッド (10-Gを南東隅とする20m四方の範囲)

調査区名 G 10 区 (調査区の中で最も南東にある座標軸交点名を適用)

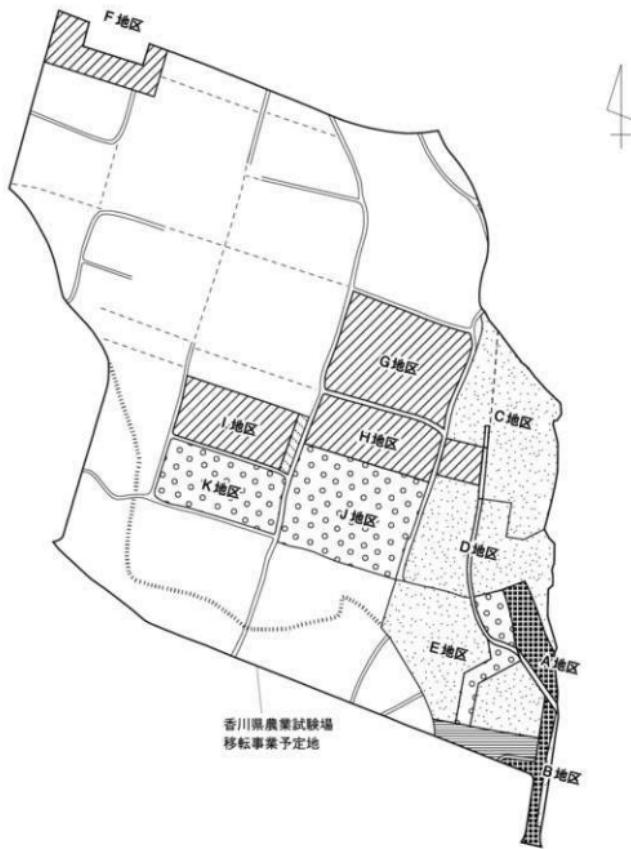
調査区全体の図化は、平成14年度は全面を、平成15年度以降は遺構密度の高い地域に限り、業者に



第1図 遺構位置図



第2図 グリッド割図



第3図 年度別地区割図

委託して航空測量を実施し、1/100・1/50の縮尺で図化した。また、平成15年度以降の航空測量の対象外の区域と主要な遺構については、トータルステーションによる測量及び手描きの実測などにより対応した。対象地内に設置する基準点については対象地内の数地点に限り測量業者に委託し設置した。なお、本報告にあたり、挿図類に表示される座標は世界測地系に変換している。

2 調査区の設定

事業予定地は綾川町山田下・北（旧綾上町山田下および旧綾南町北）で、綾川の北岸段丘上面に位置する。県道278号線を北限とし、南限は綾川の氾濫原まで、東限は東辺に所在する南北丘陵（末則丘陵）まで、南北約450m、東西約400mを測り、面積は約18haを測る。調査対象地は、予定地の南東部に位置する末則丘陵西斜面とそこから広がる平坦面を中心とした地域と、予定地北西隅部の県道278号線に接した飛び地状の地域とに分かれる。（第3図）

調査区の設定としては、調査対象地の面積がかなり広いため、まず、対象地をA～K地区までの11地区の大区画（以下地区と称す）に区分した。また、調査を進める都合上、地区内をさらに小区分した（以下調査区と称す）。調査区名は、原則各調査区内に位置する最も南東隅に近い交点名を用いた。したがって、例えばB-2という交点が調査区内の最も南東隅に存在する場合、その調査区名はB2区と呼称されることになる。これは、農業試験場用地内の発掘調査が複数年次にまたがり、調査区も全面ではなく局所的に設定される可能性もあり、調査区名によって大まかな位置が把握できることを目的としたものである。

3 整理作業の方法

本遺跡は、広大な調査対象地を数カ年にわたり、複数パーティーで調査を実施してきた関係上、相当数の職員が調査に関与し、複雑な小区画が多数存在することになり、全体像を把握しにくい状況となっている。整理作業に関しては、調査時での区画割のとおりに整理の範囲が確定できない問題と、発掘調査の担当者が必ずしも整理作業まで担当できるとは限らない人事上の問題等があり、整理作業を順調に進めるため、後年次に及ぶ整理計画を作成し、作業を進めることとした。

4 整理区画の設定

計画的に整理作業を進め、記載事項の混乱を防ぐ目的で、発掘調査時でのA～K地区までの区画とは別に、新たに整理作業用の区画割を設定した。なお、この区画は次年度以降の状況を考慮して、適宜改変することを前提としたものである。

今年度の整理対象地区は整理区画で言えば「c地区」にあたり、平成14年度に調査を実施し本書で報告するE地区（G8・G10区）にあたる。このように西末則遺跡は、発掘調査が複数年度にわたり、調査区も各年度単位で細かく分かれている。そのため、発掘調査と整理作業の担当者が異なる場合があり、こうした状況から整理作業に混乱が生じる恐れが予測できたため、各調査区をもとにした整理区画を設定し、これに基づいて整理作業を実施することとした。（第4図）



第 4 図 調査区割図

5 報告遺構名の呼称法

発掘作業で付された個々の遺構の名称は、各調査区単位に適宜付された遺構名のため、異なる遺構に同一名称を与えている事例や、複数の調査区にまたがる同一の遺構に複数の遺構名が与えられている事例などがあり、また、遺構内容と照らし修正すべき遺構名等が含まれる。

報告書刊行時には、数ブロックに分割した整理区画と遺構の種類を単位として、ピット以外については「001」、ピットについては「001」から始まる通し番号をそれぞれ貼付することにより再整理を行うものとした。さらに、各整理区画を明確にすることと、番号の混乱を防ぐことを目的として、遺構略称中に整理区画記号を記入し報告することにした。(例：SBc001)

第2節 調査体制と整理体制

1 調査体制

平成14年度の調査は財団法人香川県埋蔵文化財調査センターの直営によって実施し、平成14年度は調査員2名、調査技術員1名の3人1班が通年の体制で行った。

なお、調査体制の詳細は『西末則遺跡I』に詳述されているので、そちらを参照されたい。

2 整理作業

整理作業は平成24年度に香川県埋蔵文化財センターが実施した。c地区出土遺物のうち、本書で報告するE地区（G8・G10区）は土器・石器・金属器を合わせて83箱にのぼる。整理期間は平成24年4月から平成25年3月までの1年間であり、整理作業の体制は第1表のとおりである。

第1表 平成24年度整理作業体制一覧表

香川県教育委員会 生涯学習・文化財課	香川県埋蔵文化財センター
統括	統括
課長 矢井 宏秋	所長 藤好 史郎
副課長 木虎 淳	次長 真鍋 正彦
秘務・生涯学習推進グループ	秘務課
副主幹 松下 由美子	秘務課長（兼務） 真鍋 正彦
主任 白川 弘二	副主幹 林 文夫
文化財グループ	主任 宮武 ふみ代
課長補佐 西岡 達哉	主任 中川 美江
主任文化財専門員 森下 英治	主任 高木 秀哉
文化財専門員 松本 和彦	資料普及課
	資料普及課長 森 格也
	文化財専門員 小野 秀幸
	嘱託 大林真沙代
	嘱託 岡崎江千子
	嘱託 北瀬 敦子
	嘱託 加藤 恵子

第2章 調査の成果

第1節 調査区の概要

本報告書では、調査時に設定した大区画のE地区の一部を扱う。E地区は西末則遺跡の南半部に位置し、その中でも西側1/3程度が対象である。調査時の小区画名でG8区(1,011m²)とG10区(1,531m²)の部分で、本文では遺構の位置を記述する際に一部この小区画名を使用している。すぐ西側は調査対象地外となるが、これは綾川によって形成された河岸段丘の段丘崖が存在しており、崖下には遺構が展開しなかったことによる。現況は平坦な耕作地である。

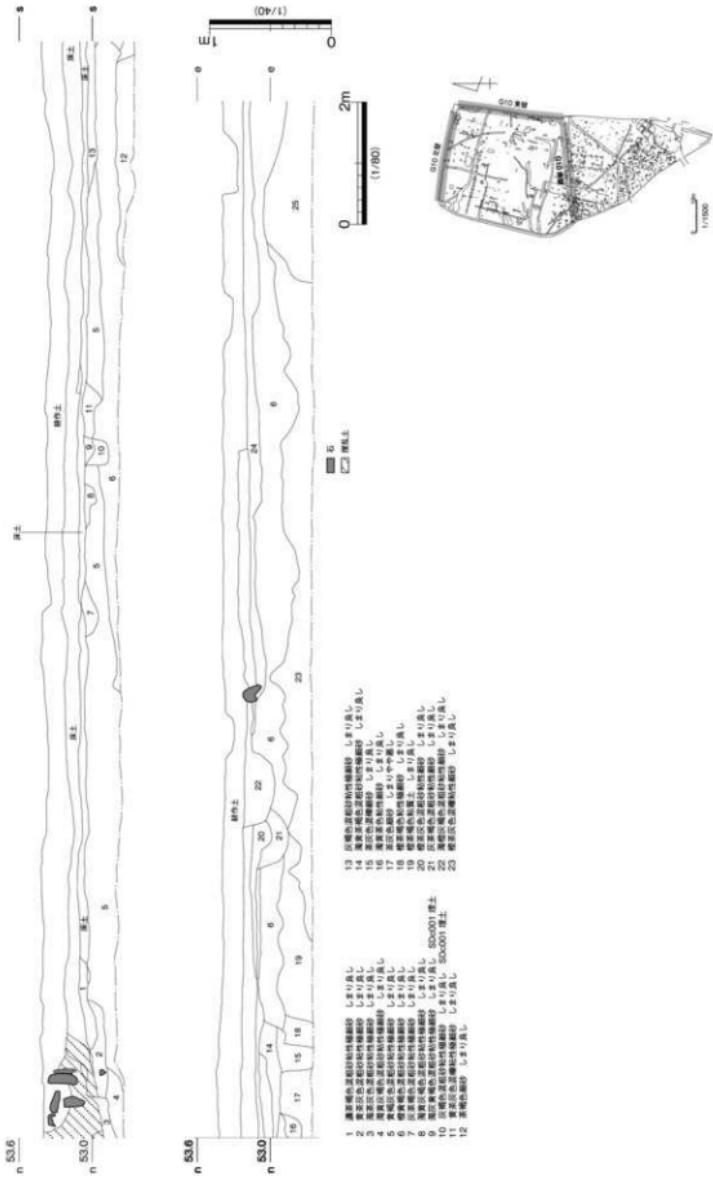
第2節 E地区

1. 基本土層序

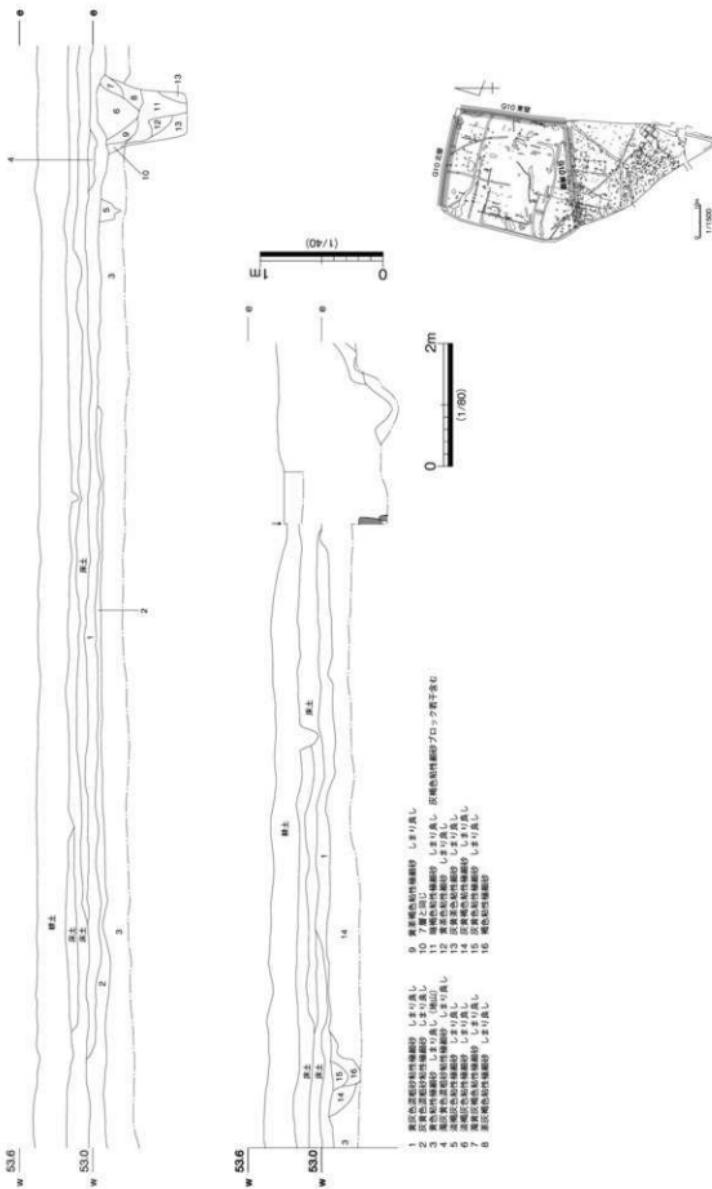
今回の調査対象地における基本土層序については、第5～7図のとおりである。

報告する範囲は、耕作土直下で遺構面を確認した。後世の削平の影響は顕著であり、耕作土面で柱穴の存在が分かる箇所すら確認できた。遺構面は黄褐色系粗砂混じり粘性シルトを基調とする。局所的な変化を除けば、1. 耕作土、2. 床土、3. 黄褐色系粗砂混じり粘性シルトの順である。

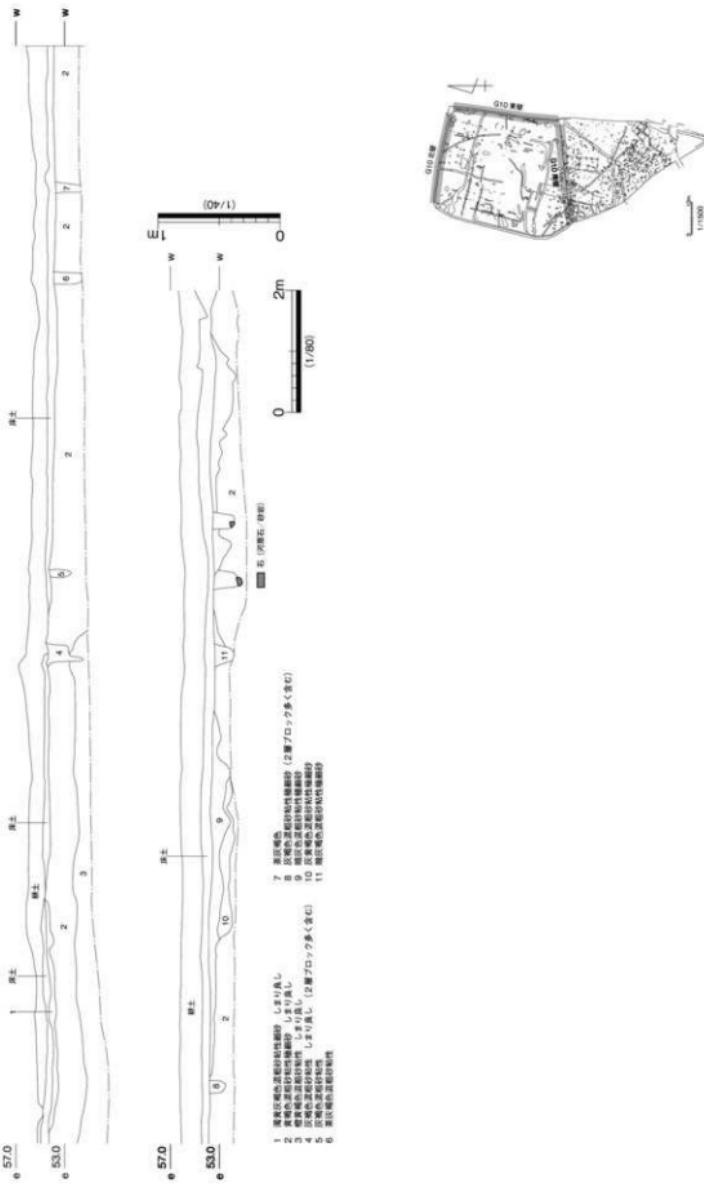
第5図 G10区東壁土層断面図 (縮1/40・横1/80)



第6図 G10区北壁土層断面図 (縦1/40・横1/80)



第7図 G10区南壁土層断面図 (縮1/40・横1/80)



2. 遺構と遺物

掘立柱建物跡

SBc001

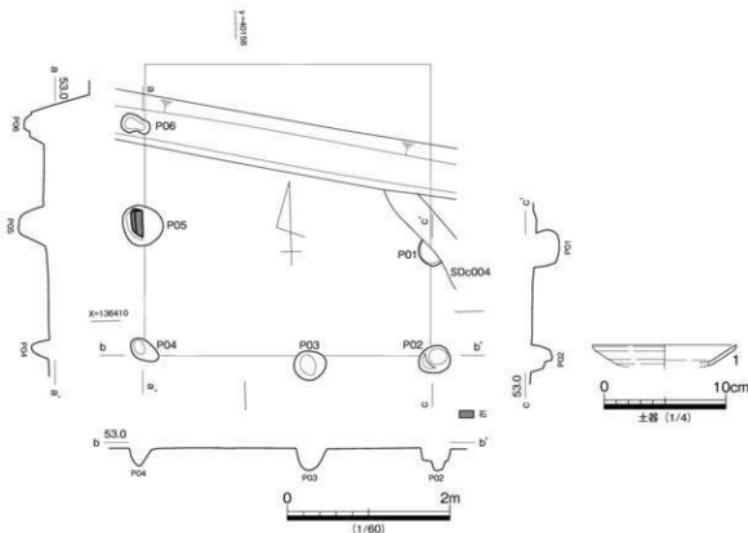
G 10 区 (11 F・G グリッド境界中央) で検出した。梁間 280 m (2 間) × 柱行 3.50 m (2 間) の東西棟として復元し、床面積 9.8m²を測る。主軸方位は N 89° W を測る。北側が調査区外へ延びる可能性もあり、詳細な規模については不明である。

出土遺物は多くはないが、柱穴 P03 から出土した土師器皿 1 の形状から概ね 11 世紀代の遺構である。

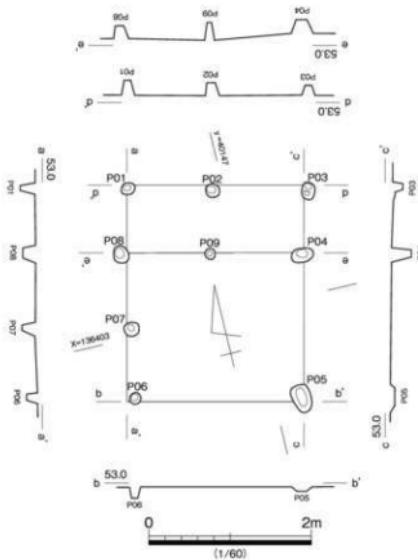
SBc002

G 10 区 (11 G グリッド南半中央) で検出した。梁間 220 m (2 間) × 柱行 2.70 m (3 間) の南北棟で、床面積 5.94m²を測る。主軸方位は N 14° E を測る。

出土遺物は小片が中心で詳細は不明であるが、須恵器・土師器が認められる。遺構埋土や主軸方位から概ね中世の遺構である。



第8図 SBc001 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

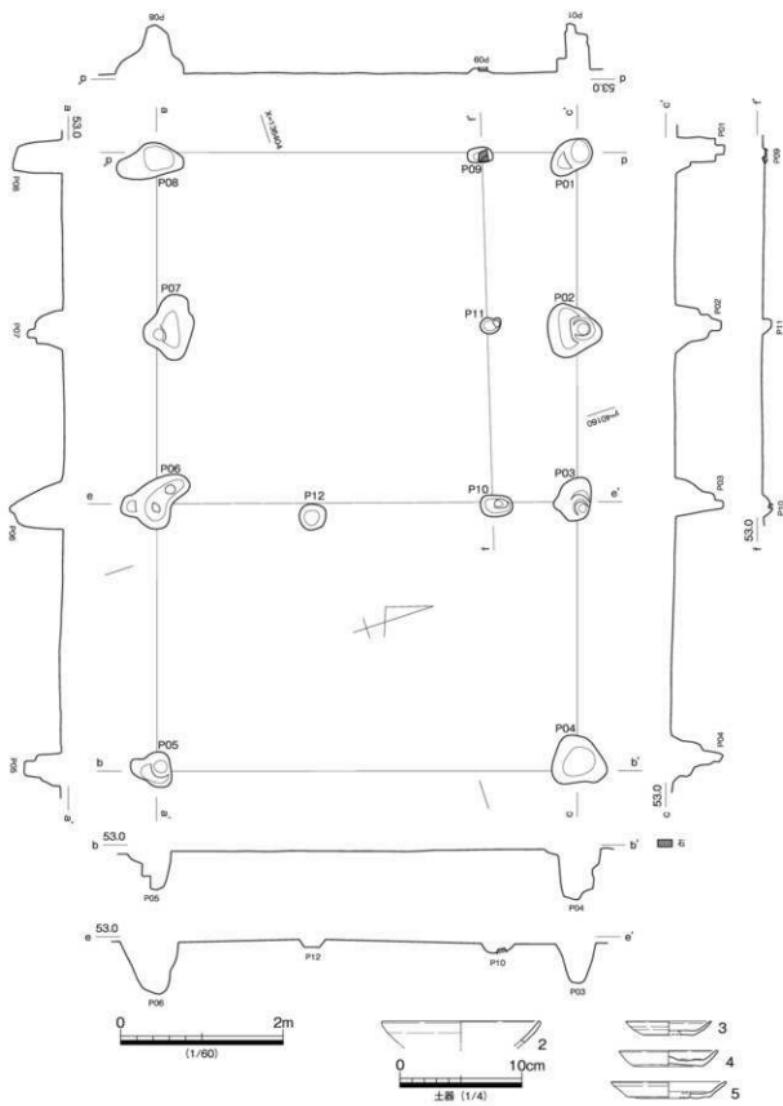


第9図 SBc002 平・断面図 (1/60)

SBc003

G 10 区 (11 F・G グリッド境界中央) で検出した。梁間 5.20 m (2 間) × 衍行 7.60 m (3 間) の南北棟で、床面積 39.52 m²を測る。主軸方位は N 72° W を測る。柱間の間隔がやや不規則であり、東辺の柱筋は大きく間隔が広がる。北辺・南辺の柱筋が通ることから同一の建物の中に含めた。大型の柱穴の範囲内には間仕切り構造を作るためと考えられる小型の柱穴が認められる。なお、大型の柱穴の形状は歪であり、抜き取りなどの行為が想定できる。また、埋土中に焼土塊を多量に含むものがあり、火災に伴う片付けなどの行為があった可能性が考えられる。

出土遺物は小片を中心である。3・4 は土師器小皿、5 は黒色土器小皿、2 は須恵器杯である。出土遺物から概ね 14 世紀頃のものである。



第10図 SBc003 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

SBc004

G 10 区 (11 F グリッド南半中央) で検出した。梁間 3.70 m (2 間) × 衍行 9.90 m (7 間) の南北棟で、床面積 36.63m² を測る。主軸方位は N 18° W を測る。隣接する SBc003 と主軸方位が揃うことから時期的に近接したものと考えられるが、両者の間隔が 1 m ほどと狭いため、共時的な存在は考えにくい。

出土遺物は小片が中心で詳細は不明であるが、須恵器・土師器などが認められる。図示したものは土師器杯・皿である。出土遺物から概ね 14 世紀頃のものである。

SBc005

G 10 区 (10・11 G グリッド境界西半) で検出した。梁間 4.20 m (2 間) × 衍行 7.30 m (3 間) の東西棟に 1.20 m (1 間) × 5 m (2 間) の庇が北面に取り付く構造として復元した。床面積は庇とした部分を含めると 36.66m² を測る。主軸方位は N 73° W を測る。北西隅に本来柱穴があったかどうかについては、現地で十分検討できていない。身舎部分の柱穴の深さに比べ、庇の可能性がある柱列の残存状況は不良で、北西隅のものは削平により消滅した可能性もある。

出土遺物は稀薄で小片を中心とするため、詳細は不明であるが土師器を認める。主軸方位が揃うことから、SBc004 と概ね同一の時期である。

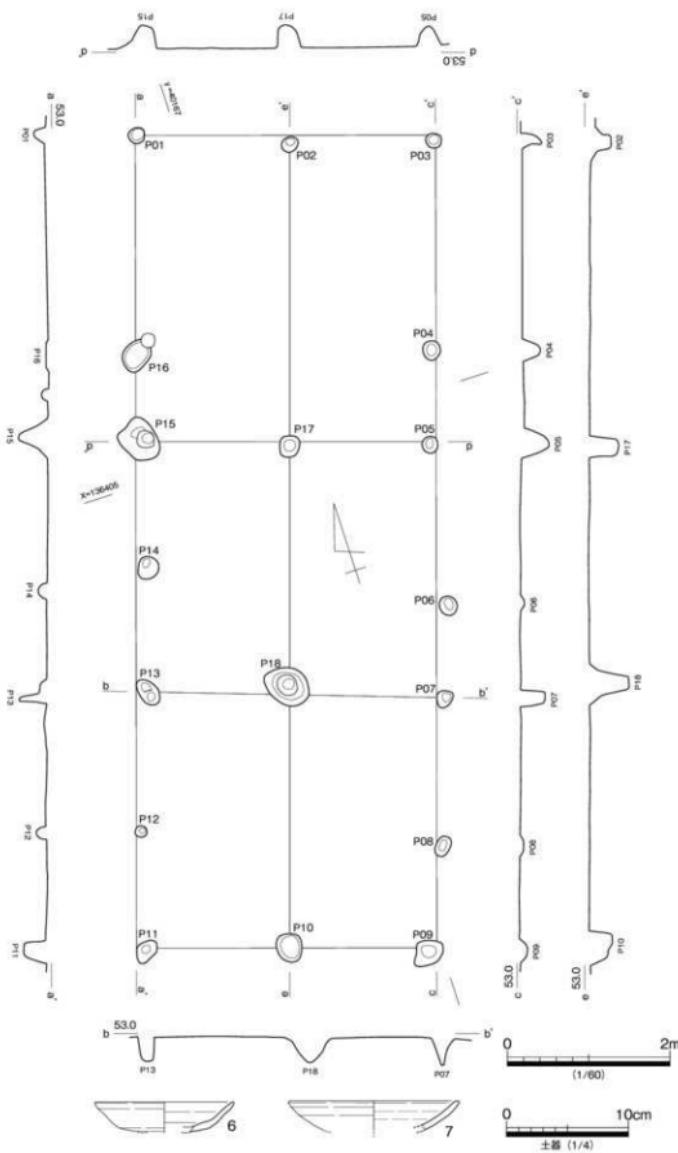
SBc006

G 10 区 (9 G グリッド北西隅付近) で検出した。身舎部分の規模は梁間 4.30 m (2 間) × 衍行 6.50 m (3 間) で床面積 28.6m² を測るが、北側と西側に庇が付く構造と見られ、この部分を面積に含めると、梁間 6.60 m × 衍行 8.70 m、床面積 58.08m² を測る南北棟の大型建物に復元できる。柱間は概ねいずれも芯心間距離で 2.15 m を測り、規格性の高い建物である。主軸方位は N 10° E を測る。概ね一辺 0.5 m 程度の隅丸方形の掘方を持つ柱穴からなる。柱根の認められるものが若干存在するほか、沈下防止の根固めとして砂岩の扁平蝶を柱穴底部に敷くものが認められる。なお、埋土の中に焼土塊を含む柱穴が存在する。建物の南西隅が対象地外の段丘崖によって削られている。

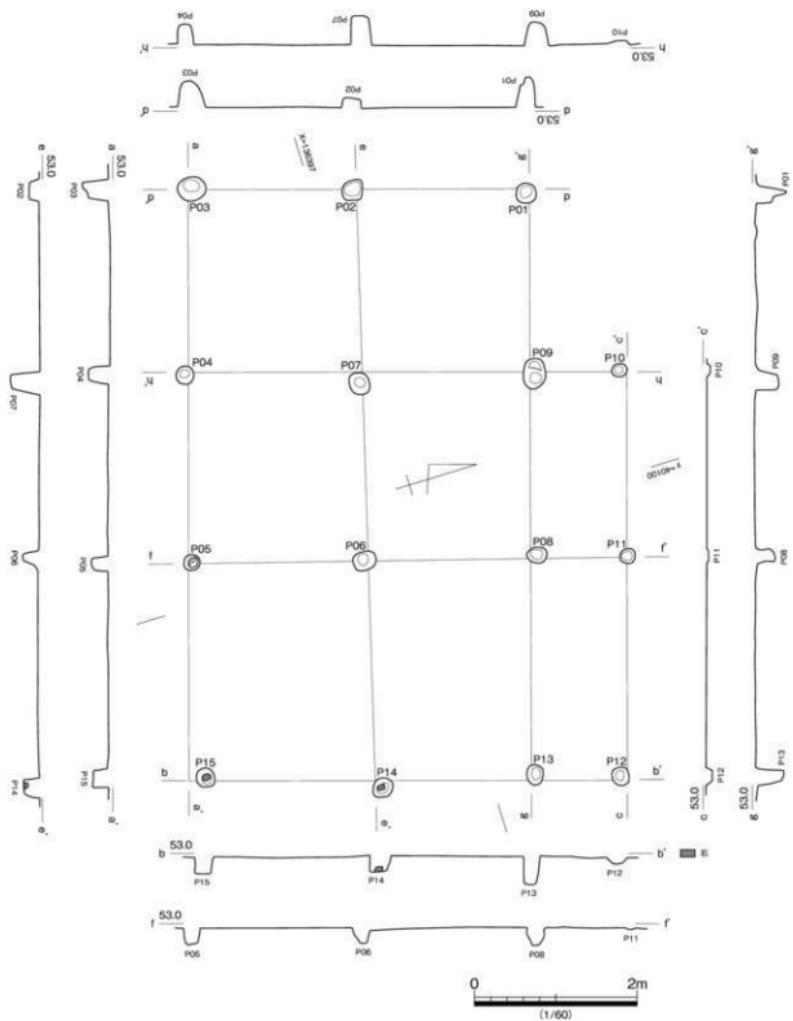
出土遺物は、8～18 が須恵器、19～23 が土師器である。いずれも小片が中心で概ね 8 世紀のもので同時期の遺構である。特筆する点として、柱穴 P04 からは炭化した桃の種が出土している。

SBc007

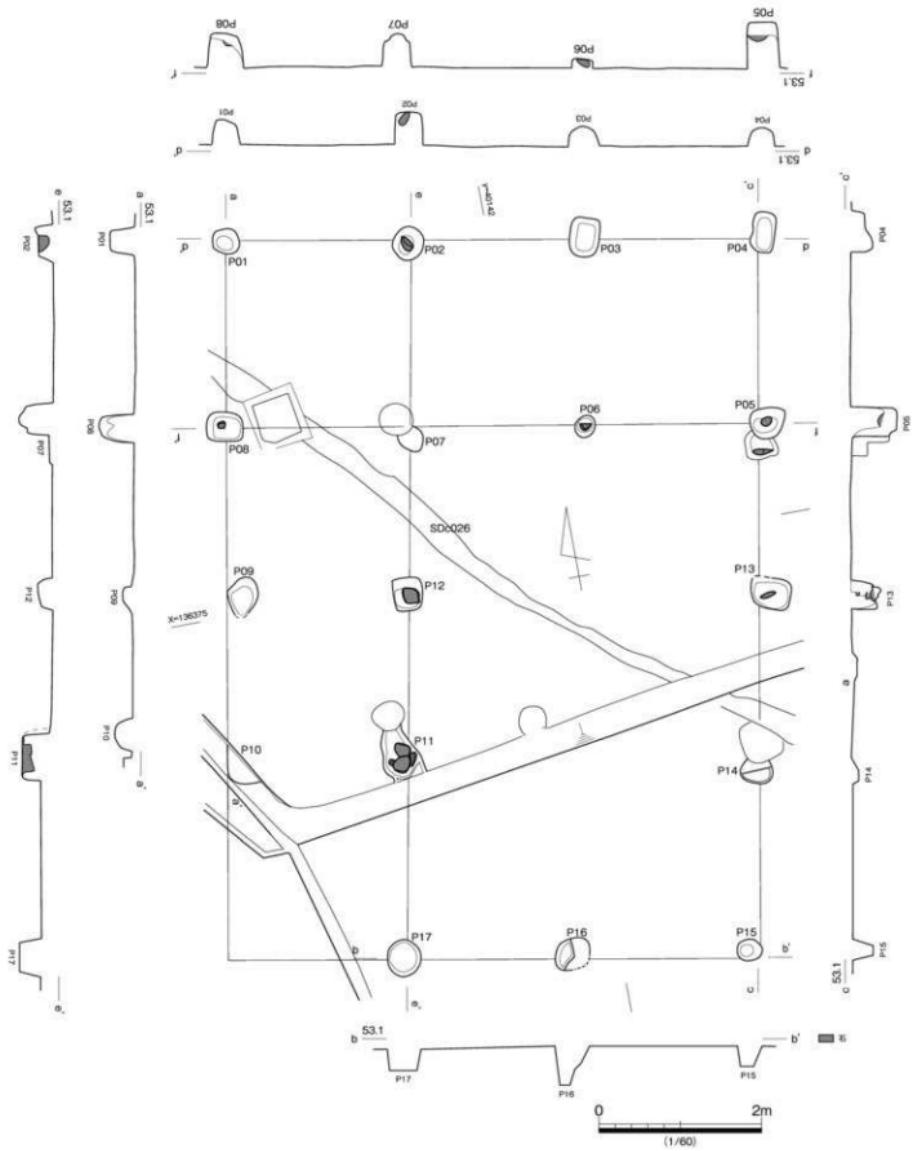
G 10 区 (9 H グリッド北東隅) で検出した。大半が対象地外へ延びており詳細は不明であるが、現状では梁間 2 m (1 間) 以上 × 衍行 2 m (1 間) 以上の規模で確認できる。柱間は芯心間距離で約 2 m を測る。主軸方位は N 82° W を測る。対象地内外の境界は河岸段丘によって画されており、浸食作用で建物跡が削除された状態である。P03 から小片ながら土器がまとまって出土しており、須恵器皿・杯、土師器杯、黒色土器碗が認められるが、図化出来たのは 24 の須恵器杯のみである。遺物から概ね 10 世紀代の遺構である。



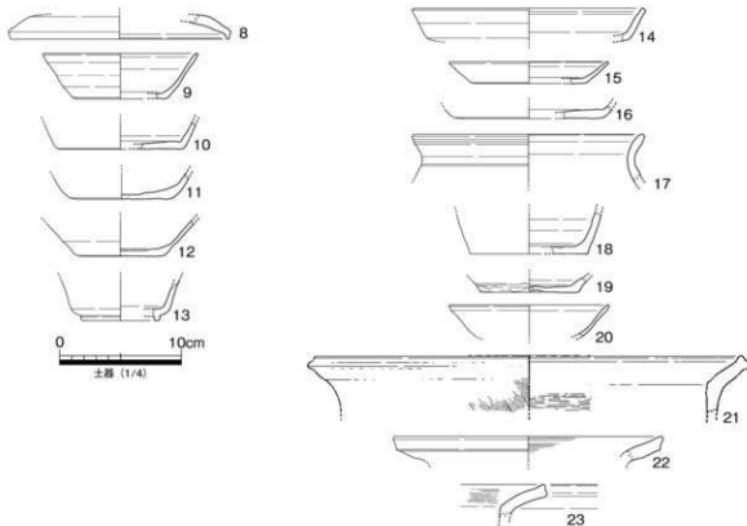
第11図 SBc004 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)



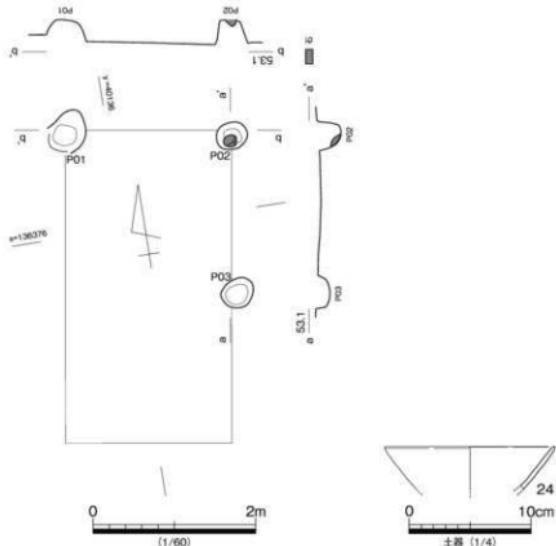
第12図 SBc005 平・断面図 (1/60)



第13図 SBc006 平・断面図 (1/60)



第14図 SBc006出土遺物 (1/4)



第15図 SBc007平・断面 (1/60)、出土遺物 (1/4)

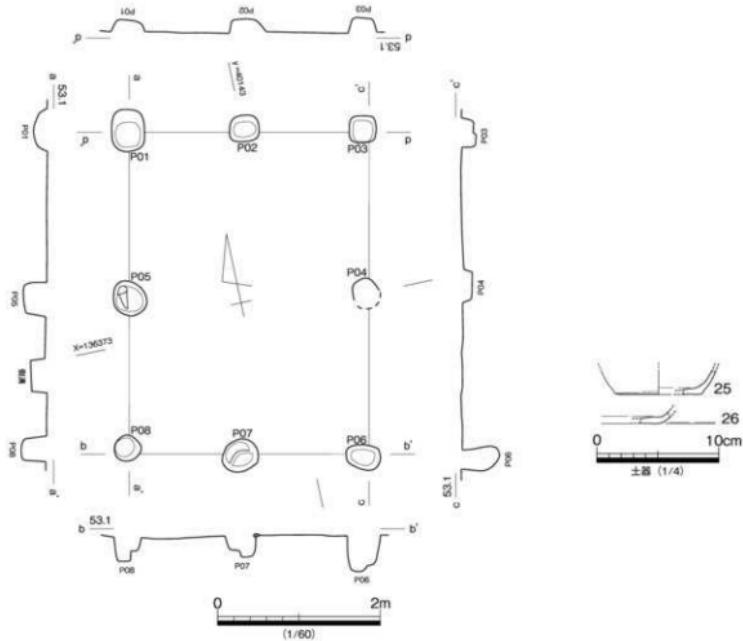
SBc008

G 8 区と G 10 区の境界部分（9 G グリッド北西隅）で検出した。SBc006 の身舎の範囲内と重複する。梁間 2.90 m（2 間）× 衍行 3.90 m（2 間）で床面積 11.31m²を測る南北棟の建物跡として復元できる。柱間は梁間と衍行で異なり、芯心間距離で梁間側では約 1.5 m、衍行側では約 2 m を測る。主軸方位は N 12° E を測る。25・26 は須恵器杯である。古代の遺構である。

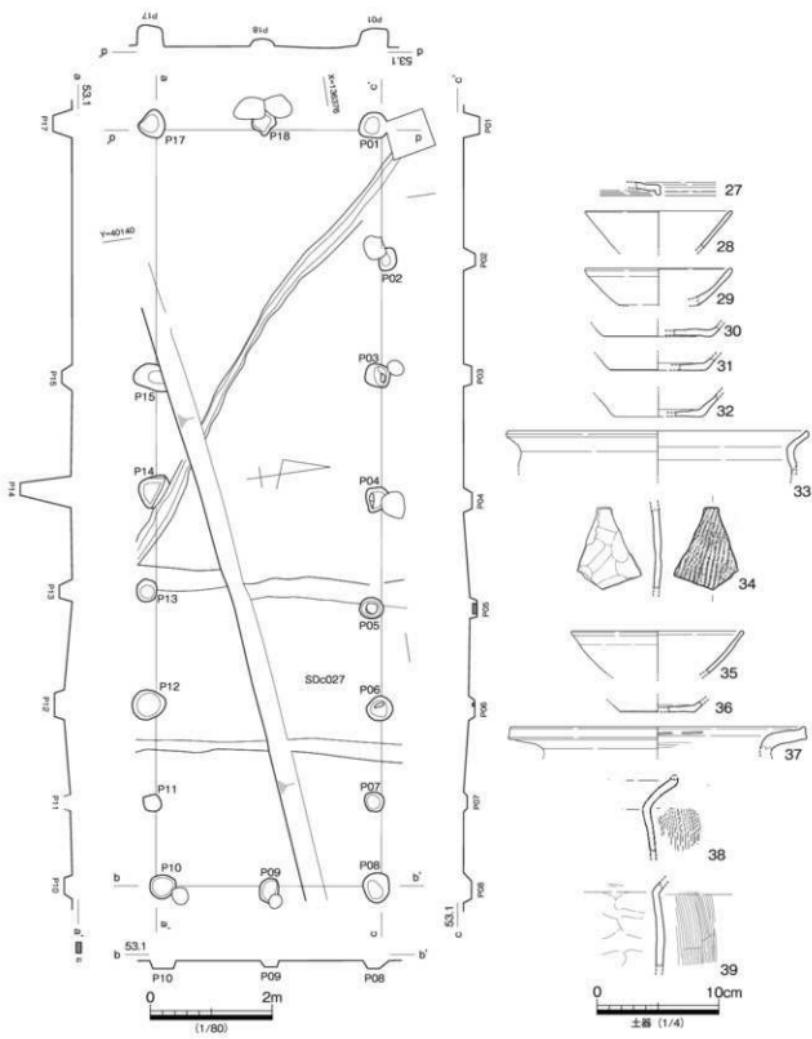
SBc009

G 8 区と G 10 区の境界部分（9 G グリッド北西隅）で検出した。梁間 3.70 m（2 間）× 衍行 12.4 m（7 間）の東西棟で、床面積 45.88m²を測る。柱間は芯心間距離で 1.7 ~ 2 m と幅を持つ。主軸方位は N 82° W を測る。当初西側の柱列が SBc007 と方向と柱間がほぼ揃うことから、底として復元していたが、他の柱穴を含め今回再検討し、現状の建物に復元し直した。その結果、SBc007 と主軸方位を同じくし、北壁が一直線に揃う 1 組の建物群と見ることが出来る。両者の間隔は 1.4 m とやや狭いため、同時並存ではなかった可能性もある。

各柱穴から須恵器 27 ~ 34、土師器 35 ~ 39、図化出来なかったが黒色土器などが出土しており、特に P18 からは完形に近いものがまとまっている。概ね 9 世紀後半代のものである。



第 16 図 SBc008 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)



第17図 SBc009 平・断面図 (1/80)、出土遺物 (1/4)

その他の柱穴から出土したものも概ね同時期のもので古代の遺構である。

SBc010

G 10 区（9 G グリッド北西隅）で検出した。北側の柱列が不明瞭であることから、全体の規模は不明であるが、梁間 1.20 m（1 間）以上×桁行 8.80 m（5 間）の東西棟で、床面積 10.56m²以上を測るものと考えられる。柱間は 1.2 ~ 2.2 m とばらつきが認められる。主軸方位は N 82° W を測る。古代の遺構である。

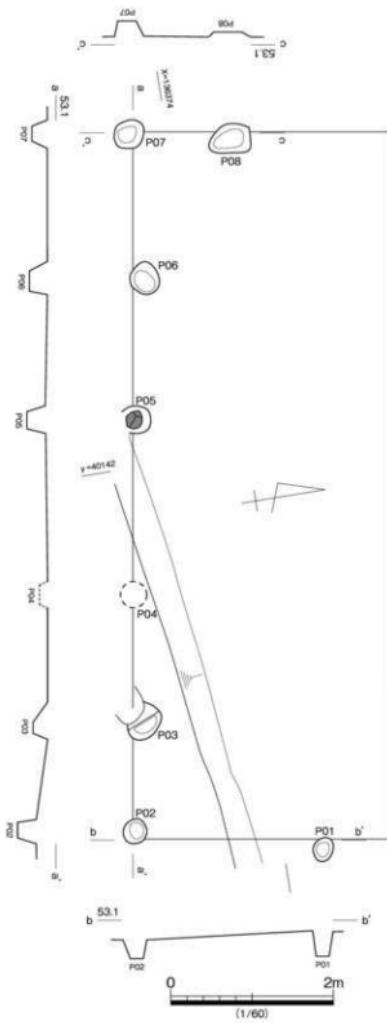
SBc011

G 8 区と G 10 区の境界部分（9 G グリッド北辺中央）で検出した。梁間 3.60 m（2 間）×桁行 8.30 m（5 間）の東西棟で、床面積 29.88m²を測る。柱間は 1.4 ~ 2 m とばらつきが認められる。主軸方位は N 81° W を測る。南辺の柱穴列に欠落が認められる。40 ~ 42 は須恵器、43 は土師器杯である。古代の遺構である。

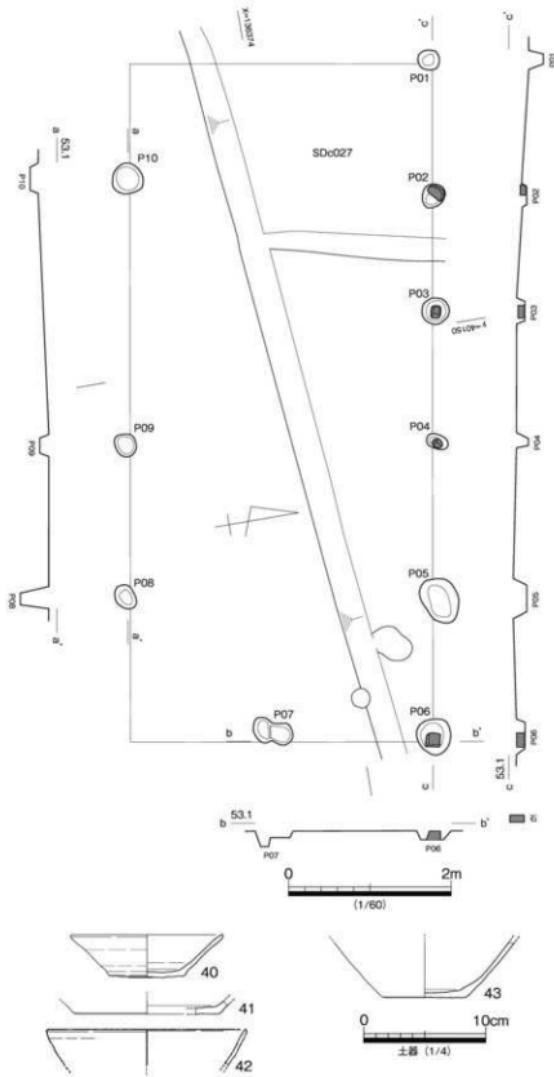
SBc012

G 8 区（9 G グリッド中央付近）で検出した。梁間 3.80 m（2 間）×桁行 5.30 m（3 間）の南北棟で、床面積 20.14m²を測る。主軸方位は N 8° E を測る。SKc015・SDc027 に切られており、これに先行する遺構である。

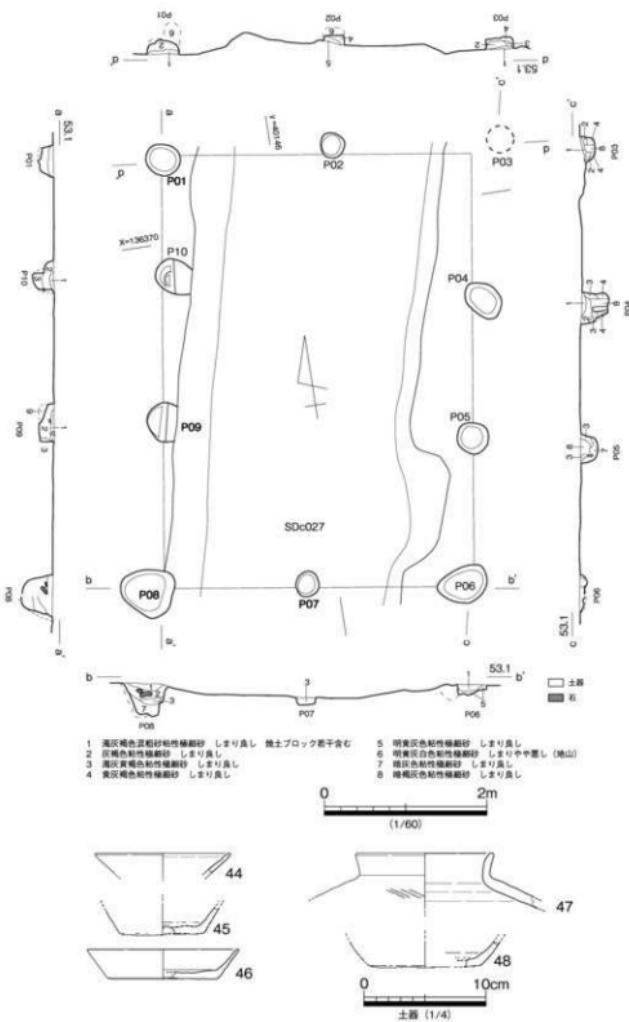
出土遺物は須恵器・土師器を中心とするが小片である。須恵器杯 44・45・48 は P09 の出土、46 の須恵器皿は P05 の出土、47 の須恵器壺は P08 の柱痕部分から出土している。遺物は概ね 9 世紀に帰属し、同時期の遺構である。



第18図 SBc010 平・断面図 (1/60)



第19図 SBc011 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

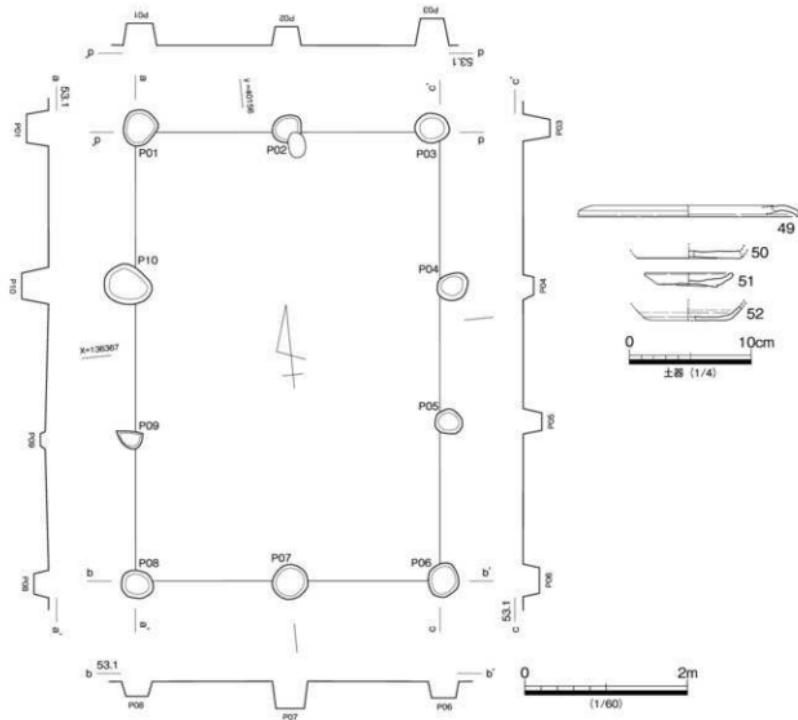


第20図 SBc012 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

SBC013

G 8 区(9 G グリッド東辺中央付近)で検出した。梁間 3.70 m(2 間) × 柱行 5.50 m(3 間)の南北棟で、床面積 20.35m²を測る。主軸方位は N 5° E を測る。SKc003に切られており、これに先行する遺構である。

出土遺物は須恵器・土師器を中心とするが小片である。49 は須恵器蓋で P03 から、50 は須恵器杯で P05 から、52 は回転台土師器杯で P06 からそれぞれ出土している。P02 から出土した 51 の土師器小皿はこれを切るビットからの混入と見られる。52 から概ね 10 世紀代の遺構である。

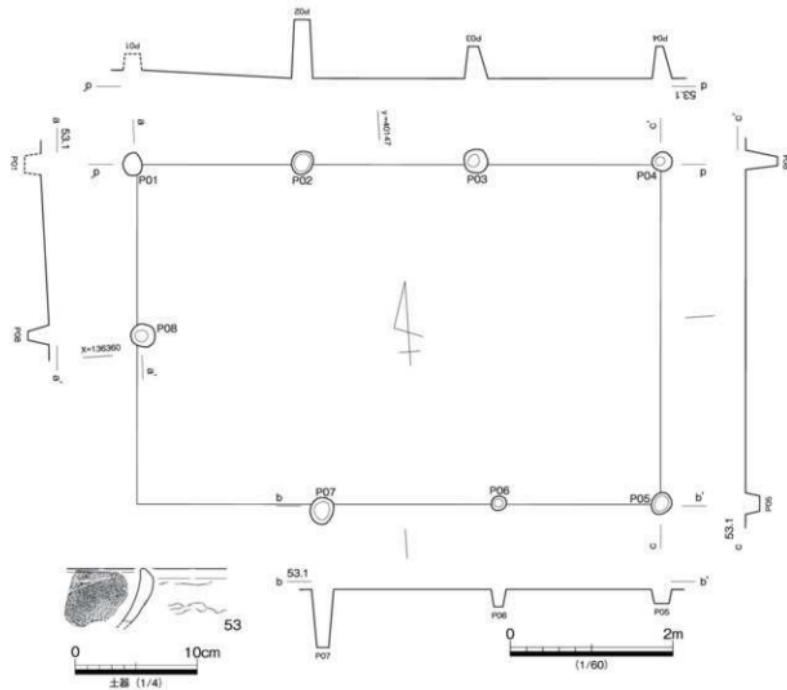


第 21 図 SBC013 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

SBC014

G 8 区 (9 G グリッド南半中央) で検出した。梁間 4.20 m (2 間) × 桁行 6.40 m (3 間) の東西棟で、床面積 26.88 m² を測る。主軸方位は N 86° W を測る。

出土遺物は小片を主体とし、須恵器擂鉢のほか土師器小皿・足釜を含む小片が認められる。また、53 は小片ながら土師器の擂鉢で内面に 4 条の卸目を伴う。口縁端部の形状のみで判断しているため、詳細は不明であるが、概ね 15 世紀中頃から 16 世紀にかけての所産と考えられ、同時期の遺構である。

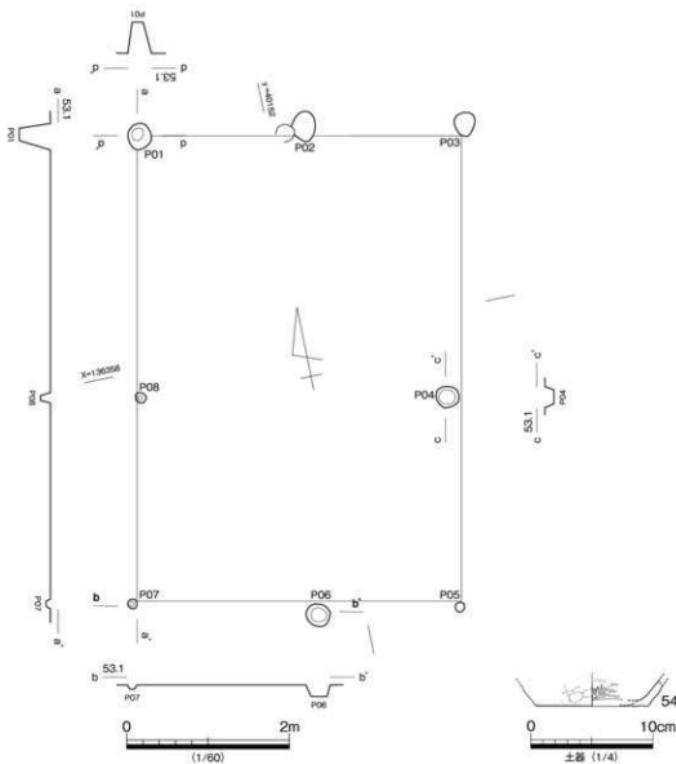


第 22 図 SBC014 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

SBc015

G 8 区（8 G・9 G グリッド）で検出した。梁間 4 m（2 間）× 柱行 5.70 m（2 間）の南北棟で、床面積 22.8m²を測る。主軸方位は N 115° E を測る。

出土遺物は小片を主体とし、詳細は不明である。須器壺及び土師器小皿を含む小片が認められる。54 は P03 から出土した土師器の擂鉢の底部片で、概ね 13 世紀から 14 世紀頃のもので同時期の遺構である。

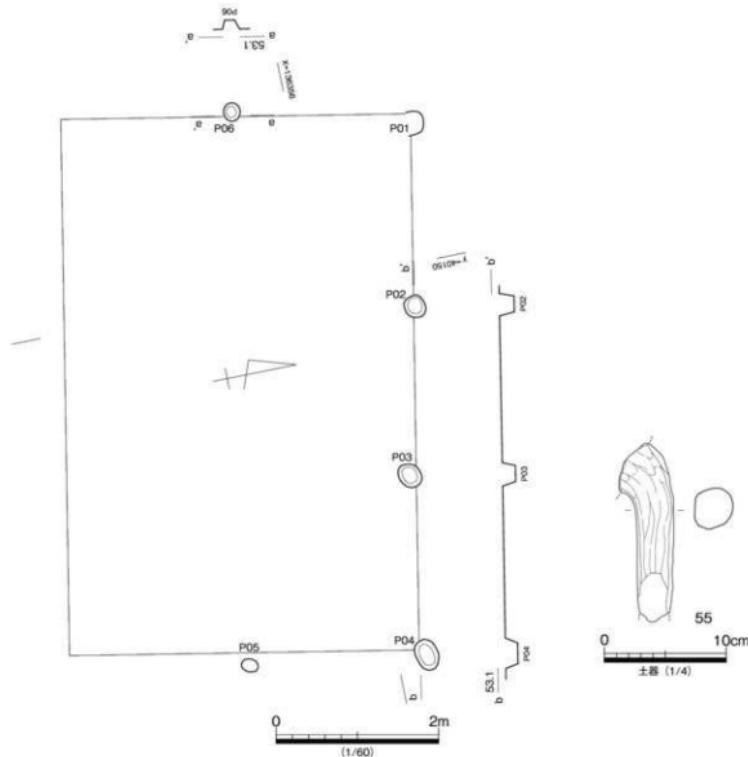


第23図 SBc015 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

SBc016

G 8 区（8 G グリッド北端）で検出した。梁間 22 m（1 間）以上 × 衍行 6.50 m（3 間）以上の東西棟で、床面積 14.3m²以上を測る。主軸方位は N 80° W を測る。南半の柱列が残存しないことから、建物として成り立たない可能性がある。

出土遺物は小片を主体とし、詳細は不明である。須恵器杯・壺を含む小片及び土師器杯を含む小片が認められる。55 は P03 から出土した土師器の足釜の脚部片であり、13世紀以降の所産である。なお図示していないが、P04 から鉄滓が出土している。中世の遺構である。

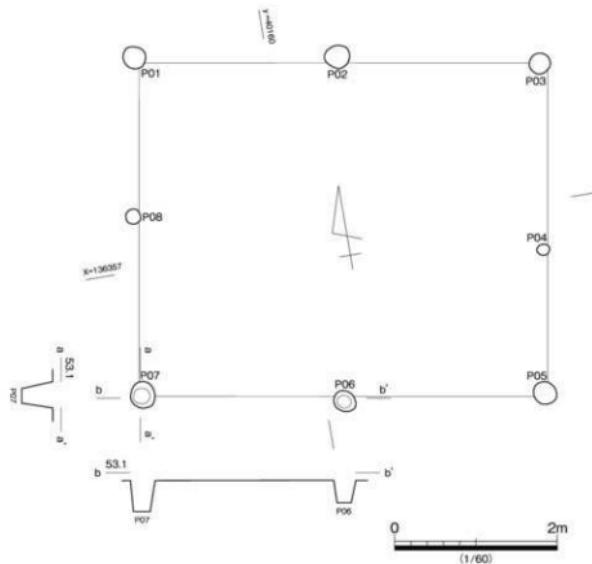


第 24 図 SBc016 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

SBc017

G 8 区（9 ラインと G ラインの交点付近）で検出した。梁間 4.1 m（2 間）× 衍行 5.0 m（2 間）の東西棟で、床面積 20.5m²を測る。主軸方位は N 80° Wを測る。

出土遺物は小片を主体とし、詳細は不明である。須恵器及び土師器土鍋を含む小片が認められる。また、図示していないが、P02 から青磁片が出土している。中世の遺構である。

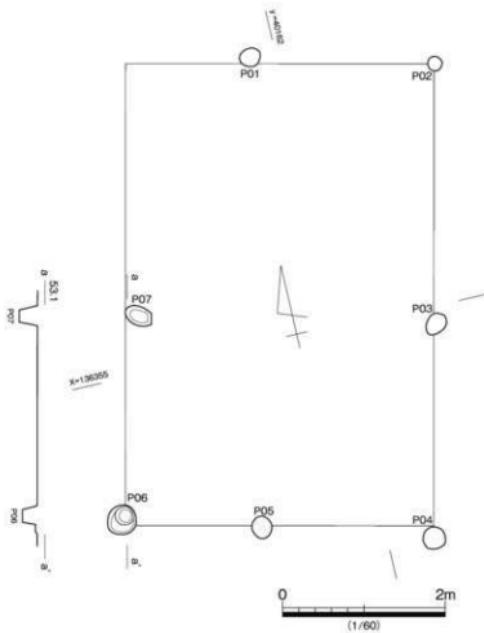


第 25 図 SBc017 平・断面図 (1/60)

SBc018

G 8 区（8 F グリッド北西隅付近）で検出した。梁間 3.8 m（2 間）× 衍行 5.7 m（2 間）の南北棟で、床面積 21.66m²を測る。主軸方位は N 13° E を測る。

出土遺物は小片を中心とし、中世の須恵器・土師器の小片が認められる。中世の遺構である。

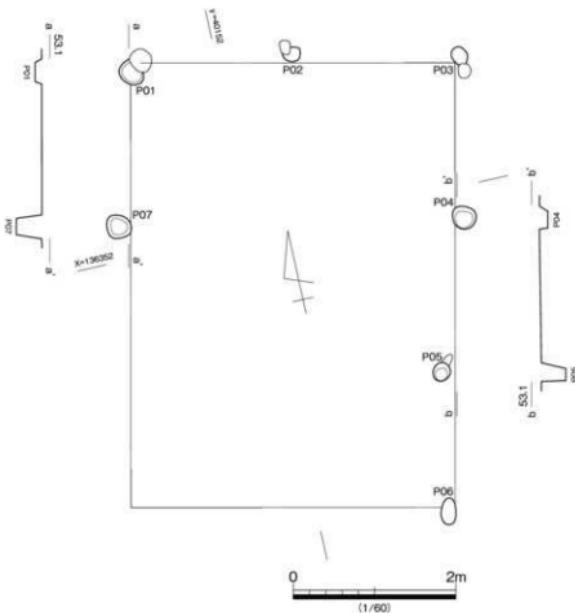


第 26 図 SBc018 平・断面図 (1/60)

SBc019

G 8 区（8 G グリッド北東隅）で検出した。梁間 4.0 m（2 間）× 衍行 5.4 m（3 間）の南北棟で、床面積 21.6m²を測る。主軸方位は N 125° E を測る。建物南西部の柱穴が確認できず、うち南西隅の柱穴は河岸段丘形成時に旧河川に削られた可能性がある。

出土遺物は小片を中心とし、須恵器梶を含む小片及び土師器擂鉢を含む小片が認められる。また、P05 からは焼土のみが出土している。中世の遺構である。

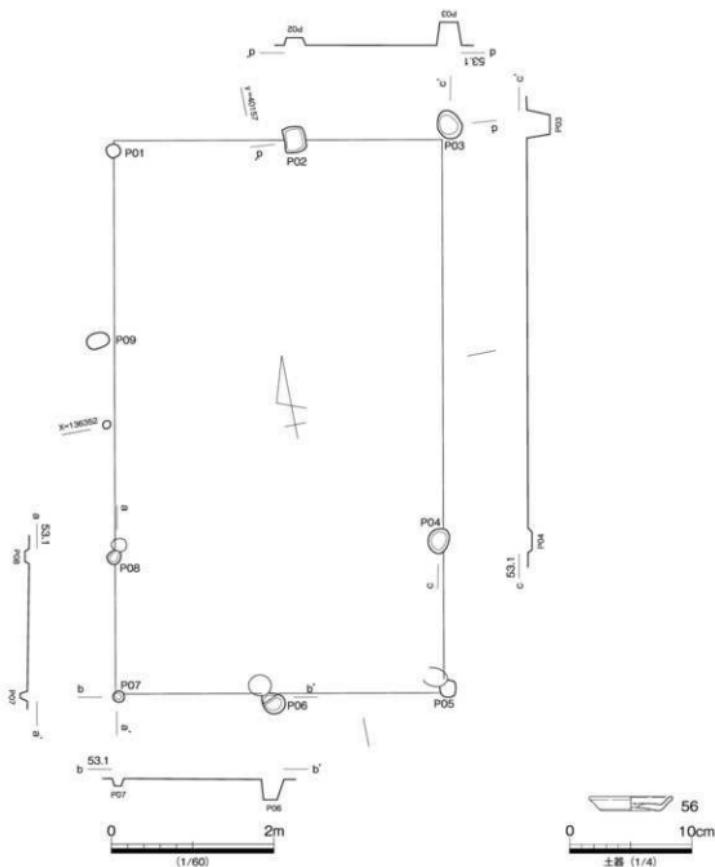


第 27 図 SBc019 平・断面図 (1/60)

SBc020

G 8 区（8 G グリッド北東隅）で検出した。梁間 4.0 m（2間）× 衍行 6.8 m（3間）の南北棟で、床面積 27.2m²を測る。主軸方位は N 11° E を測る。

出土遺物は小片を中心とし、56 は P06 から出土した土師器小皿である。中世の遺構である。

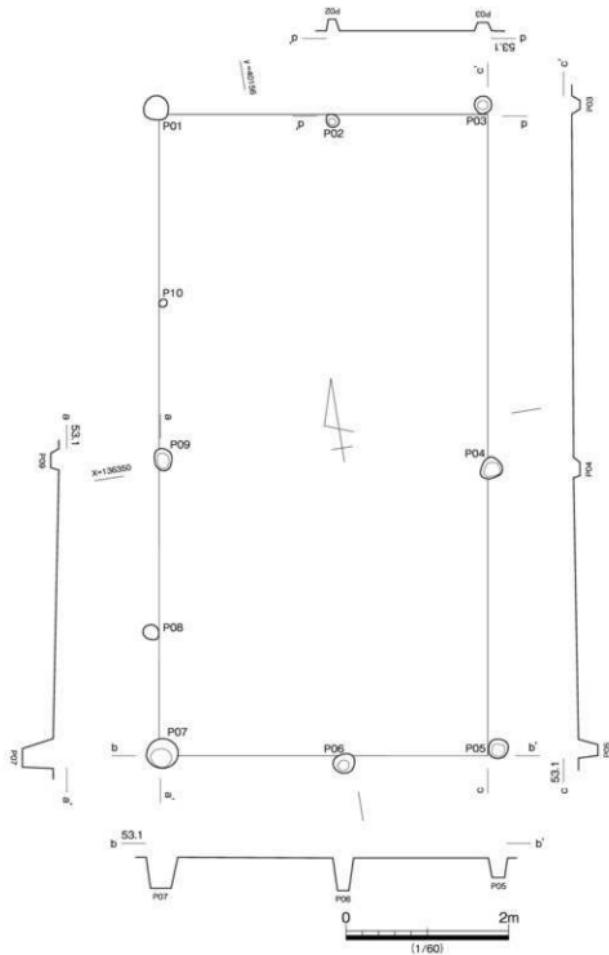


第28図 SBc020 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

SBc021

G 8 区（8 G グリッド北東隅）で検出した。梁間 4.0 m（2 間）× 衍行 7.8 m（4 間）の南北棟で、床面積 31.2m²を測る。主軸方位は N 125° E を測る。

出土遺物は須恵器や土師器の小片が中心である。P01 から焼土片が出土している。中世の遺構である。

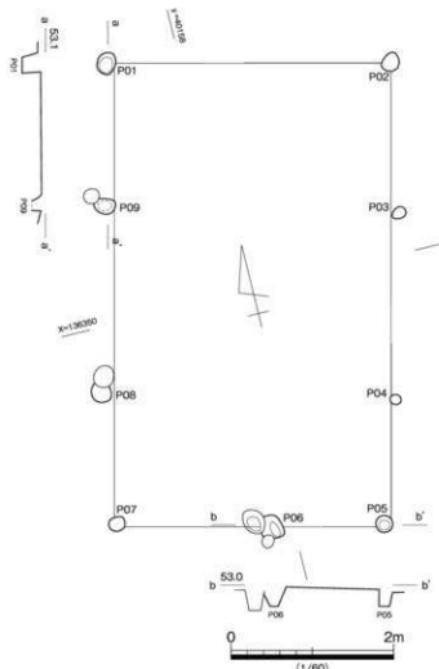


第29図 SBc021 平・断面図 (1/60)

SBc022

G 8 区（8 F グリッド中央）で検出した。梁間 3.4 m（2間）× 衍行 5.7 m（3間）の南北棟で、床面積 19.38m²を測る。主軸方位は N 13.5° E を測る。北辺中央の柱穴を STc002 によって削平されており、これに先行する建物であることが分かる。

出土遺物は小片を中心とし、須恵器・土師器・黒色土器などが認められる。中世の遺構である。

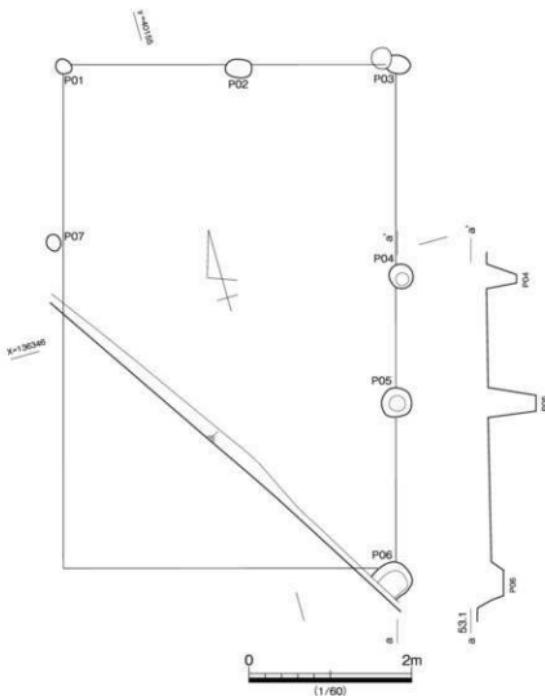


第 30 図 SBc022 平・断面図 (1/60)

SBc023

G 8 区（8 F グリッド中央）で検出した。梁間 4.1 m（2 間）× 衍行 6.2 m（3 間）の南北棟で、床面積 25.42m²を測る。主軸方位は N 16° E を測る。南西隅の柱が 3 基調査区外へ延びるが、段丘崖によつて削剥された部分に当たり、段丘崖形成前に立てられた建物である可能性がある。

出土遺物は小片を中心とし、須恵器杯・甕、土師器杯・小皿などが認められる。中世の遺構である。

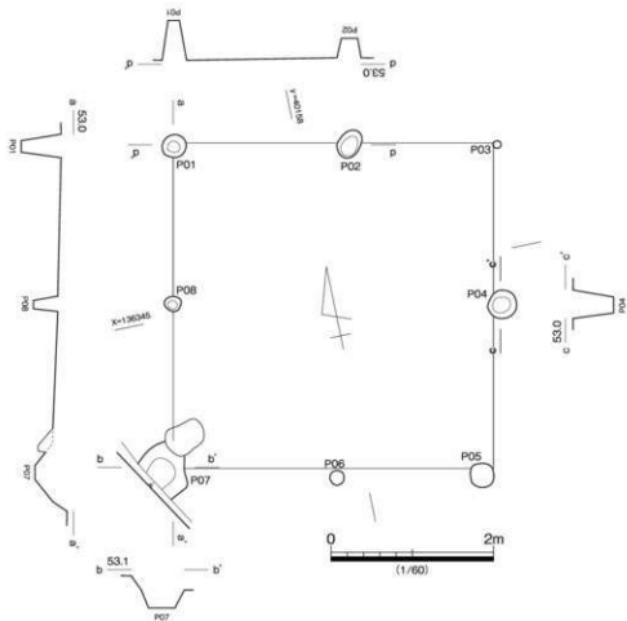


第 31 図 SBc023 平・断面図 (1/60)

SBc024

G 8 区（8 F グリッド中央）で検出した。梁間 3.9 m（2 間）× 衍行 4.0 m（2 間）の南北棟で、床面積 15.6 m² を測る。主軸方位は N 12° E を測る。

出土遺物は小片を中心とし、須恵器・土師器が認められる。中世の遺構である。



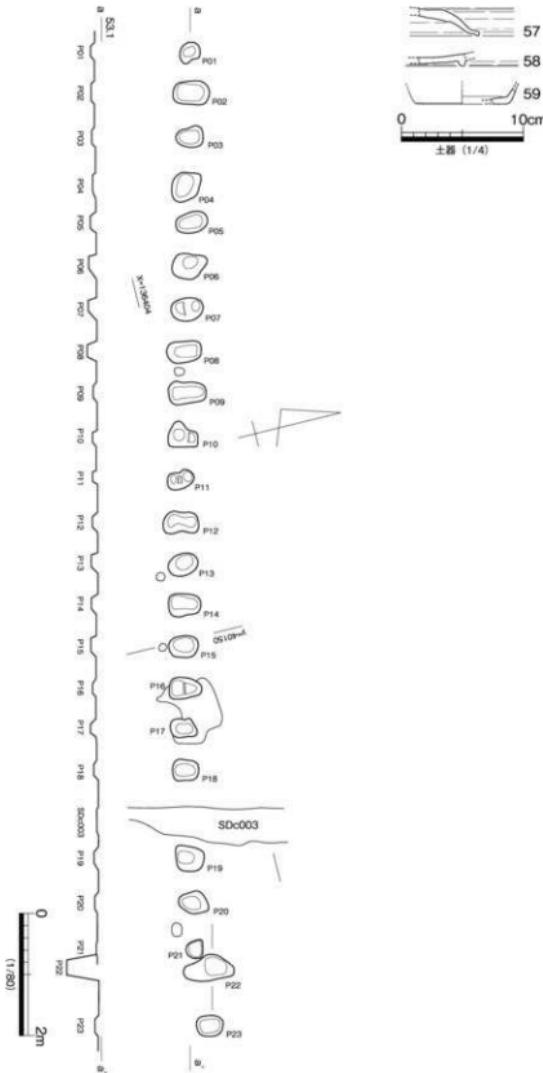
第 32 図 SBc024 平・断面図 (1/60)

柵列

SAc001

G 10 区（11 G グリッド北側）で検出した柵列である。21 穴で構成され全長 15.0 m、主軸方位は N 77° W である。柱穴は概ね 0.6 m 間隔であるが、東側の P18 と P19 の間のみ 1.4 m と広くなっている。この部分にはこの柵列と直交する SDc003 があり、この溝状遺構をまたぐために間隔が広くなっているのかもしれない。

57 は P20 から出土した須恵器蓋、58 は P10 から出土した須恵器杯、59 は P11 から出土した黒色土器杯である。9 世紀代の遺構である。



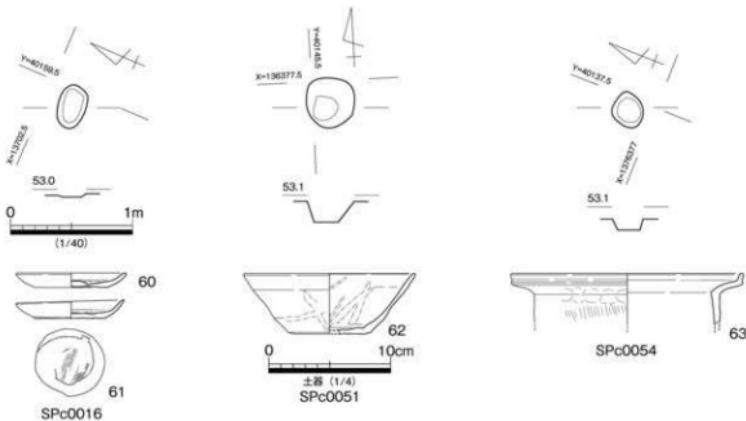
第33図 SAc001 平・断面図 (1/80)、出土遺物 (1/4)

柱穴

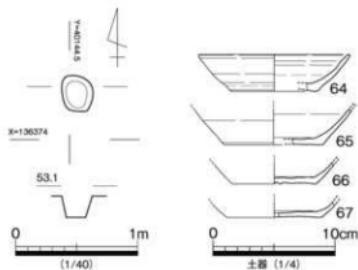
建物を構成しない柱穴出土の遺物を一括して報告する。

61は土師器小皿で、底面はヘラ切りの後に板ナデを施している。62は須恵器杯で器高は5.0cmと高くなっている。64～67はすべてSPc0056から出土した須恵器杯である。69は須恵器杯であるが、体部は内済しており椀に近い形である。74の土師器小皿の底部はヘラ切りの後に板状圧痕が認められる。75は下半は欠損しているが土師器の足釜で、体部外面の下半には格子目の叩きを施している。76の土師器小皿の底面はヘラ切りのままで未調整である。78・80・83は回転台整形の土師器杯である。

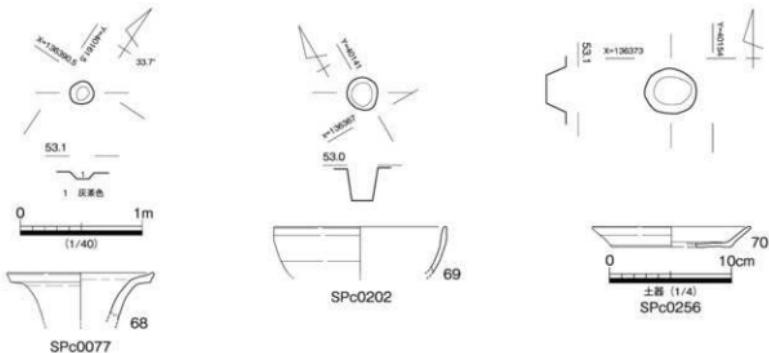
100は凝灰岩製の石臼の底部片である。106は土師器の擂鉢で体部外面には指押さえが顯著である。



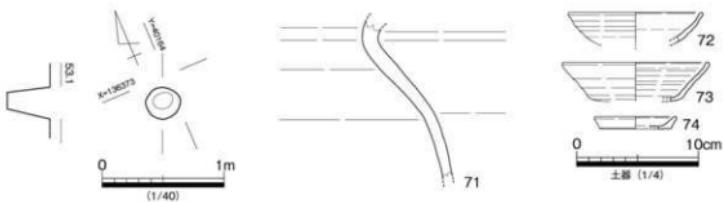
第34図 SPc0016・0051・0054 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



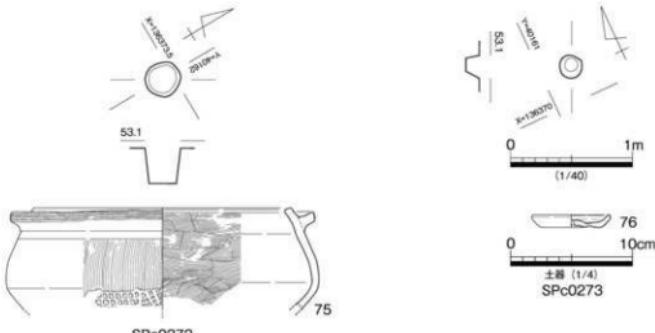
第35図 SPc0056 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



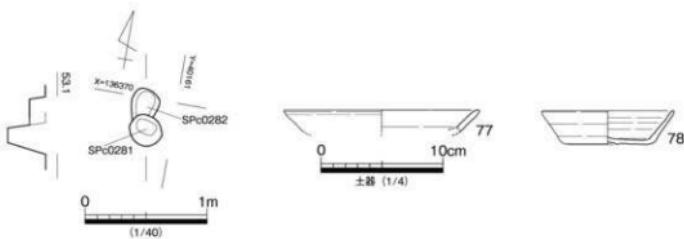
第36図 SPc0077・0202・0256 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



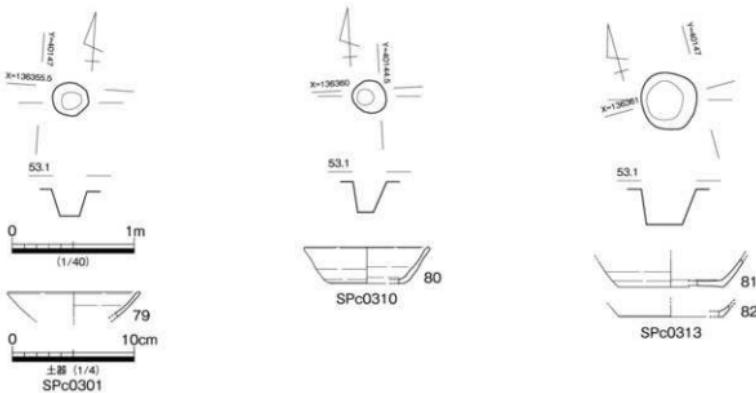
第37図 SPc0270 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



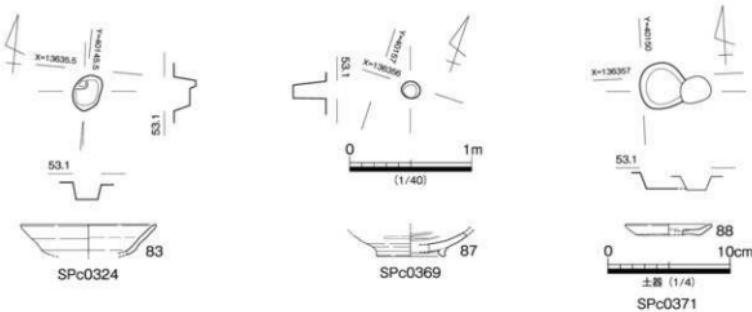
第38図 SPc0272・0273 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



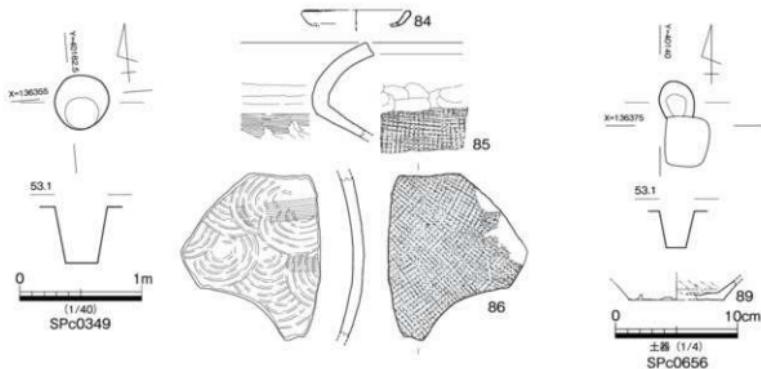
第39図 SPc0281・0282 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



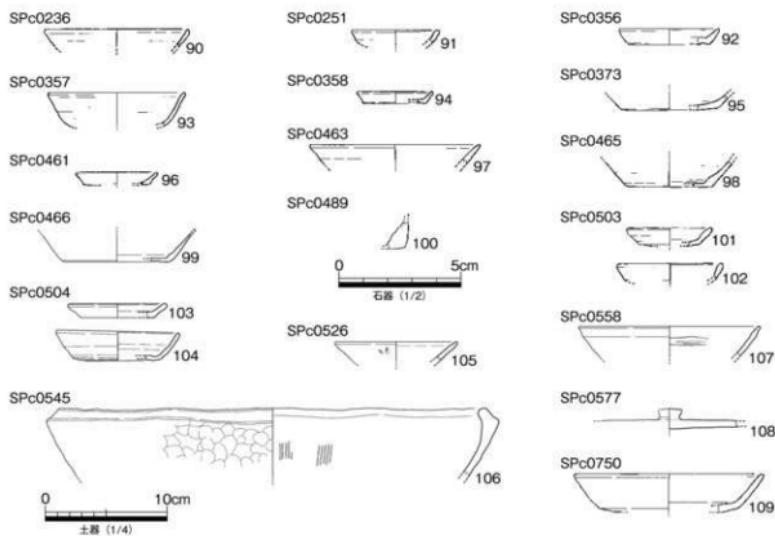
第40図 SPc0301・0310・0313 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



第41図 SPc0324・0369・0371 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



第42図 SPc0349・0656 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



第43図 その他のSP出土遺物 (1/4・1/2)

土坑

SKc001

G 10 区(11 G グリッド中央付近)で検出した。平面形が長軸 1.4 m、短軸 1.1 m の不整形な楕円形を呈し、深さ約 0.1 m の浅い皿状の断面形を呈する。埋土は暗黄灰色粘性極細砂の単層で、出土遺物は認められなかった。周辺の遺構との関係も不明瞭で、詳細な時期については不明であるが、埋土の色調から、中世のものである。

SKc002

G 8 区(9 F グリッド北西隅)で検出した。平面形が長軸 1.60 m、短軸 0.60 m の長楕円を呈しており、深さ 0.08 ~ 0.12 m の断面形状が浅い皿状を呈する。

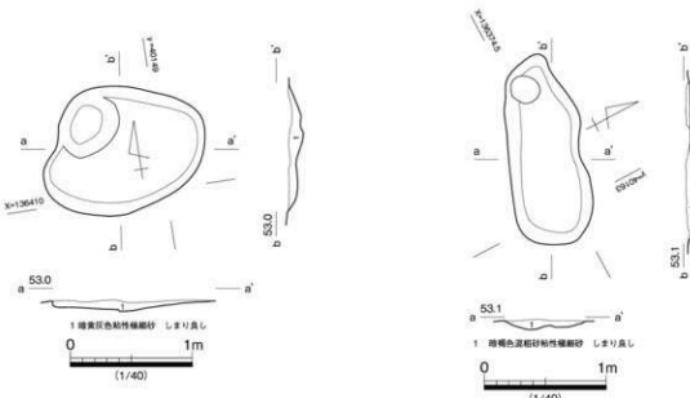
出土遺物は須恵器・土師器であるが、小片が中心である。110 は土師器の足釜である。中世の遺構と見られるが、詳細な時期比定は困難である。

SKc003

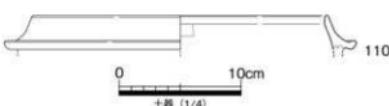
G 10 区(11 F グリッド南西部)で検出した。平面形が長軸 0.4 m、短軸 0.3 m の不整形な方形を呈し、深さ 0.15 m の台形状の断面形を呈する。SBc003・004 に挟まれる位置にあり、共に SDc004 を切ることから、少なくとも SDc004 に後出する遺構で中世のものである。

SKc004

G 10 区(11 F グリッド南西部)で検出した。平面形が約 0.9 ~ 1.0 m の円形を呈し、深さ約 0.1 m の



第 44 図 SKc001 平・断面図 (1/40)



第 45 図 SKc002 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

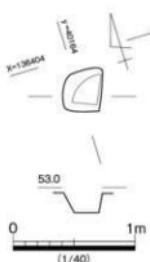
浅い皿状の断面形を呈する。埋土は茶灰色粘性極細砂の単層で、出土遺物は認められなかった。埋土や周辺遺構との関係で中世のものである。

SKc005

G 10 区(11 F グリッド中央やや南寄り)で検出した。平面形は長軸約 1.4 m、短軸約 0.6 m の不整形で、深さ約 0.15 m の不整形な椀状を呈する。埋土は黄茶褐色粘性極細砂の單一層である。SKc004 と同様に中世のものである。

SKc006

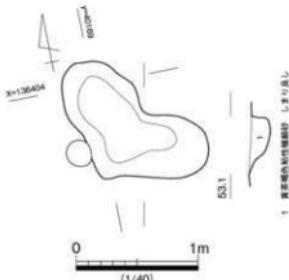
G 10 区(10 G グリッド南西隅)で検出した。平面形は長軸約 0.65 m、短軸約 0.35 m の不整形な隅丸方形を呈し、深さ約 0.05 m の浅い皿状の断面形を呈する。SKc007 に隣接し、似たような深さを持つ浅い遺構であることから、同一遺構の上面が削平されたもの可能性もある。出土遺物は認められないが中世のものである。



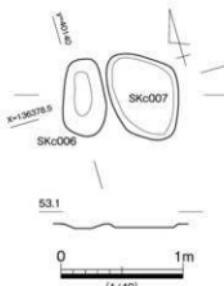
第 46 図 SKc003 平・断面図 (1/40)



第 47 図 SKc004 平・断面図 (1/40)



第 48 図 SKc005 平・断面図 (1/40)



第 49 図 SKc006・007 平・断面図 (1/40)

SKc007

G 10 区（10 G グリッド南西隅）で検出した。平面形は長軸約 0.65 m、短軸約 0.6 m の不整形な台形を呈し、深さ約 0.05 m の浅い皿状の断面形を呈する。状況は SKc006 と同様で、中世の遺構である。

SKc008

G 10 区（9 G グリッド北辺中央付近）で検出した。平面形は長軸約 1 m、短軸約 0.6 m の不整形な梢円形を呈する。遺構の残存状況は不良であるが、111 の須恵器捏鉢が出土している。13世紀第2～3四半期頃のもので、同時期の遺構である。

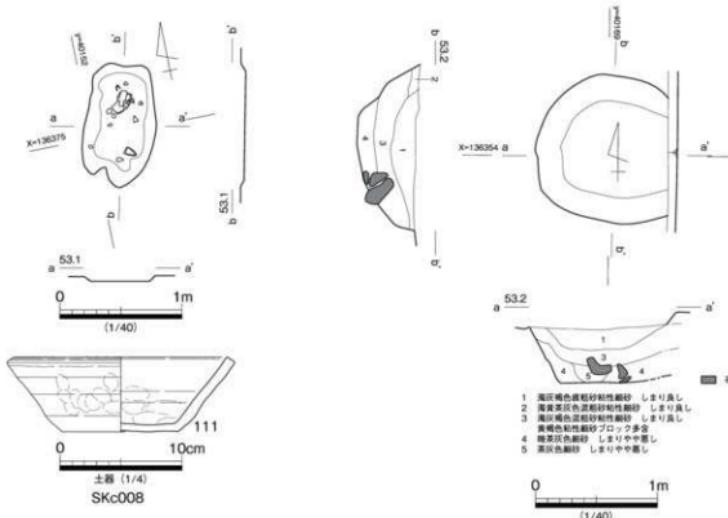
SKc009

G 8 区（8 F グリッド北辺中央付近）で検出した。一部調査区外へ延び、詳細は不明であるが、平面形が直径約 1.20 m の円形を呈し、深さは約 0.60 m を測る。

出土遺物は須恵器・土師器であるが、小片が中心である。中世の遺構と見られるが、詳細な時期比定は困難である。

SKc010

G 8 区（8 G グリッドの調査区壁際）で検出した。平面形は一辺 1.6 m ほどの不整形な隅丸方形で、深さは 0.6 m である。北側部分の掘り込みは急であるが、南側の傾斜は北側に比べて緩やかで段を形成して立ち上がる。底部は平坦である。少量・小片の遺物が出土したにとどまる。中世の遺構である。



第 50 図 SKc008 平・断面図 (1/40)、
出土遺物 (1/40)

第 51 図 SKc009 平・断面図 (1/40)

SKc011

G 8 区（9 G グリッド北東部）で検出した。平面形が長軸 1.60 m、短軸 0.90 m のやや不規則な長方形を呈しており、深さ約 0.20 m の不整形な断面形状を呈する。

遺物は 112 の土師器杯の小片のみであり、中世の遺構と見られるが詳細な時期は不明である。

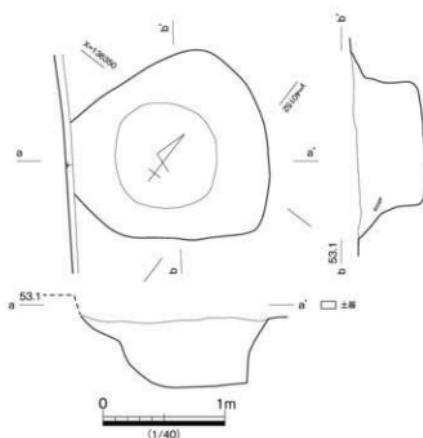
SKc012

G 8 区（8 F グリッド中央付近）で検出した。一部調査区外へ延び、詳細は不明であるが、平面形が直径約 1.10 m の円形を呈し、深さは約 0.50 m を測る。

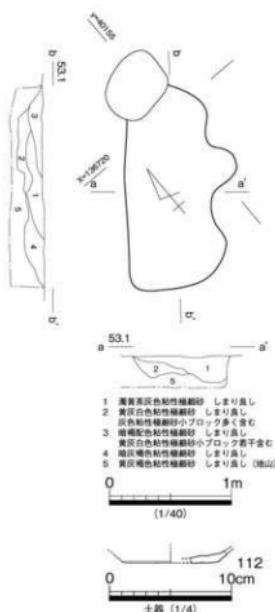
出土遺物は須恵器・土師器であるが、小片が中心である。中世の遺構と見られるが、詳細な時期比定は困難である。

SKc013

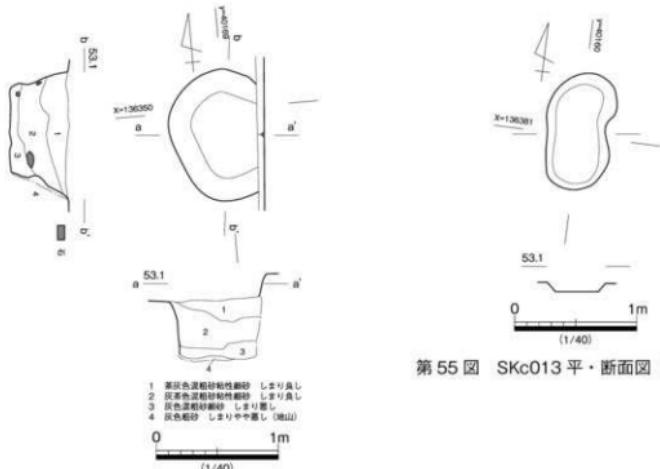
G 10 区（10 F グリッド南西隅）で検出した。平面形は長軸約 1.0 m、短軸約 0.5 m の不整形な楕円形を呈し、深さ約 0.05 m の浅い皿状の断面形状を呈する。出土遺物は認められない。埋土や周辺遺構との関係で中世の遺構である。



第 52 図 SKc010 平・断面図 (1/40)



第 53 図 SKc011 平・断面図 (1/40)、
出土遺物 (1/4)



第 54 図 SKc012 平・断面図 (1/40)

第 55 図 SKc013 平・断面図 (1/40)

SKc014

G 10 区 (10 F グリッド南西部) で検出した。平面形は長軸約 1.15 m、短軸約 0.45 m の不整形な梢円形を呈し、深さ約 0.15 m の逆台形を呈する。埋土や周辺遺構との関係で中世の遺構である。

SKc015

G 8 区 (9 G グリッド中央やや北寄り) で検出した。東西方向の概ね周辺の地割と合致する主軸を持ち、長軸 2.10 m、短軸 1.10 m、深さ 0.1 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈する。

113 は土師器小皿である。その他出土遺物として須恵器・土師器があるが小片が中心である。中世の遺構である。

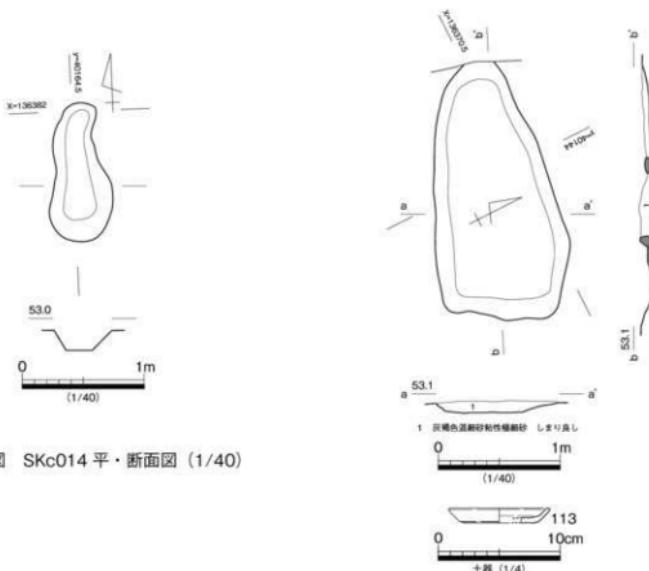
SKc016

G 10 区 (10 F グリッド中央付近) で検出した。平面形は長軸約 1.1 m、短軸約 0.55 m の不整形な梢円形を呈し、深さ約 0.05 m の浅い皿状の断面形状を呈する。出土遺物は認められない。埋土や周辺遺構との関係で中世の遺構である。

SKc017

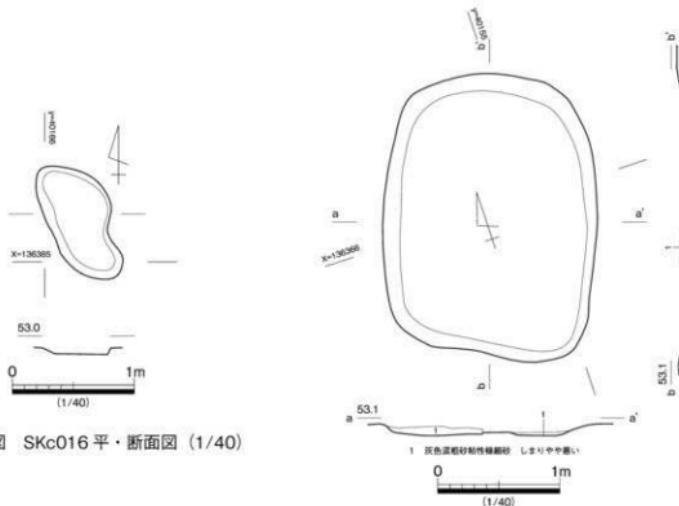
G 8 区 (9 G グリッド中央東寄) で検出した。長軸 2.30 m、短軸 1.75 m のやや歪な隅丸方形を呈し、深さ約 0.08 m の断面形状が浅い皿状を呈するものである。古代末の掘立柱建物 SBc013 の柱穴 P09 を壊して掘削していることから、これに後出する遺構であるといえる。

出土遺物は小片がほとんどで図化に耐えうるものがない。須恵器・土師器のほかに、白磁を含むこと



第56図 SKc014 平・断面図 (1/40)

第57図 SKc015 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



第58図 SKc016 平・断面図 (1/40)

第59図 SKc017 平・断面図 (1/40)

から中世以降のものであると考える。中世の遺構である。

SKc018

G 8 区 (9G グリッド東部) で検出した。平面形は一辺 1.2 m ほどの隅丸方形である。深さは 0.3 m で、底部はほぼ平坦である。

114 は平瓦で凹面には布目压痕が、凸面には繩目叩きが施されている。古代の遺構である。

SKc019

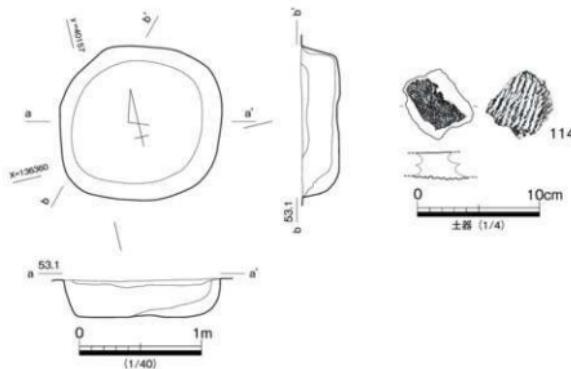
G 8 区 (9G グリッド南部) で検出した。平面形は直径 0.7 ~ 0.8 m の円形で、深さは 0.15 m である。遺構の規模のわりに遺物量は多い。

116 ~ 119 は縄文時代晩期の深鉢で、116 と 118 の外面には条痕が残っている。120 は厚手の剥片の下部に調整を加えて削器としている。126 は楔形石器で上下に敲打痕が認められる。石器はいずれも縄文時代のものと考えられる。115 は施釉陶器の皿であるが、全体の遺物様相から考えると後世の混入と考えられ、SKc019 は縄文時代晩期の土坑である。

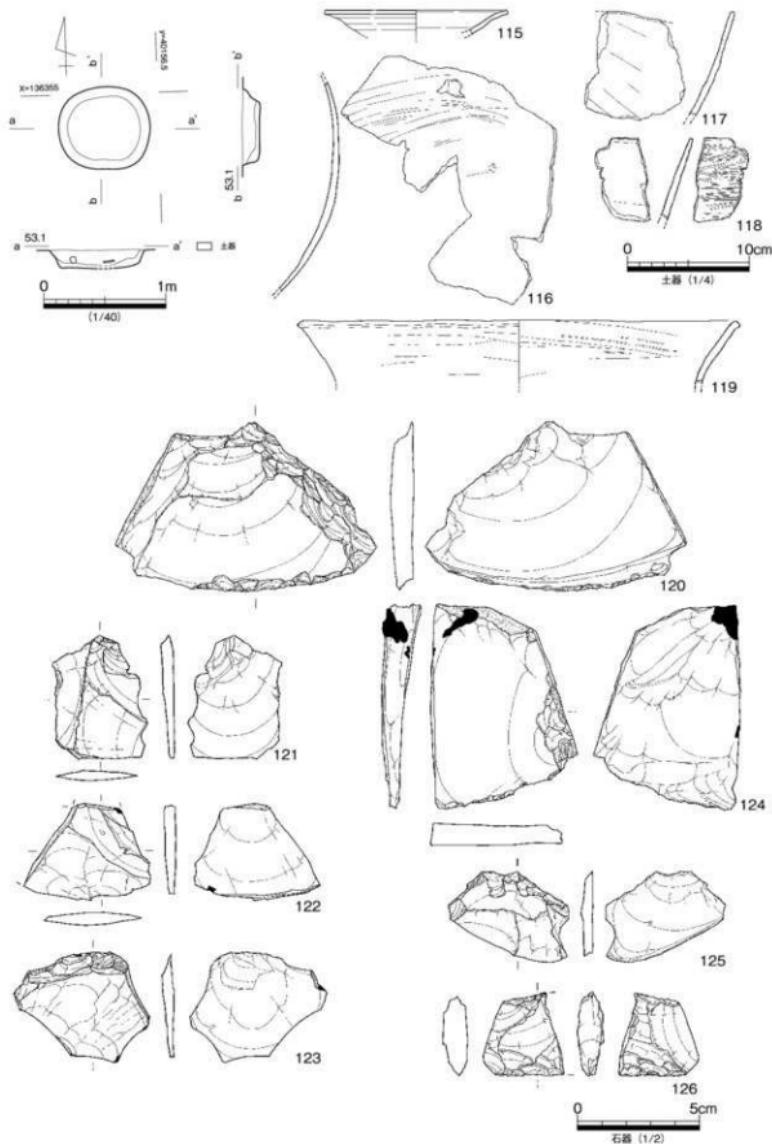
SKc020

G 8 区 (8 G グリッド) で検出した。長軸 1.70 m、短軸 0.90 m の平面形が不整形な橢円形を呈し、深さは 0.15 m を測る。

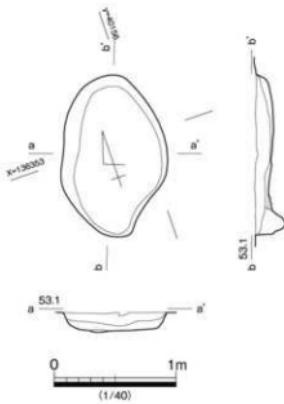
出土遺物は須恵器・土師器であるが、小片が中心である。中世の遺構と見られるが、詳細な時期比定は困難である。



第 60 図 SKc018 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



第61図 SKC019 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4・1/2)



第62図 SKc020 平・断面図 (1/40)

SKc021

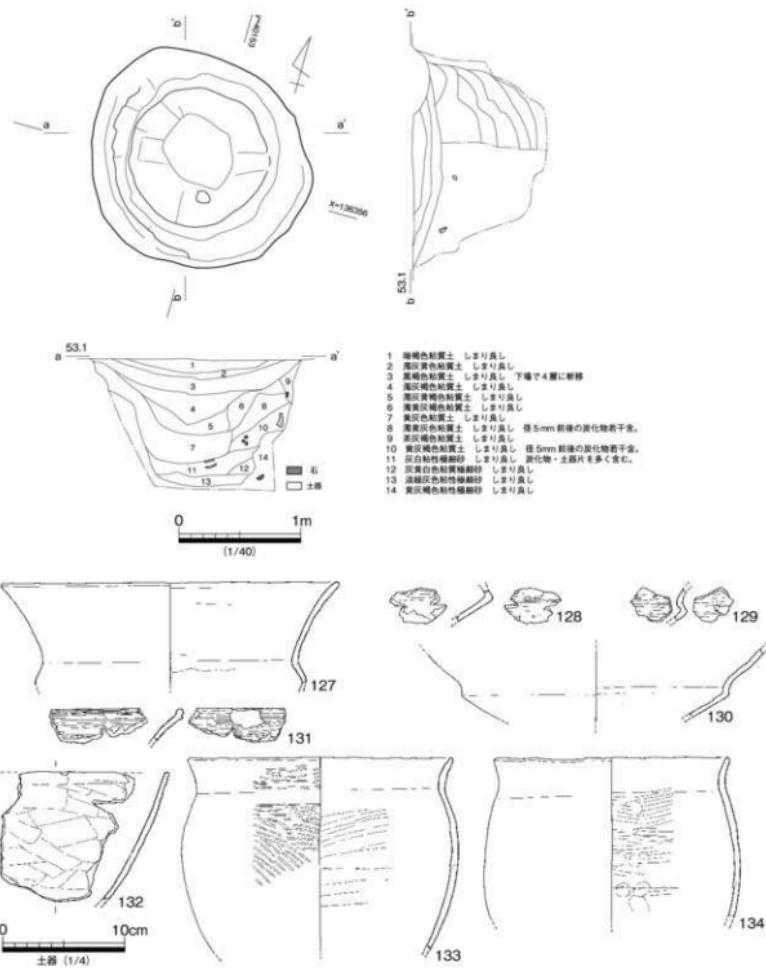
G 8区 (G - 8から西へ 6 m付近) で検出した土坑である。平面形円形を呈し、直径約 1.8 m、深さ約 1.1 m を測る。上層はほとんど遺物を含まない暗褐色粘質土と黄灰色粘質土の互層である。中層では遺物をやや多く含む灰黄色系の粘質土である。下層では、遺物及び炭化物を大量に含む灰色粘性極細砂が堆積していた。当初、上層のみを掘削し、完掘したと判断していたが、穴の底部に土器片・石器片が含まれていたことから、中層・下層の存在に気づいた。非常に地山の土に似ており、判別は困難であった。SKc021 掘削後、比較的短期間のうちに埋め戻されて下層・中層が形成され、これが縮まる課程で生じた窪みに雨水などが溜まることにより、上層が形成されたと考える。短期の埋め戻しの状況と破損した土器や石器製作時の残滓類、炭化物の出土状況から見て、廃棄土坑としての性格が想定できる。

掘削時に半裁したが、残りを掘削する際に掘削土を土囊に詰めてサンプルとして持ち帰り、水洗選別を実施し、極力微細遺物まで回収する手段を取った。

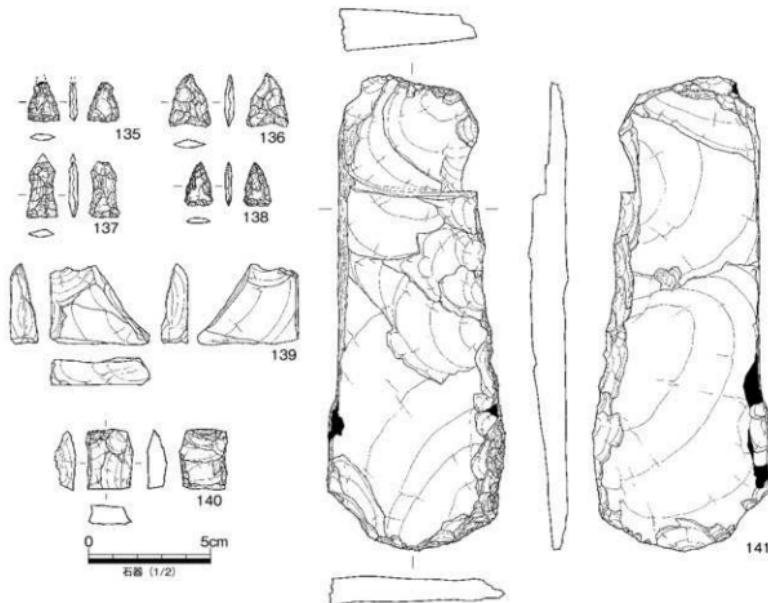
出土遺物は土器・石器・炭化物である。土器は縄文土器浅鉢 127 ~ 131 と深鉢 132 ~ 134 が確認できる。浅鉢については黒色磨研土器が認められる。内外面に横位の非常に細かい単位の磨き痕が認められる。深鉢については、全体的に器表が劣化して剥落しており、内外面の調整についての観察は困難であるが、口縁から頸部にかけて横位の条痕が、体部には斜行する条痕がそれぞれ認められる個体がある。

石器は定形石器として石錐 135 ~ 138、楔形石器 139・140・142・143、二次加工剥片 145・147・148 があり、広義の石器として剥片・石核・碎片が認められる。石錐の中には未製品と思われるものを含むほか、折損した脚部が認められる。剥片は明確な打点を持たず、点状打面ないし線状打面を持つことから、両極打撃による剥片剥離がなされている。石核 141 は平面形がやや撥方を呈する短冊状で、表裏に剥片剥離作業を行った痕跡が認められ、作業面が表裏にあり、両極打撃ないし交互剥離による剥片剥離作業が進行したと考えられる。片側に現蹠面が残存し、こちらは打面として用いられていない。

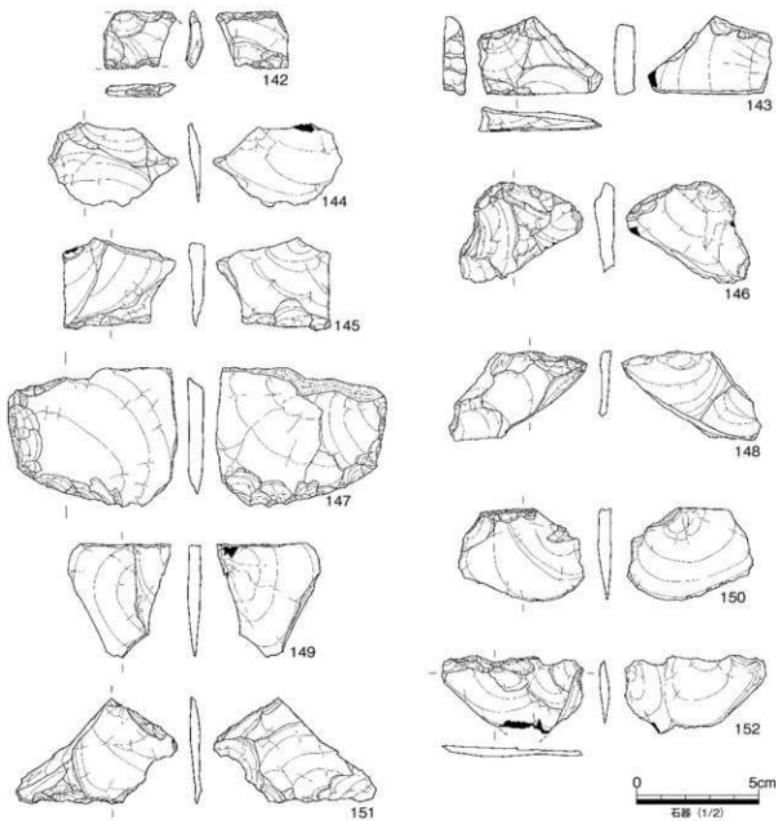
遺物の特徴から縄文時代晩期中葉（永井編年X式・滋賀里3b式）のものである。



第63図 SKc021 平・断面図 (1/40)、出土遺物1 (1/4)



第 64 図 SKc021 出土遺物 2 (1/2)

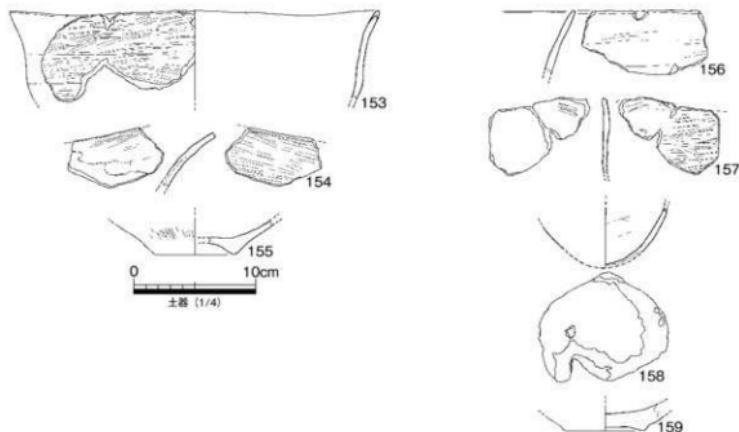


第65図 SKc021出土遺物3 (1/2)

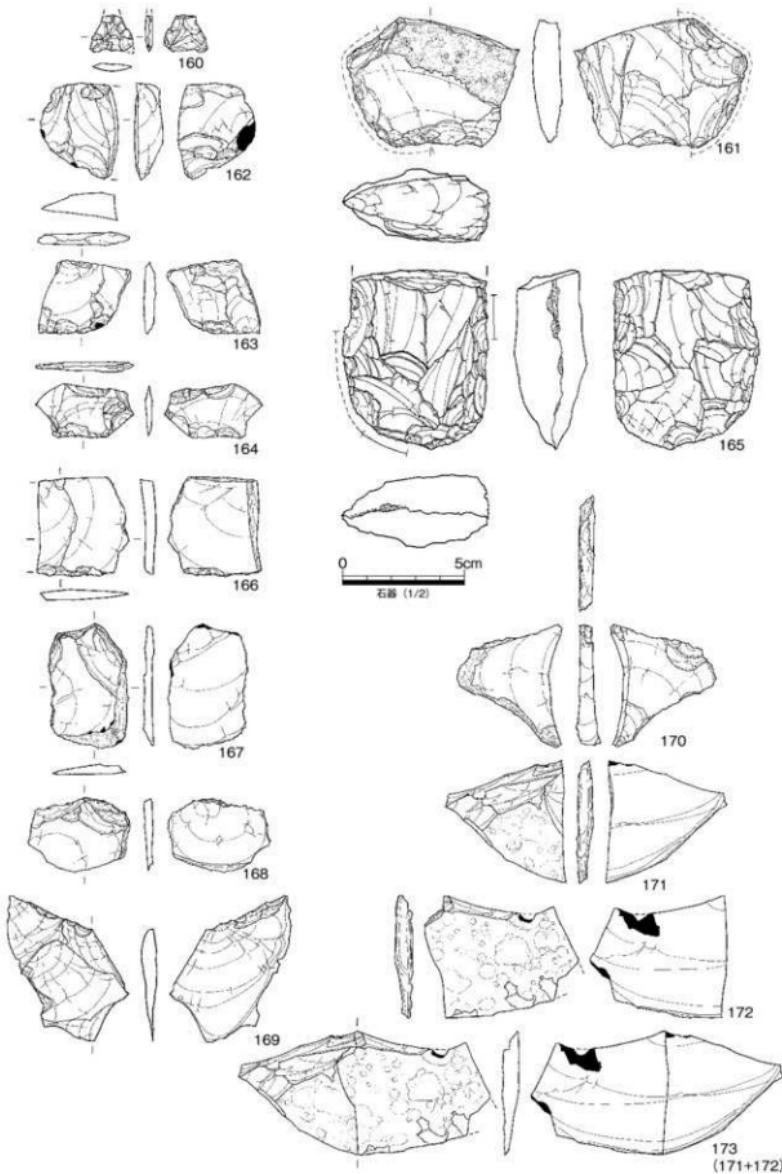
SKc022

G 8 区 (G - 8 の南西約 4 m) で検出した。SKc019 と重複して検出した遺構である。平面形円形を呈し、直径約 1.15 m、深さは約 0.50 m を測る。埋土は地山と比べると若干渦りはあるものの極めて似通った色調である。下層を中心に土器・石器が出土している。SKc019 の遺物中にも当該期のものが混じっており、上層に位置したものが搅拌されて混じったか、遺構掘削時に取上げてしまったものと考えられる。

遺物は土器・石器のほかに炭化物が出土している。土器は深鉢・浅鉢が確認できる。縄文時代晩期の遺構である。



第 66 図 SKc022 出土遺物 1 (1/4)



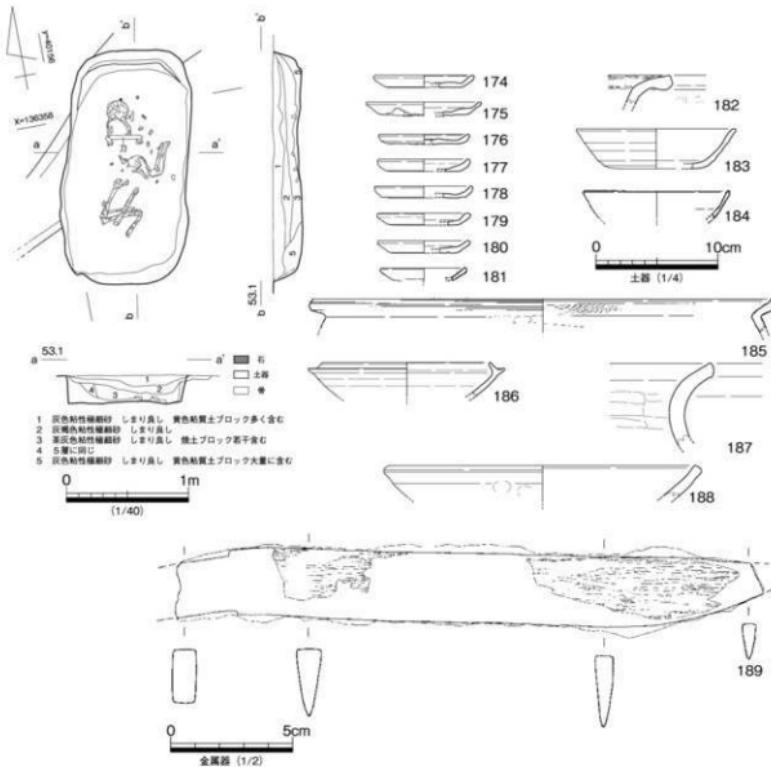
第 67 図 SKc022 出土遺物 2 (1/2)

土坑墓

STc001

G 8 区（9G グリッド南東隅）で検出した。墓坑の平面形状は南北に長い長軸 1.9 m、短軸 1 m の隅丸長方形を呈し、深さは約 0.3 m を測り、断面形状は箱形を呈する。主軸方位は N9° E を測る。壁面はほぼ垂直に近い角度で掘り込まれるほか、床面もほぼ平坦である。埋土は 4 層に分層でき、いずれも粘性細砂である。木棺の痕跡を探したが、確認し得なかった。最下層の 4 層には地山ブロックが多量に含まれており、墓坑の掘削後、すぐに部分的な埋め戻しを行った可能性がある。短軸側の断面観察では、その上の 3 層との境界が垂直に近い角度で接するところが認められる。1・2 層は浅い皿状の堆積をしており、埋め戻し土としてみるにはやや浅すぎるうえ、地山ブロックを伴わないなど、様相が異なる。

しかし、未報告であるが概ね同時期のものと考えられる J 地区の中世墓と比較すると、棺痕跡の有無を除くと底部の堆積状況が類似する。また、上部の堆積も埋め戻し土に相当するものが残存しない状況



第 68 図 STc001 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4・1/2)

と見た場合、その堆積状況は良く似ているといえる。さきに述べた3・4層境界の直立する部分も含めて考えると、2・3層が木棺に関連する層に相当し、1層は棺腐朽後空間を充填した棺直上の埋め戻し土であると考えられる。

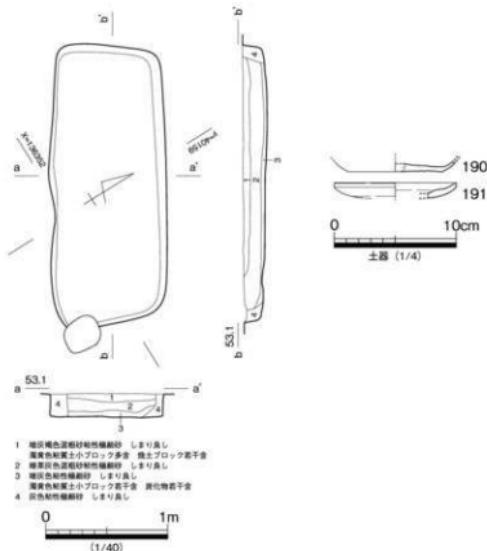
棺内には1体分の人骨が埋葬されている。分析を実施していないため、被葬者の性別や年齢など詳細は不明である。足の骨の方向から、西向きに横臥し、膝を曲げた屈葬であることが想定できる。

副葬品として刀189が伴う。胸部上に刀身が東西方向を向くように置かれていた。その他、副葬品として評価できるものは出土していない。埋土中に土師器小皿174～181などの小片が含まれており、概ね中世前半期のものである。

STc002

G8区（G-8の南5m）で検出した。長辺2.25m、短辺0.95mの平面形が長方形を呈し、深さは0.2mを測る。東西方向に軸を持ち、N 57°Wを測る。土坑墓の可能性があるが、断面観察の結果、棺痕は認められなかった。当遺構の北西約6mには、人骨が残るなど残存状況が比較的良好なSTc001があるが、それと比較すると墓とする根拠がやや乏しい。

出土遺物は須恵器、土師器190・191であるが、小片が中心である。中世の遺構と見られるが、詳細な時期比定は困難である。



第69図 STc002 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

溝状遺構

SDc001

G 10 区(11 F から 11 G グリッド)で検出した。11 F グリッド南端中央付近に端を発し、その後西進し、調査区外へ延びる。長さ約 33 m、幅 0.5 ~ 2 m、深さ 0.16 ~ 0.2 m を測る。主軸方位はやや湾曲するものの、概ね直進し、N 74° W を測る。11 G グリッドで緩やかにクランクし、溝の中心が約 2 m 北へずれるが、その後も概ね方位は変わらないようである。なお、この溝は東側の未報告調査区から続いてくる溝であることから、最終的な評価はそちらへゆだねるが、遺跡南端に位置する既往の報告 SRa02 付近に端を発すると考えられ、旧河道から取水し、耕地へ配水するための水路であった可能性が想定できる。

出土遺物は稀薄で、かろうじて 192 の須恵器杯底部及び 193 の銅製錫帶金具巡方の破片が確認できた。須恵器は概ね 8 世紀代のものと考えられる。また、帶金具は銅製で、大半が欠失しており、辛うじて一つの角部が残存しているのみである。座金の部分も欠失しているが、皮を挟んで留める鉢が僅かに残存する。

8 世紀代の遺物が出土しているが、周辺で 8 世紀代の遺構で条里型地割の主軸方向を取る遺構が見られないことを併せると、9 世紀代以降の遺構である。

SDc004

G 10 区で検出した。東西方向に主軸を持ち、長さ 13.6 m、幅 0.40 m、深さ 0.05 m を測る。出土遺物は小片が中心であるが、土師器小皿 194・土師器羽釜 195 が出土している。中世の遺構である。

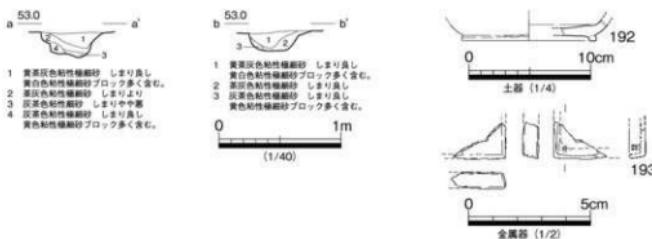
SDc005

G 8 区(9 G グリッド南西隅付近)で検出した。南北方向に主軸を持ち、長さ 3.30 m、幅 0.70 m を測る。SDc027 に切られており、これに先行するものと考えられるが、出土している遺物が小片であり、時期決定の要素としては弱いが概ね中世の遺構である。

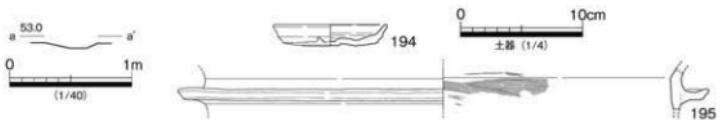
SDc006

G 8 区(8 F グリッド西辺中央付近)で検出した。南北方向に主軸を持ち、検出長約 3.0 m、幅約 0.3 m、深さ 0.1 m を測る。すぐ南で認められる SDc007 と本体同一の溝であったと考えられる。

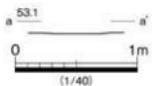
出土遺物は小片の土器のみである。中世の遺構である。



第 70 図 SDc001 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4・1/2)



第71図 SDc004断面図(1/40)、出土遺物(1/4)



第72図 SDc006断面図(1/40)

SDc016

G 10区(10G・Hグリッド)で検出した東西方向の遺構である。長さ13m、幅約3m、深さ約0.14m、主軸方位N 73°Wを測る。北岸をSDc018に、南岸をSDc015・017によってそれぞれ壊されているため、正確な溝の幅は不明である。灰色系の粘性極細砂を埋土とするが、下位では黄白色粘性極細砂の小ブロックを含む。人為的な埋め戻しが行われた可能性が想定できる。調査中の所見ではSDc027と組み合う区画溝としての機能を想定していたが、出土する遺物に時期差が認められ、SDc027はやや新しい時期のものを持ちうることがわかった。また、SBc009などの9～10世紀代の柱穴をSDc027が壊していることから、SDc016との組み合わせを考えるのは困難であると判断した。

出土遺物は須恵器杯202～208・壺209～212・甕213～216、土師器杯218・219・高台付皿220・甕222・223などが出土している。なお、削出高台をもつ綠釉陶器201がSDc015との境界付近で出土している。

SDc017

226～237はSDc017出土遺物である。須恵器杯226・227・椀228・229・壺230・231・甕232・鉢233、土師器杯234～236、黒色土器A類椀237などが出土している。

SDc018

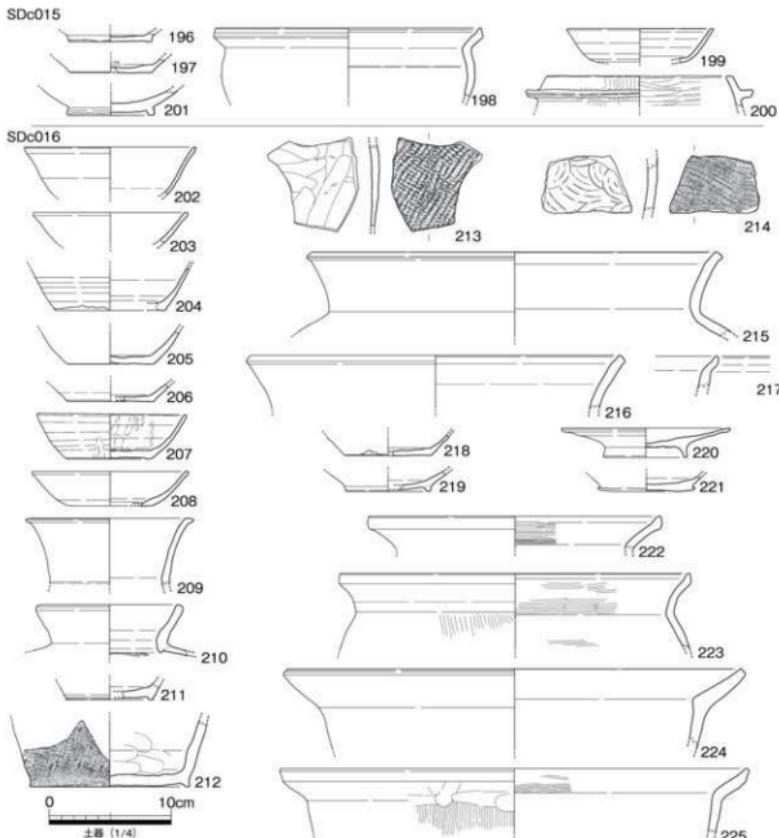
238～241はSDc018出土遺物で、238は回転台整形の土師器杯、239は須恵器杯である。

遺構の切り合いのためか、若干新しい遺物を交えるが、大筋としては古代の遺物を主体とすると考えられることから9世紀代のものと考える。

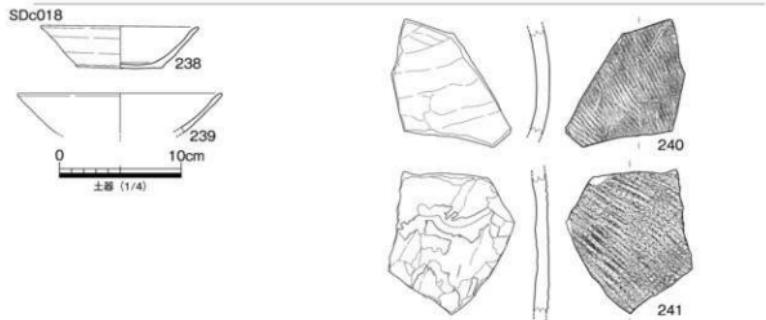
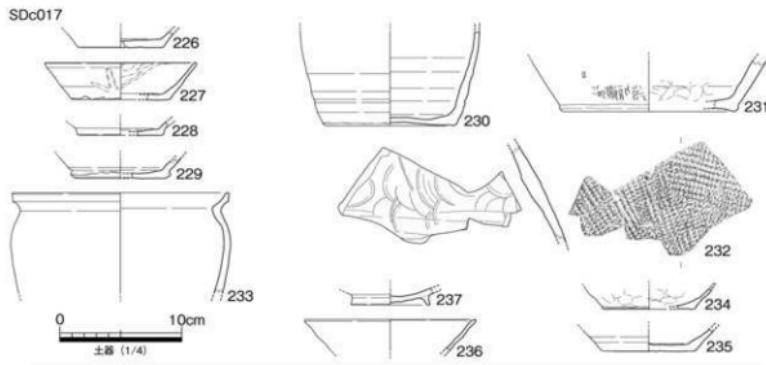
SDc020・021

G 10区(10Gグリッド)のSDc016と重なって検出した。SDc016の埋没後に掘削され、両端をSDc015とSDc018に壊されている。検出長は2.5m、幅0.3～0.6m、深さ0.06mで、北側部分で屈曲して幅が狭くなっている。

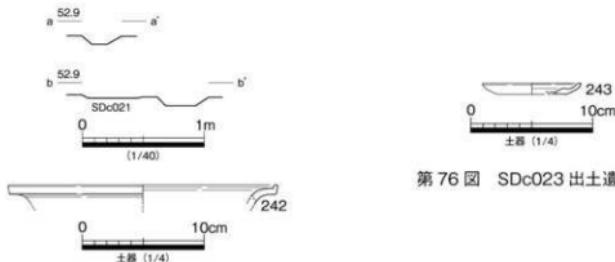
SDc021はSDc020の西側に隣接し、同様にSDc016の埋没後に掘削されており、南側をSDc015に壊



第73図 SDc015 ~ SDc018 断面図 (1/40)、SDc015 ~ SDc016 出土遺物 (1/4)



第74図 SDc017・SDc018出土遺物 (1/4)



第76図 SDc023出土遺物 (1/4)

第75図 SDc020断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

されている。検出長は2.0 m、幅0.5 ~ 0.8 m、深さ0.03 mである。

242はSDc020から出土した須恵器鉢である。古代の遺構である。

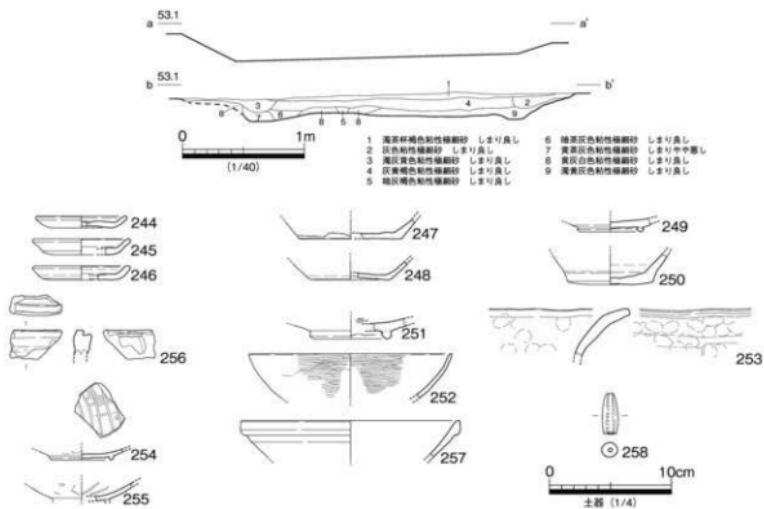
SDc023

243はSDc023から出土した土師器小皿で、底部と体部の境部分が肥厚している。底部はヘラ切りの後にナデている。中世の遺構である。

SDc027

G 8区とG 10区(9 G・10 Gグリッド)に亘り検出した。長さ18.7m、幅約3m、深さ0.20mを測る。主軸方位はN 17°Eを測り、周辺に残存する地割の方位と合致する。掘立柱建物SBc012などを切っていることから、これらに後出する遺構である。埋土は上位で灰褐色系の粗砂混じり粘質土、下位で黄灰色系の粗砂混じり粘質土が認められる。

遺物は須恵器、土師器、黒色土器251・252・瓦器254・255・中世須恵器・白磁碗257・青磁皿などが認められる。時期は異なるが、円面鏡256の破片と思われるものが1点認められる。出土する遺物の状況から中世前半期の遺構である。



第77図 SDc027断面図(1/40)、出土遺物(1/4)

SDc028

259・260はSDc028から出土した遺物で、259は須恵器皿で底部はヘラ切りの後に不定方向にナデている。260は須恵器碗である。

SDc032

G 10区の北西部で検出した。西端部をSDc034に壊されている。検出長7.1m、幅0.15～0.4m、深さ0.03mと非常に浅いものである。主軸方位はN 73°Wで、SBc005と同方位であり建物の雨落ち溝と考える。遺物は出土していないがSBc005と同じ14世紀頃のものである。

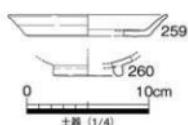
SDc034・041

G 10区の北西部で検出した。全長12.7m、幅0.2～0.4m、深さ0.04m前後である。この南端部から0.02m間隔をあけて延長上に全長3.3mのSDc041がある。幅・深さともSDc034と同規模である。

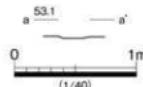
261はSDc034から出土した土師器杯である。回転台整形をしており、高台は後に貼り付けている。中世の遺構である。

SDc044

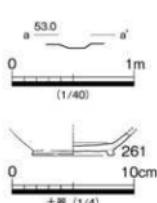
G 10区の中央部のやや西寄りで検出した。全長0.9m、幅0.4m、深さ0.08mで、土坑としてもよい遺構である。262は須恵器壺で体部外面には格子目叩きを施している。中世の遺構である。



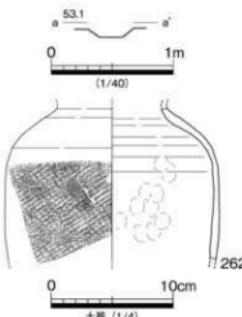
第78図 SDc028出土遺物 (1/4)



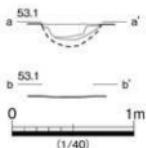
第79図 SDc032断面図 (1/40)



第80図 SDc034断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



第81図 SDc044断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



第 82 図 SDc048 断面図 (1/40)

SDc048

G 10 南西部から G 8 区南東部 (10 H・9 G・8 F グリッド) にかけて検出した。途中で途切れるものの総延長 41.6 m、幅 0.50 m、深さ 0.02 ~ 0.13 m、主軸方位 N 45° E を測る。

出土遺物は中世の須恵器・土師器の小片が中心であるが、周辺の地割と合致しないことや、古墳時代終末期の SDc072 に壊されていることから、それ以前の古墳時代のものと判断する。

SDc072

G 8 区 (E 地区南半 9 F・9 G グリッド) で検出した。8 G・9 G グリッドの境界北側をほぼ真北方向の主軸で東西方向に流れ、9 G グリッド南東隅で「く」の字に折れ曲がり、北東方向へ延びる。総延長は 34 m を測る。検出幅は概ね 1.50 m、深さは 0.12 ~ 0.16 m を測る。西端は段丘崖に切られているほか、東端は見かけ上調査区外へ延びるが、隣接する調査区では確認できていない。削平により消滅したものと考えられる。

出土遺物は須恵器・土師器である。須恵器は杯身 263 ~ 266・高杯 267・壺 268・平瓶 269・甌 270 が、土師器は壺 271 が認められる。杯身は 4 点図化した。直径が小さく立ち上がりの低いものと、直径が大きく立ち上がりの高いものの 2 種がある。いずれも底部を欠損し、全体像が不明であるが、共に出土している高杯の脚部の存在から、直径の大きい 263 は高杯の身である可能性がある。高杯脚部は低脚で、ハの字に広がる形状のものである。平瓶は体部のごく一部の出土である。甌は体部下半のみの出土である。土師器壺は口縁部のみの出土である。また、壺の把手と思われる破片 272 を伴う。

遺物の時期から概ね古墳時代終末期のものである。

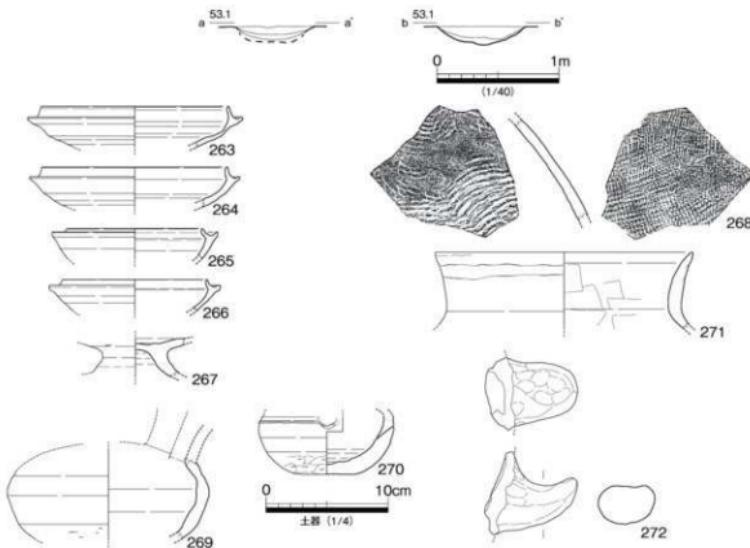
SDc073

G 8 区 (9 G グリッド) 北東部の調査区壁際で検出した。東西方向に主軸を持ち、検出長約 3.50 m、最大幅約 1.20 m、深さ最大約 0.1 m を測る。底部のレベルから、概ね東から西へ流下するものと判断できる。西端は段丘崖に切られていると想定できる。SDc027 を切っていることから、これに後出するものと考えられる。273 は土師器足釜で、他に須恵器・土師器などの小片の出土で、概ね中世の遺構である。

SDc074

G 8 区中央部を調査区西壁部分から東西に伸び、調査区中央付近で北東方向に湾曲する。検出長約 1.25 m、幅 0.5 m 前後、深さ 0.02 m を測る。

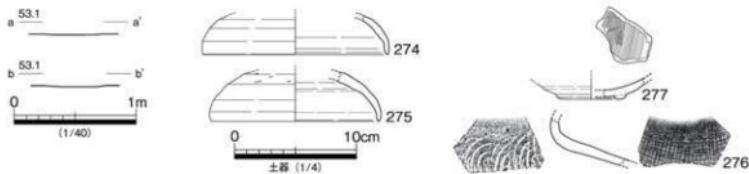
出土遺物は須恵器・土師器・黒色土器の小片が中心である。古墳時代終末期の SDc072 の延長上にあり、現存の SDc072 の西半分を再掘削されたものと考えると、元々は SDc072 の一部とも考えられる。274・275 の須恵器杯蓋が本来の時期を示すもので、277 の土師器碗は、この溝状遺構が中世の STc001 に壊されていることを考えると混入と考えた方がよさそうである。従って SDc074 の時期は 274・275 から古墳時代終末期のものである。



第 83 図 SDc072 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



第 84 図 SDc073 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



第 85 図 SDc074 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

SDc079

G 8 区（9 G グリッド）北半中央で検出した。長さ 6.40 m、幅 0.40 m、主軸方位 N 17° E を測る。中央付近に中世の土坑 SKc015 に壊される。

出土遺物は小片が中心で固化出来なかつたが、須恵器高台付杯、土師器杯などが認められ、遺物の特徴から概ね 10 世紀代の遺構である。

自然河川

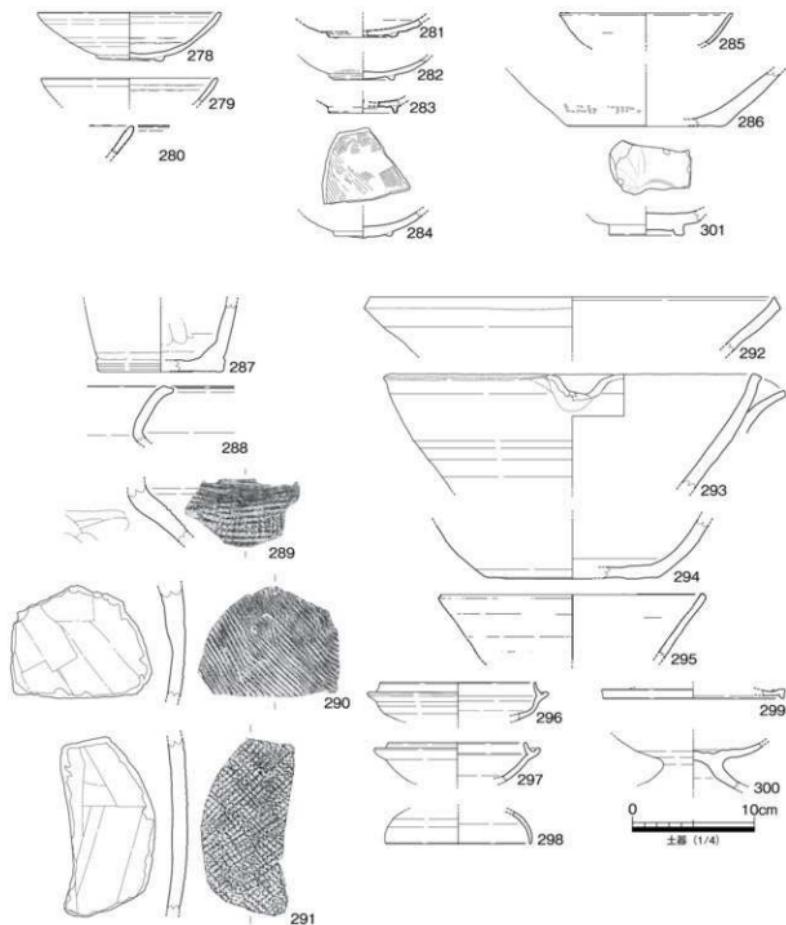
SRc001

G 8 区南端で検出した。既往の報告で SRa002 として報告された自然河川（香川県教育委員会 2005）に関連するが、当調査区では流路の北岸上層部が検出できているに過ぎず、流芯はさらに南側に位置する。層序としては上層包含層として報告された部位に相当する。

出土遺物は、須恵器・土師器・瓦質土器・輸入陶磁器・瓦が認められる。全体的に小片が中心であり、残存状況はやや不良である。



第 86 図 SRc001 平面図 (1/100)



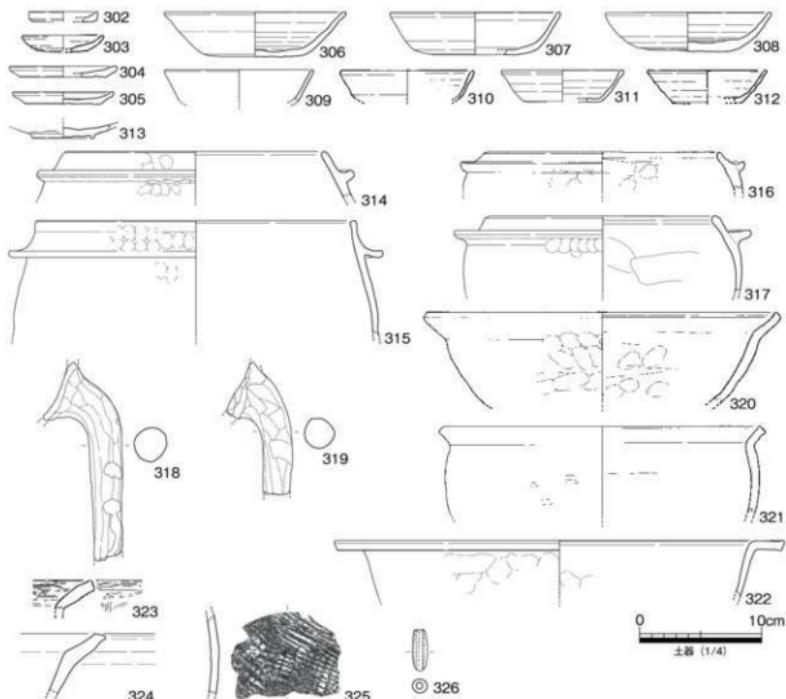
第 87 図 SRc001 出土遺物 1 (1/4)

278～284は須恵器碗である。284の内面にはハケ目が顯著である。292～295は須恵器鉢で、293には片口の注ぎ口が認められる。このほか古墳時代後期から終末にかけての須恵器296～300がある。301は青磁碗である。この他に輸入陶磁器はいずれも小片で図化は出来なかったが、外面に鍋運弁を彫りこむ青磁碗（龍泉窯系、I 5a・b類）、口縁が玉縁状になる白磁碗が認められる。

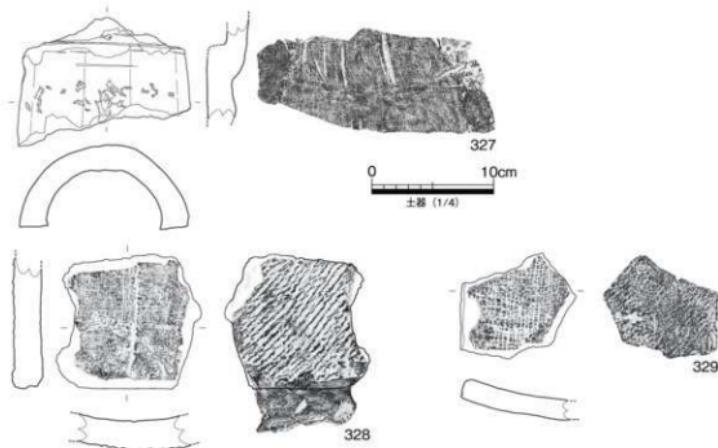
302～305は土師器小皿、306～312は土師器杯である。314～325は土師器の鍋・釜・鉢である。

その他に管状土錐326、丸瓦327、平瓦328・329が出土している。

出土遺物は少量の古墳時代の遺物があるが、13世紀中頃のものが主体を占め、その時期の流路である。



第88図 SRc001 出土遺物2 (1/4)

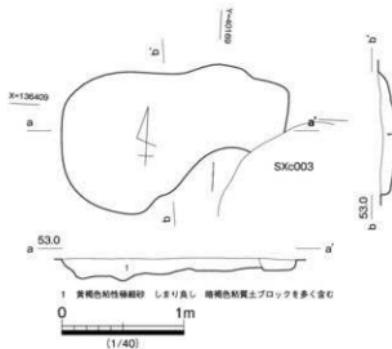


第89図 SRc001 出土遺物3 (1/4)

不明遺構

SXc001

G 10 区北東隅で検出した。南側が抉れたような方形で、長辺 1.8 m、短辺 0.65 ~ 1.15 m、深さ 0.1 ~ 0.18 m で底部は凹凸がある。埋土は暗褐色粘質土ブロックを多く含む黄褐色粘性極細砂の単一層である。14世紀の SBc004 の柱穴に壊されていることから、それ以前の中世の遺構である。

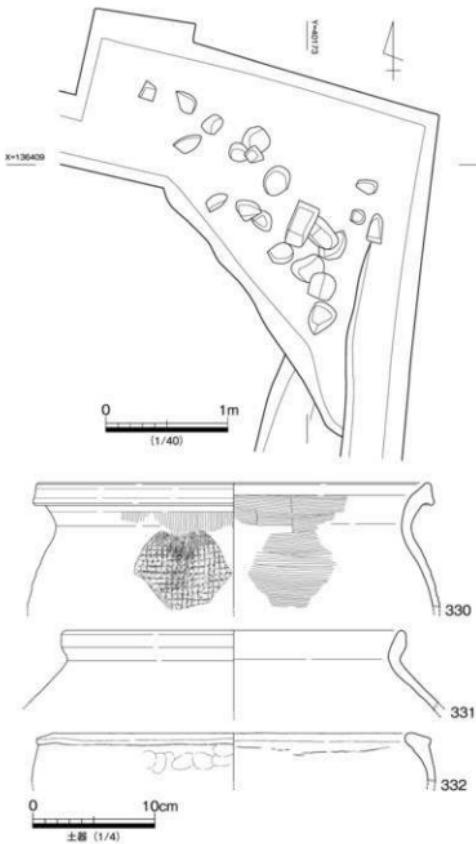


第90図 SXc001 平・断面図 (1/40)

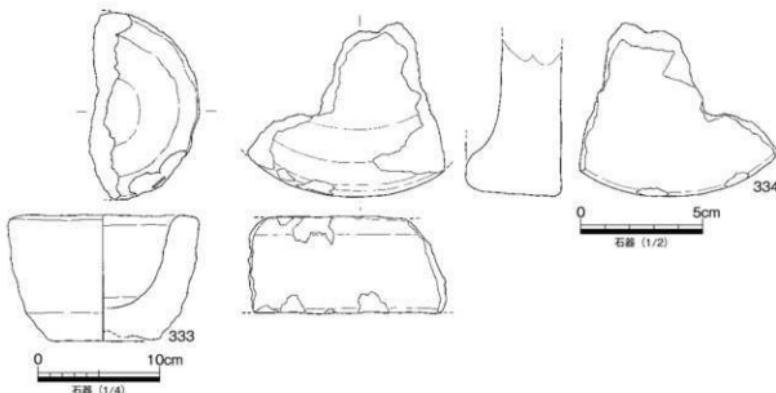
SXc002

G 10 区 (11 F グリッド) 北東隅で検出した。大半が調査区外へ延びており全体形は不明である。深さは 0.1 ~ 0.15 m と浅く、一辺が 0.1 ~ 0.35 m 程度の礫が多く出土したが、その並びには規則性は認められない。

330 は亀山焼甕で外面に格子目叩きを施している。333 は角礫凝灰岩を例り貫いて作成した石鍋である。334 は凝灰岩製の石臼である。330 から 16 世紀頃の遺構である。



第 91 図 SXc002 平面図 (1/40)、出土遺物 1 (1/4)



第92図 SXc002 出土遺物2 (1/4・1/2)

SXc003

G 10区北東隅でSXc001の東側に隣接して検出した。SXc001を一部壊している。平面形は丸みを帯びた方形で、長辺1.68m、短辺1.35m、深さ0.30mである。埋土は細砂層の中間に灰色粘質土が帯状に堆積している。中央部分が最も深く全体になだらかに窪んでいる。

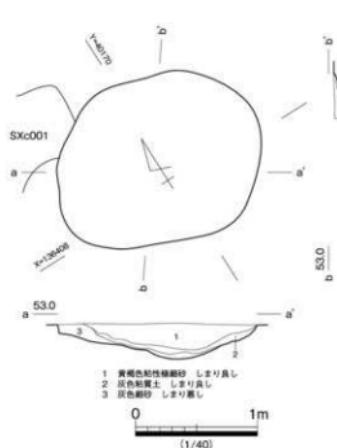
SXc001と同様に14世紀のSBc004の柱穴に壊されていることから、それ以前の中世の遺構である。

SXc004

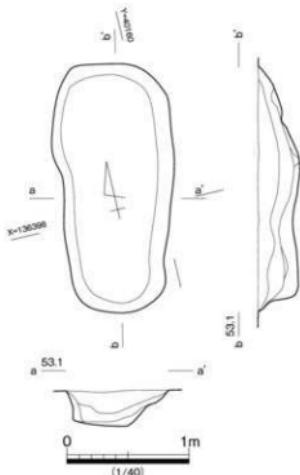
G 10区中央付近の遺構が疎の部分で検出した。平面形は隅丸の長方形で、長辺2.0m、短辺0.8~1.0m、深さ0.3mの土坑状の遺構である。

SXc005

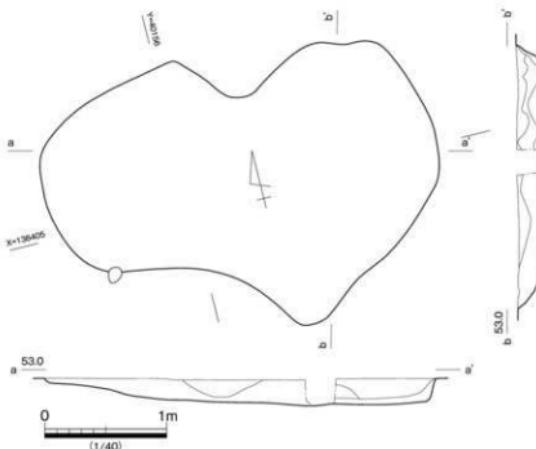
G 10区北半部中央で検出した。中央部が内側に入り込んだ不整形で、長辺3.25m、短辺最大幅2.30m、最小幅1.45m、深さ0.2mで、底部は平坦である。



第93図 SXc003 平・断面図 (1/40)



第94図 SXc004 平・断面図 (1/40)



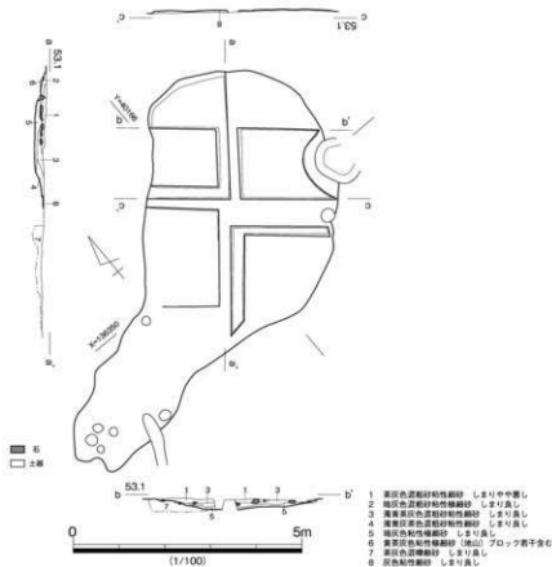
第95図 SXc005 平・断面図 (1/40)

SXc006

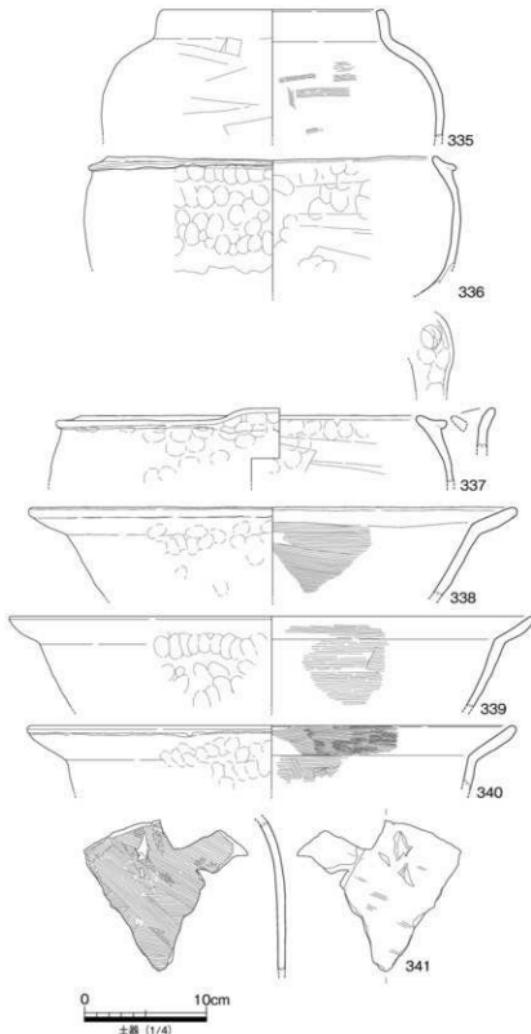
G 8 区（8 F グリッド）南東部の調査区壁際で検出した。長軸約 5.0 m、短軸最大 4.1 m を測る隅丸方形の角から、長さ 4.0 m、幅 1.7 m の溝状の落ち込みが派生する不整形な形状である。当初、平面形状から野井戸から湧水する水を配水するような灌漑施設などを想定していたが、深い部分は透水層へ達していない。

出土遺物は土師器の鍋・釜類 336～341 が中心で、この他に土師器の擂鉢 342・343、亀山焼甕 345、備前焼小皿 346 がある。347 は凝灰岩製の石臼、348 はサスカイト製の火打石である。

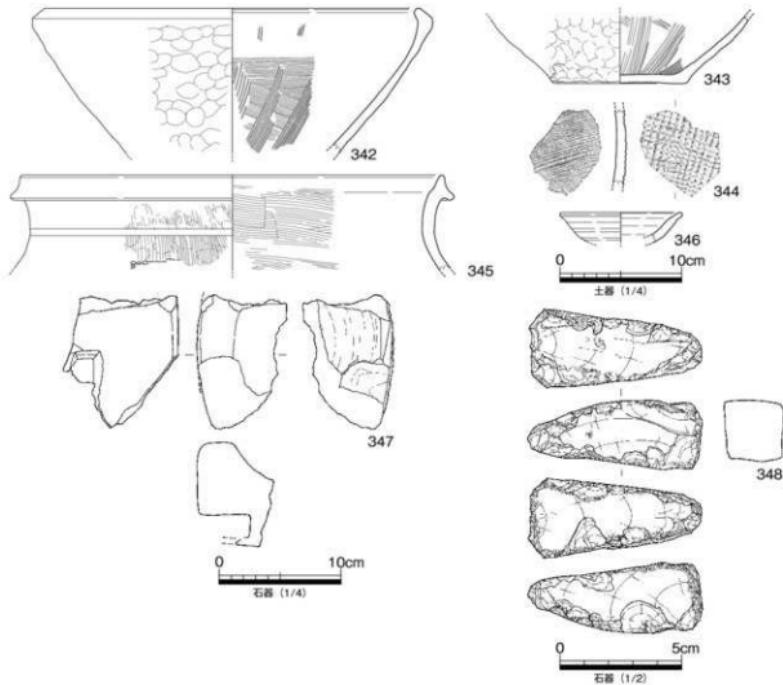
345 や 346 などから 16 世紀頃の遺構である。



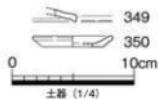
第 96 図 SXc006 平・断面図 (1/100)



第97図 SXc006出土遺物1 (1/4)



第98図 SXc006 出土遺物2 (1/4・1/2)



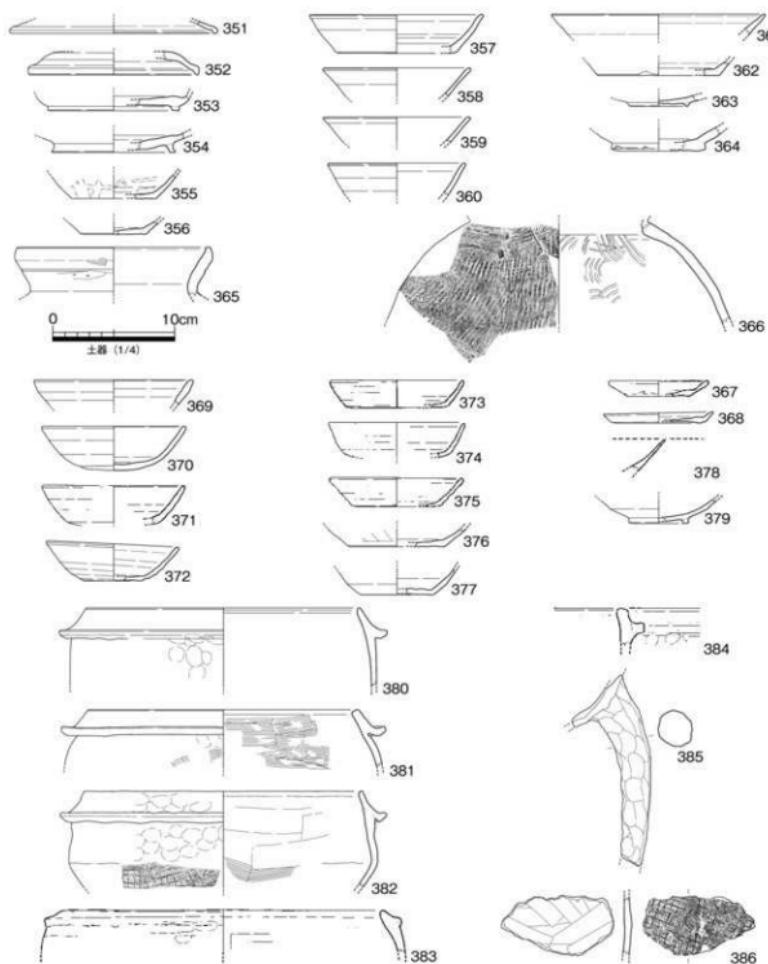
第99図 SXc007 出土遺物 (1/4)

SXc007

349・350はG 8区 SXc007 から出土した遺物である。349は須恵器蓋、350は土師器小皿である。

包含層出土遺物

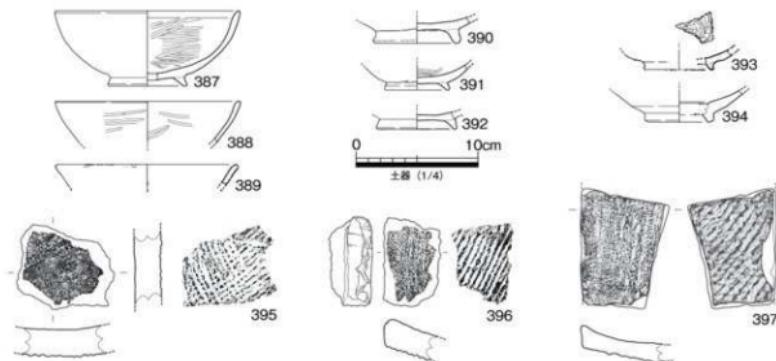
基本的に耕作土直下で遺構を検出しており、耕作土ならびに床土から出土したものが多い。また、遺構上面の精査中に上面に露出していたものも包含層扱いとしている。G 10 区に相当する部分で、特にまとまった遺物の出土が認められる。



第 100 図 包含層出土遺物 1 (1/4)

須恵器・土師器に加えて緑釉陶器・灰釉陶器・白磁・青磁などが認められる。古代から中世のものが圧倒的に多く、近世のものが若干含まれている。検出できた遺構の時期との関連が強く、耕作に伴って削平された遺構が存在していることを示していると見られる。

上記のうち図化できたものは351～397である。351～360は須恵器蓋・杯、369～377は土師器杯である。387～392は黒色土器椀、393は瓦器椀、394は灰釉陶器椀である。



第101図 包含層出土遺物2 (1/4)

第3章 まとめ

第1節 遺構の変遷

縄文時代晚期

E地区 SKc021・023 が確認できた。既往の報告を含めると、対象地全般にわたって当該期の遺物の分布が認められるが、旧河道以外の遺構としては前述のものに限られる。特に、E地区 SKc021 のような廃棄土坑が認められることから、その遺物の出土量があまり多くないことを併せ考えると、小規模な集落ないし単独の住居跡などが存在した可能性がある。

古墳時代後期

明確な遺構としては E 地区 SDc072・074 程度である。当該期の居住域は小規模な集落が対象地東側の丘陵裾部に認められ、既往の報告書で報告している。

古代

主に平安時代のものと考えられる集落を E 地区で確認した。建物跡が 8 棟 (SBc006・007・008・009・010・011・012・013) 確認できているが、それを構成するピットの重複関係から 3 期に分離できると考えられる。建物の配置から概ねそれぞれの時期に 2 ~ 3 棟で構成される集落であったと考えられる。

中世

E 地区で 13 ~ 14 世紀代の集落がそれぞれ屋敷地を形成していたことがわかる。いずれの屋敷地も概ね似たような時期の遺物が出土しており、詳細な前後関係は不明である。出土遺物の中に足釜が認められることから、少なくとも 13 世紀代には最終埋没を迎えたと考えられる。

第2節 E地区の古代遺構

E 地区 9 G グリッド北半部に遺構が集中する。特に 9 G グリッド北西隅に古代の掘立柱建物が 5 棟の重複関係を含め、8 棟存在する。さらに、建物の形には復元できないが、北壁ないし南壁をなすピット列が近接していることから考えても、さらに複数棟の建物が想定できる。全体的に時期決定しうる遺物を含む遺構は限られており、僅かな資料を基に当該期のピットの分布を見ると、圧倒的に SBc006 ~ 011 の周辺に集中し、この集中部の外縁部では当該期のピット数は大きく減少する傾向にある。概ね北限は SBc007 ~ SBc009 のラインにあり、南限は 9 ライン、東限は G ラインにそれぞれ認められる。分布範囲はほぼ 9 G グリッド内に収まると言える。

一方で、当該期の遺物は遺跡全般にわり認められるが、遺構については前半期と後半期で集中箇所が異なる。今年度対象地からは古代前半期のものはあまり出土しておらず、過年度一部報告書を作成した B 地区の丘陵裾付近を主な分布域とする。一方、後半期のものは先に述べた E 地区 9 G グリッド

付近で確認できる掘立柱建物群及びSDc001・016などである。これ以外についてはほとんど遺構を認めることができない。SDc016は掘立柱建物群の北に位置し、区画施設的な要素を持つ可能性があるが、SDc001は幹線水路的性格にとどまる。破片ながら鉢帶金具巡方が出土している点は興味深い。

9 Gグリッドにおける当該期の密集した個々の建物は、相互に切りあい関係にあることから、同時性よりも連續性のほうが強い。SBc006・009・010の3棟は、ほぼ同じ位置で建て替えが繰り返されていることが柱穴の切りあいから読み取れる。このことから、一定の期間この場に建物を繰り返し建て続ける必要があったことを窺わせる。また、そこには大型建物2棟が含まれており、重要な意味合いを持つ場であった可能性を持つ。中でも、SBc007とSBc009は同一の主軸方位を持ち、かつ、北壁の柱筋が直線的に通る。相互の建物間は約1.4mと近接することから、共時性の高さについてやや疑問を感じる。

いずれにしても、これら古代の建物群は地域の開発に関わる集団と、その後の管理に関わる集団の存在を裏付けていると考えられる。

これまでの調査により、8世紀代の遺構はグリッドA 16の周辺に限られており、その遺構主軸は周辺で確認される17°東偏する条里型地割と合致しない。その建物配置は、丘陵裾部にその地形に規制されるような状態でなされており、あたかも可耕地を避けるように敢えてその外側に建てられたかのようである。そして、B 18グリッドにおいて古代の包含層が認められ、概ね8世紀後半に帰属する比較的多量の須恵器・土師器が出土している。

また、この頃から少なくとも9世紀代にかけてはE・D・G・Hの各地区を貫流する旧河道（西末則Ⅲ SRd01）が埋積してゆく時期にあたり、出土遺物の状況からは概ね10世紀までには埋没してしまっている可能性が考えられる。掘り直しなどの状況も把握しきれていないことから断言はしないものの、少なくとも現状で見られる条里型地割は9世紀代には施行しきれていない可能性がある。

第3節 中世における集落の景観について

これまでの調査によって概ね12世紀から16世紀までの集落が11地点確認できている。大きく見ると北側にほぼ1町の範囲を占める集落が認められ、集落内の井戸から出土した土器を根拠に、概ね12世紀後半から13世紀前半のものと考えている。また、その南には遺跡の南東から北西へかけて認められる旧河道路跡が認められ、集落の大多数がこの旧河道路よりも南に展開する。この様はあたかも旧河道路を避けて形成されているように見えるが、この部分において最終埋没層に古代の土器が含まれているため、古代末の段階ではまだ窪地をなしており、居住に適していなかった可能性がある。明瞭な痕跡は認められないが、水田などの生産域として利用されていたのであろう。この部分を横断して長さ約300mにわたり確認された溝が存在するが、3条程度の溝がそれぞれ概ね平行して掘削されており、調査当初、道路状遺構の可能性も考えていたが、低地内を横断する状況から見ると周辺の条里型地割に規制された排水路の可能性も考えられる。旧河道路にはほとんど集落が重複しない傾向が強い中、後年度整理予定の範囲では旧河道上に集落の展開が認められる。重複しない部分に関してはほぼ12～14世紀のものであるが、重複する部分は16世紀と新しい時期のものである。この頃には旧河道路は完全に埋没・平坦化されていたものと考えられる。

参考文献

- 高橋孝志 2002 「縄文時代後・晚期の石器製作技術－勝田井の口道路出土資料から－」『環瀬戸内海の考古学－平井 勝 氏追悼論文集－』
- 中世土器研究会編 1996 「概説 中世の土器・陶磁器」
- 湯浅利彦 1992 「「五角形鏡」小考－西日本における縄文時代晚期を中心とした打製石鏡の素描－」徳島県埋蔵文化財センター研究紀要「眞珠」創刊号
- 香川県教育委員会 1990 「門田横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第九冊 水井遺跡」
- 香川県教育委員会 2000 「空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第4冊 空港跡地遺跡IV」
- 香川県教育委員会 2000 「サンボート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 西行道路I」
- 香川県教育委員会 2002 「サンボート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 西行道路II」
- 香川県教育委員会 2004 「サンボート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第6冊 浜ノ町遺跡」
- 香川県教育委員会 2004 「県道円座香南線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 川岡遺跡」
- 香川県教育委員会 2005 「香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第一冊 西末則遺跡I」
- 香川県教育委員会 2007 「香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第二冊 西末則遺跡II」
- 香川県教育委員会 2008 「県道円座香南線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第二冊 本郷・川原遺跡」
- 高松市教育委員会 1995 「一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第七冊 居石遺跡」
- 太宰府市教育委員会 2000 「太宰府市文化財 第49集 太宰府条坊跡XV - 陶磁器分類編 -」

遺物觀察表

第2表 西末期蓮瓣IV出土土器観察表

件文 番号	報告書名	地区名	層位	種類	器種	調整(外)		調整(内)		色調(外)・釉	色調(内)・釉	砂粒	口径 (cm)	底径 (cm)	厚さ (cm)	備考
						回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ							
1	SBE01-P04	G10	0	土器器	皿	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	10YR7.3/15.5:黄褐	10YR7.4/15.5:黄褐	中・少	11.0	—	1.8	—
2	SBE03-P06	G10	0	須世器	杯	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	5Y4/1灰	5Y4/1灰	中・少	12.8	—	—	矮片
3	SBE03-P08	G10	0	土器器	小皿	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	10YR4/1灰	10YR7.4/15.5:黄褐	中・少	6.8	1.1	1.8	—
4	SBE03-P12	G10	0	土器器	小皿	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	10Y8/2灰白	25Y3/2灰黑	中・浅	7.9	1.3	2.8	—
5	SBE03-P16	G10	0	黑色土器	小皿	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	25Y3/1黑褐	25Y3/1黑褐	中・少	9.4	1.4	2.8	—
6	SBE04-P09	G10	0	土器器	杯	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	25Y8/2灰白	25Y8/2灰白	中・少	11.3	—	2.8	—
7	SBE04-P18	G10	0	土器器	皿	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	25YR7.6:褐	5Y8/1灰白	中・浅	13.8	—	1.8	—
8	SBE05-P06	G10	0	須世器	蓋	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白	中・浅	17.8	—	矮片	—
9	SBE05-P06	G10	0	須世器	杯	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	N8/灰白	N8/灰白	中・少	12.6	3.7	1.8	—
10	SBE05-P13	G10	0	須世器	杯	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	10R6/1灰青	5R6/1灰青	中・少	—	—	10.3	1.8
11	SBE06-P17	G 8	0	須世器	杯	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	75Y7/1灰白	75Y7/1灰白	細・少	—	—	6.2	1.8
12	SBE06-P04	G10	0	須世器	杯	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	5Y8/2灰白	NS/灰	中・浅	—	—	7.0	2.8
13	SBE06-P17	G 8	0	須世器	杯	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	NS/灰	NS/灰	細・少	—	—	6.2	1.8
14	SBE06-P15	G10	0	須世器	里	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	10Y9/1灰白	25Y8/2灰白	中・少	19.5	—	16.6	1.8
15	SBE06-P13	G10	0	須世器	杯	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	中・少	13.0	1.8	8.7	1.8
16	SBE06-P07	G 8	0	須世器	皿	未調査	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	25Y7/3灰青	75Y7/1灰白	中・少	—	—	12.1	2.8
17	SBE06-P06	G10	0	須世器	蓋	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	75Y7/1灰白	75Y7/1灰白	中・少	18.7	—	—	—
18	SBE05-P06	G10	0	須世器	蓋	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	N8/灰	N8/灰	中・少	—	—	9.6	2.8
19	SBE06-P13	G10	0	須世器	杯	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	5Y8/6:褐	10Y8/3灰青	中・少	—	—	8.0	2.8
20	SBE06	G 8	0	土器器	杯	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	25Y8/2灰白	25Y8/1灰白	中・浅	13.0	—	1.8	—
21	SBE02-L1	G 8	0	土器器	蓋	ヨコナマフ	ヨコナマフ	ヨコナマフ	ヨコナマフ	23Y5/2灰青	23Y5/2灰青	中・多	65.0	—	—	矮片
22	SBE06-P16	G 8	0	土器器	蓋	板ナマフ	板ナマフ	板ナマフ	板ナマフ	10Y8/3:灰青	75Y8/5:4:灰青	細・多	21.7	—	—	矮片
23	SBE06-P06	G10	0	須世器	蓋	ヨコナマフ	ヨコナマフ	ヨコナマフ	ヨコナマフ	25Y7/3灰青	25Y7/3灰青	中・浅	—	—	—	矮片
24	SBE07-P03	G10	0	須世器	杯	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	N8/灰白	N8/灰白	中・少	13.9	—	—	—
25	SBE08-P08	G10	0	須世器	杯	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	N8/灰白	N8/灰白	中・少	—	—	7.0	1.8
26	SBE08-P08	G10	0	須世器	杯	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	5Y8/1灰白	5Y8/1灰白	中・少	—	—	—	矮片
27	SBE09-P16	G10	0	須世器	蓋	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	N6/灰	N7/灰白	中・少	—	—	—	矮片
28	SBE09-P13	G 8	0	須世器	杯	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	N7/灰白	N8/灰	細・少	12.0	—	1.8	—
29	SBE09-P13	G 8	0	須世器	杯	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	回転ナマフ	N8/灰	N8/灰	細・少	11.8	—	1.8	—

報告書番号	地名	層位	種類	断面	調整(%)	調整(%)	色調(%)	地質	砂粒	口径(cm)	高さ(cm)	風化率	備考
30 SbC09-P14	G8	0	須走器	杆	回転ナード 後板ナード 火薙有	回転ナード 火薙有	NS/灰	SFB6/青灰	細・少	—	8.6	2.8	
31 SbC09-P04	G10	0	須走器	杆	回転ナード 後板ナード 火薙ナード	回転ナード 火薙ナード	5Y71/灰白	5Y76/1 青灰	中・少	—	8.0	1.8	
32 SbC09-P04	G10	0	須走器	杆	回転ナード 後板ナード 火薙ナード	回転ナード 後板ナード	5Y76/4 深灰	5Y78/2 黄白	中・多	—	(7.2)	2.8	
33 SbC09-P03	G10	0	須走器	鉛	回転ナード 火薙ナード	回転ナード 火薙ナード	N7/灰白	N7/灰白	中・少	—	—	1.8	
34 SbC09-P08	G10	0	須走器	杆	回転ナード 後板ナード	回転ナード 後板ナード	7SY8/6 灰	10Y88/2 黄白	中・少	—	—	1.8	
35 SbC09	G8	0	土走器	杆	回転ナード 後板ナード	回転ナード 後板ナード	5Y78/2 灰白	5Y86/6 灰	細・少	—	—	0.6	破壊
36 SbC09-P10	G8	0	土走器	杆	回転ナード 後板ナード	回転ナード 後板ナード	5Y78/2 灰白	5Y86/6 灰	細・少	—	—	0.6	破壊
37 SbC09	G8	0	土走器	要	ヨコナード	ハケ目	板ナード後端部ヨコ	5YB6/4-5.5-6.5-7	75Y84/2 黄褐	粗・多	(25.8)	—	壁
38 SbC09-P09	G8	0	土走器	要	ヨコナード	ハケ	ヨコナード	10Y84/1 黑灰	10Y85/2 黄褐	中・多	—	—	壁
39 SbC09-P09	G8	0	土走器	要	偏方凹ハケ	偏方凹ハケ	10Y85/4-12.5-13.5	10Y84/2 黄褐	粗・少	—	—	壁	
40 SbC01-P07	G8	0	須走器	杆	回転ナード 後板ナード	回転ナード 後板ナード	5Y71/灰白	5Y71/灰白	粗・少	123	3.5	6.1	5.8
41 SbC01-P06	G10	0	須走器	鉛	回転ナード 後板ナード	回転ナード 後板ナード	NS/灰	5Y71/10 灰	中・少	—	(13.0)	1.8	
42 SbC01-P10	G8	0	須走器	鉛	回転ナード 後板ナード	回転ナード 後板ナード	5Y71/1 灰白	10Y88/2 黄白	細・少	(16.2)	—	壁	
43 SbC01-P01	G10	0	土走器	杆	回転ナード 火薙ナード	回転ナード 火薙ナード	10Y88/2 黄白	10Y88/2 黄白	中・少	—	(6.8)	3.8	
44 SbC02-P09	G8	0	須走器	杆	回転ナード 後板ナード	回転ナード 後板ナード	5Y71/1 灰白	5Y71/10 灰	中・少	(11.0)	—	—	
45 SbC02-P09	G8	0	須走器	杆	回転ナード 後板ナード	回転ナード 後板ナード	5Y71/1 灰白	5Y71/1 灰白	粗・少	—	(7.0)	1.8	
46 SbC02-P05	G8	0	須走器	鉛	回転ナード 後板ナード	回転ナード 後板ナード	5Y71/1 灰白	5Y71/1 灰白	中・少	(13.2)	2.5	(6.0)	3.8
47 SbC02-P08	G8	0	須走器	鉛	回転ナード 後板ナード	回転ナード 後板ナード	23YR5/4-5.5-6.5-7	10Y84/4 黄灰	中・少	(11.1)	—	—	
48 SbC02-P09	G8	0	須走器	杆	回転ナード 火薙ナード	回転ナード 火薙ナード	23YR5/4 黄灰	25Y5/1 黄灰	粗・少	—	—	6.2	2.8
49 SbC03-P03	G8	0	須走器	要	回転ナード 火薙ナード	回転ナード 火薙ナード	NS/灰	NS/灰	中・少	(17.9)	—	—	壁
50 SbC03-P06	G8	0	須走器	杆	回転ナード 後板ナード	回転ナード 後板ナード	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	中・少	—	(8.2)	3.8	
51 SbC03-P02	G8	0	土走器	鉛	回転ナード 後板ナード	回転ナード 後板ナード	7SY88/4 黄黄褐	75Y88/4 黄黄褐	中・少	(7.0)	1.2	(4.9)	2.8
52 SbC03-P06	G8	0	土走器	杆	回転ナード 火薙ナード	回転ナード 火薙ナード	10Y88/2-11.5-12.5	10Y87/2-11.5-12.5	中・少	—	—	6.0	2.8
53 SbC04-P06	G8	0	土走器	鉛	ヨコナード	ヨコナード	25Y5/1 黄灰	25Y5/1 黄灰	中・少	—	—	—	
54 SbC05-P03	G8	0	土走器	鉛	指ナード後板ナード	指ナード後板ナード	10Y88/4 黄黄褐	75Y87/4-13.5-14.5	粗・少	—	(9.0)	1.8	メッシュ
55 SbC05-P02	G8	0	土走器	鉛	指ナード後板ナード	指ナード後板ナード	—	23YR2/2 黄白	粗・少	長さ 14.7	3.1	—	
56 SbC05-P06	G8	0	土走器	小要	回転ナード 火薙ナード	回転ナード 火薙ナード	5YR7/6 灰	5YR7/6 灰	中・少	(6.7)	1.2	(4.4)	1.8
57 SbC01-P20	G10	0	須走器	鉛	回転ナード 火薙ナード	回転ナード 火薙ナード	5YB7/1 黑青灰	5YB7/1 黑青灰	中・少	—	—	壁	
58 SbC01-P10	G10	0	須走器	杆	回転ナード 後板ナード	回転ナード 後板ナード	N7/灰白	NS/灰白	中・少	—	—	壁	
59 SbC01-P11	G10	0	須走器	黑色土器	回転ナード 後板ナード	回転ナード 後板ナード	5Y4/1 灰	25Y7/3 黄灰	中・少	—	(7.7)	1.8	
60 SbC0016	G10	0	土走器	小要	回転ナード 後板ナード	回転ナード 後板ナード	10Y88/4 黄黄褐	75Y88/6 黄黄褐	中・少	(8.9)	1.2	(6.8)	4.8

報文番号	報告者情報名	場所名	部位	種類	器種	調整 (外)	調整 (内)	色調 (外)・輪	色調 (内)・輪	砂粒	口径 (cm)	薬量 (kg)	航法 (km)	参考		
61	SP-0016	G10	0	土面器	小皿	回転ナット	回転ヘラ切り戻	回転ナット	7.5YR7.6 橙	25Y8.3 淡黄	中・浅	8.8	1.5	5.7	7.8	
62	SP-0051	G10	0	土面器	小皿	回転ナット	回転ヘラ切り戻	回転ナット	N7/灰白	N7/灰白	中・多	13.9	5.0	6.7	1.8	
63	SP-0054	G10	0	土面器	要	ヨコナット	回転ヘラ切り戻	ヨコナット	7.5YR5.3 に近い鶴	7.5Y3.2 黒鶴	中・浅	18.7	—	—	1.8	
64	SP-0056	G10	0	須毛器	杆	回転ナット	回転ヘラ切り戻	回転ナット	NE/灰	NE/灰白	中・少	12.9	3.0	6.0	2.8	
65	SP-0056	G10	0	須毛器	杆	回転ナット	回転ヘラ切り戻	回転ナット	5Y8.1 灰白	5Y8.1 灰白	中・少	—	—	6.0	1.8	
66	SP-0056	G10	0	須毛器	杆	回転ナット	回転ヘラ切り戻	回転ナット	N7/灰白	N7/灰白	細・少	—	—	6.8	2.8	
67	SP-0056	G10	0	須毛器	杆	板ナット	板ナット	板ナット	NE/灰白	NE/灰白	中・少	—	—	6.7	2.8	
68	SP-0057	G10	0	須毛器	要	回転ナット	回転ナット (自然船)	回転ナット (自然船)	7.5Y7.1 灰白	7.5Y7.2 灰白	中・多	11.9	—	—	1.8	
69	SP-0059	G8	0	須毛器	杆	回転ナット	火燐有	回転ナット	5Y7.1 灰白	5Y7.1 灰白	細・少	14.0	—	—	1.8	
70	SP-0056	G8	0	須毛器	要	回転ナット	回転ヘラ切り戻	回転ナット	回転ナット後不定	7.5Y7.1 灰白	7.5Y7.1 灰白	細・少	12.6	1.7	9.4	1.8
71	SP-0070	G8	0	須毛器	杆	ヨコナット	回転ナット	ヨコナット	NE/灰	NE/灰	中・少	—	—	壁片	—	
72	SP-0070	G8	0	土面器	杆	回転ナット	回転ナット	回転ナット	7.5Y8.4 淡黄橙	7.5Y8.3 淡黄橙	中・少	10.9	—	—	1.8	
73	SP-0070	G8	0	土面器	杆	回転ナット	回転ナット	回転ナット	5Y8.1 灰白	5Y8.1 灰白	細・少	11.9	—	6.3	2.8	
74	SP-0070	G8	0	土面器	小皿	回転ナット	回転ヘラ切り戻	回転ナット	7.5YR7.6 橙	7.5Y7.6 橙	細・少	6.5	1.0	5.6	2.8	
75	SP-0072	G8	0	土面器	要	回転ナット	回転ナット	回転ナット	7.5Y5.4 に近い鶴	10YR6.4 に近い鶴	青鶴	細・少	20.8	—	—	2.8
76	SP-0073	G8	0	土面器	小皿	回転ナット	回転ヘラ切り戻	回転ナット	10Y8.8.2 灰白	10Y8.8.2 灰白	中・浅	6.1	1.0	4.7	2.8	
77	SP-0082	G8	0	須毛器	要	回転ナット	回転ナット	回転ナット	7.5Y7.1 灰白	7.5Y7.1 灰白	中・少	12.0	—	—	1.8	
78	SP-0081	G8	0	土面器	杆	回転ナット	回転ヘラ切り戻	回転ナット	7.5Y8.8.3 淡黄橙	7.5Y8.8.3 淡黄橙	細・少	10.6	2.8	7.2	2.8	
79	SP-0091	G8	0	土面器	杆	回転ナット	回転ナット	回転ナット	5Y7.1 灰白	5Y7.1 灰白	中・少	10.8	—	—	1.8	
80	SP-0090	G8	0	土面器	杆	回転ナット	回転ナット	回転ナット	7.5Y8.8.6 淡黄橙	7.5Y8.8.6 淡黄橙	細・少	10.0	3.0	5.4	1.8	
81	SP-0013	G8	0	須毛器	杆	回転ナット	回転ヘラ切り戻	回転ナット	NE/灰	NE/灰	細・少	—	—	6.6	1.8	
82	SP-0013	G8	0	須毛器	杆	回転ナット	回転ナット	回転ナット	N8/灰白	N8/灰白	細・少	—	—	8.4	1.8	
83	SP-0024	G8	0	土面器	小皿	回転ナット	回転ヘラ切り戻	回転ナット	5Y8.8.4 淡黄	25Y8.7.4 淡黄	中・少	11.0	—	—	1.8	
84	SP-0049	G8	0	土面器	小皿	回転ナット	回転ヘラ切り戻	回転ナット	5YR7.6 橙	5YR7.6 橙	細・少	6.6	—	6.7	1.8	
85	SP-0049	G8	0	須毛器	要	格子目タキ	格子目タキ	格子目タキ	N7/灰白	N7/灰白	中・多	—	—	壁片	—	
86	SP-0049	G8	0	須毛器	要	格子目タキ	格子目タキ	格子目タキ	青海波文底ナット	青海波文底ナット	N7/灰白	中・少	—	—	壁片	
87	SP-0039	G8	0	須毛器	杆	ヨコナット	体部に横方向の横線ナット四分割程度に	ヨコナット	N7/灰白	N7/灰白	中・少	—	—	5.2	3.8	
88	SP-0071	G8	0	土面器	小皿	回転ナット	回転ヘラ切り戻	回転ナット	10Y8.8.2 灰白	10Y8.8.2 灰白	細・少	6.8	0.9	6.0	1.8	
89	SP-0056	G10	0	須毛器	杆	回転ナット	回転ヘラ切り戻	回転ナット	5Y7.1 灰白	5Y7.1 灰白	細・多	—	—	6.7	2.8	
90	SP-0026	G8	0	土面器	小皿	回転ナット	回転ヘラ切り戻	回転ナット	25Y8.2 灰白	25Y8.2 灰白	細・少	10.7	—	—	壁片	
91	SP-0051	G8	0	土面器	小皿	回転ナット	回転ヘラ切り戻	回転ナット	10Y8.7.3 に近い鶴	10Y8.7.3 に近い鶴	細・少	7.1	—	壁片	—	

編 番 号	報告送搬名	地 点 名	層 位	種 類	部 位	調整 (外)	調整 (内)	色調(外) ・袖	色調(内) ・袖	砂 粒	口絆 (cm)	筋革 (cm)	筋 革	内 存 率	備 考
92	SPS0566	G 8	0	土面器	杆	回転ナット	回転ヘラ切り	回転ナット	10Y88.2灰白	25Y8.2灰白	細・少 (6.1)	1.3	6.6	1.8	
93	SPS0567	G 8	0	土面器	杆	回転ナット	回転ヘラ切り	回転ナット	25Y8.2灰白	25Y8.2灰白	細・少 (6.1)	1.0	6.3	1.8	鏡片
94	SPS0568	G 8	0	土面器	小皿	回転ナット	回転ヘラ切り	回転ナット	75Y88.6浅黄緑	75Y87.6緑	細・少 (6.1)	—	—	—	
95	SPS0573	G 8	0	須毛器	杆	回転ナット	回転ヘラ切り	回転ナット	N6 灰	N6 灰	細・少	—	—	—	8.0 1.8
96	SPS0561	G 8	0	須毛器	小皿	回転ナット	回転ヘラ切り	回転ナット	75Y88.3浅黄緑	75Y88.3浅黄緑	細・少 (6.1)	1.1	6.5	1.8	鏡片
97	SPS0563	G 8	0	須毛器	杆	回転ナット	回転ヘラ切り	回転ナット	10Y6.4 灰	10Y6.1灰	細・少 (15.8)	—	—	—	鏡片
98	SPS0565	G 8	0	須毛器	杆	回転ナット	回転ヘラ切り	回転ナット	75Y6.1灰	75Y6.1灰	細・少	—	—	—	6.0 1.8
99	SPS0566	G 8	0	須毛器	杆	回転ナット	回転ヘラ切り	回転ナット	75Y8.1灰白	75Y8.1灰白	細・少	—	—	—	6.0 1.8
101	SPS0503	G 8	0	土面器	小皿	回転ナット	回転ヘラ切り	回転ナット	5Y87.6 緑	5Y87.6 緑	細・少 (6.8)	—	—	—	4.9 1.8
102	SPS0503	G 8	0	土面器	杆	回転ナット	回転ヘラ切り	回転ナット	75Y86.4に5.5灰	75Y86.4に5.5灰	細・少 (6.4)	—	—	—	鏡片
103	SPS0504	G 8	0	土面器	小皿	回転ナット	回転ヘラ切り	回転ナット	75Y86.4に5.5灰	75Y86.4に5.5灰	細・少 (7.6)	1.1	6.0	1.8	
104	SPS0504	G 8	0	土面器	杆	回転ナット	回転ヘラ切り	回転ナット	25Y8.2灰白	25Y8.2灰白	細・少 (6.9)	—	—	—	5.8
105	SPS0526	G 8	0	土面器	杆	回転ナット	回転ヘラ切り	回転ナット	10Y88.4浅黄緑	10Y88.4浅黄緑	細・少 (6.0)	—	—	—	1.8
106	SPS0545	G 8	0	土面器	小皿	回転ナット	回転ヘラ切り	回転ナット	75Y87.6 緑	10Y88.4浅黄緑	中・少 (34.6)	—	—	—	1.8
107	SPS0558	G 8	0	須毛器	杆	回転ナット	回転ヘラ切り	回転ナット	N5 灰	N8 灰白	中・少 (14.8)	—	—	—	1.8
108	SPS0577	G 8	0	須毛器	小皿	回転ナット	回転ヘラ切り	回転ナット	N7 灰白	N7 灰白	中・少	—	—	—	1.8
109	SPS0570	G 8	0	土面器	杆	回転ナット	回転ヘラ切り	回転ナット	10Y88.1灰白	10Y87.7.3に5.5灰・黄緑	細・少 (15.3)	—	—	—	11.5 鏡片
110	SPS0502	G 8	0	土面器	足	ヨコナット	指サエ工房納ナダ	ヨコナット	10Y86.1灰白	10Y84.1脚灰	細・少 (23.0)	—	—	—	2.8
111	SPS0508	G 10	0	須毛器	棒鉢	指ナット	指ナット	指ナット	N5 灰	N5 灰	中・少 (17.4)	6.1	6.5	5.8	
112	SPS0511	G 8	0	土面器	杆	回転ナット	回転ヘラ切り	回転ナット	10Y88.4浅黄緑	10Y88.4浅黄緑	中・少	—	—	—	8.0 1.8
113	SPS0515	G 8	0	土面器	小皿	回転ナット	回転ヘラ切り	回転ナット	10Y88.3浅黄緑	10Y88.3浅黄緑	中・少 (8.0)	1.2	6.0	1.8	
115	SPS0519	G 8	0	強制陶器	蓋	回転ナット	回転ヘラ後油栓	漏脂	25Y6.2灰黄	3Y6.2灰黄	細・少 (14.7)	—	—	—	2.8
116	SPS0519	G 8	0	強制土器	蓋	回転ナット	回転ヘラ後油栓	漏脂	5Y7.1灰白	3Y4.1灰白	中・多	—	—	—	鏡片
117	SPS0519	G 8	0	強制土器	蓋	マエツ	マエツ	マエツ	10Y86.3に5.5灰	25Y7.3灰黄	細・多	—	—	—	鏡片
118	SPS0519	G 8	0	強制土器	蓋	マエツ	マエツ	マエツ	25Y7.2灰	25Y7.2灰	中・多 (38.4)	—	—	—	鏡片
119	SPS0519	G 8	0	強制土器	蓋	ナダ	ナダ	ナダ	25Y7.1灰	25Y7.1灰	細・多 (29.5)	—	—	—	鏡片
127	SPS0521	G 8	7	調文土器	浅鉢	ナダ	ナダ	ナダ	NA 灰	NA 灰	細・少	—	—	—	
128	SPS0521	G 8	0	調文土器	浅鉢	ヘタミガキ (マエツ)	ヘタミガキ (マエツ)	ヘタミガキ (マエツ)	25Y7.1灰	25Y7.2灰	細・少	—	—	—	鏡片
129	SPS0521	G 8	0	調文土器	先鉢	ヘタミガキ (マエツ)	ヘタミガキ (マエツ)	ヘタミガキ (マエツ)	25Y7.1灰	25Y7.2灰	細・少	—	—	—	鏡片
130	SPS0521	G 8	6	調文土器	浅鉢	ヘタミガキ	ヘタミガキ	ヘタミガキ	10Y84.1脚灰	10Y85.1脚灰	中・多	—	—	—	鏡片
131	SPS0521	G 8	7	調文土器	深鉢	ナダ	ナダ	ナダ	10Y85.1脚灰	10Y85.1脚灰	中・多	—	—	—	鏡片
132	SPS0521	G 8	0	調文土器	深鉢	ヨコナット	ヨコナット	ヨコナット	10Y85.1脚灰	10Y85.1脚灰	中・多 (32.0)	—	—	—	鏡片
133	SPS0521	G 8	1	調文土器	深鉢	ナダ	ナダ	ナダ	25Y7.5灰黄	10Y87.4に5.5黄	中・多 (30.4)	—	—	—	1.8
134	SPS0521	G 8	6	調文土器	浅鉢	ナダ	ナダ	ナダ	10Y85.2灰黄	10Y85.2灰黄	中・多 (32.6)	—	—	—	鏡片
135	SPS0522	G 8	1	調文土器	浅鉢	ナダ	ナダ	ナダ	10Y85.2灰黄	10Y85.2灰黄	中・多	—	—	—	鏡片
154	SPS0522	G 8	2	調文土器	浅鉢	ナダ	ナダ	ナダ	25Y7.4灰	25Y7.4灰	中・多	—	—	—	鏡片

報文番号	報告書機名	機器名	部位	種類	器種	調整 (H)	調整 (W)	色調 (H)	色調 (W)	形状 (cm)	形状 (cm)	高さ (cm)	高さ (cm)	参考
155	SKEc022	G 8	2脚	獨立式 曳引棒	柔軟 柔軟	柔軟?	(マツツ)	マツツ	25Y7/3 黄	25Y7/2 黄	中・浅	—	—	—
156	SKEc022	G 8	0	獨立式 曳引棒	柔軟 柔軟	柔軟?	(マツツ)	マツツ	25Y7/2 黄	25Y6/2 黄	中・多	—	—	—
157	SKEc022	G 8	2脚	獨立式 曳引棒	柔軟 柔軟	柔軟?	(マツツ)	マツツ	25Y7/4 黄	25Y7/1 白	中・浅	—	—	—
158	SKEc022	G 8	2脚	独立式 曳引棒	柔軟 柔軟	柔軟?	(マツツ)	マツツ	25Y7/2 黄	25Y7/1 白	中・浅	—	—	8.8
159	SKEc022	G 8	2脚	獨立式 曳引棒	柔軟 柔軟	柔軟?	(マツツ)	マツツ	25Y6/8 白	25Y7/1 黑	中・多	—	—	—
174	STc001	G 8	0	土脚器	小皿	圆板+ナット	(マツツ)	マツツ	75Y7/6 棕	75Y7/6 棕	細・少	68.0	1.0	65.8
175	STc001	G 8	0	土脚器	小皿	圆板+ナット	(マツツ)	マツツ	25Y8/1 白	25Y8/1 白	中・浅	69.4	—	—
176	STc001	G 8	0	土脚器	小皿	圆板+ナット	(マツツ)	マツツ	75Y8/4 金	5YR7/6 棕	中・少	72.8	—	65.9
177	STc001	G 8	0	土脚器	小皿	圆板+ナット	(マツツ)	マツツ	10Y8/4 黄	10Y8/4 黄	中・浅	67.4	1.0	66.0
178	STc001	G 8	0	土脚器	小皿	圆板+ナット	(マツツ)	マツツ	75Y7/6 棕	75Y7/6 棕	中・少	67.9	1.0	67.0
179	STc001	G 8	0	土脚器	小皿	圆板+ナット	(マツツ)	マツツ	5YR7/6 棕	5YR7/6 棕	中・浅	67.0	1.0	66.0
180	STc001	G 8	0	土脚器	小皿	圆板+ナット	(マツツ)	マツツ	75Y8/6 黄	10Y8/3 金	中・浅	67.9	1.0	65.6
181	STc001	G 8	0	土脚器	小皿	圆板+ナット	(マツツ)	マツツ	10Y8/2 白	10Y8/2 白	细・少	66.8	—	65.2
182	STc001	G 8	0	土脚器	小皿	圆板+ナット	(マツツ)	マツツ	10Y8/2 白	10Y8/2 白	细・少	—	—	—
183	STc001	G 8	0	土脚器	杆	圆板+ナット	(マツツ)	マツツ	10Y8/3 金	10Y8/2 白	中・浅	61.0	3.3	68.4
184	STc001	G 8	0	土脚器	杆	圆板+ナット	(マツツ)	マツツ	25Y8/2 白	25Y8/2 白	细・少	62.0	—	—
185	STc001	G 8	0	土脚器	杆	圆板+ナット	(マツツ)	マツツ	10Y8/4 黄	10Y8/3 金	细・少	60.8	—	66.5
186	STc001	G 8	0	土脚器	杆	圆板+ナット	(マツツ)	マツツ	NS/ 黑	NS/ 黑	中・少	61.7	—	—
187	STc001	G 8	0	土脚器	杆	圆板+ナット	(マツツ)	マツツ	25Y7/1 黑	10Y8/6 黑	中・少	—	—	—
188	STc001	G 8	0	土脚器	杆	圆板+ナット	(マツツ)	マツツ	75Y7/1 白	25Y7/2 黄	细・少	65.8	—	—
190	STc002	G 8	0	土脚器	杆	圆板+ナット	(マツツ)	マツツ	10Y8/3 黄	10Y8/2 黄	细・少	—	—	—
191	STc002	G 8	0	土脚器	杆	圆板+ナット	(マツツ)	マツツ	75Y7/6 棕	10Y8/3 黄	细・少	69.8	—	—
192	SEc001	G 10	上端	頸部器	杆	高合付接合ナット	(マツツ)	マツツ	NS/ 白	NS/ 白	中・多	—	—	11.0
194	SEc004	G 10	0	土脚器	杆	圆板+ナット	(マツツ)	マツツ	25Y8/2 白	25Y8/2 白	中・浅	69.2	1.8	76.8
195	SEc004	G 10	0	土脚器	杆	圆板+ナット	(マツツ)	マツツ	10Y8/3 金	10Y8/3 金	中・浅	—	—	1.8
196	SEc005	G 10	0	頸部器	杆	圆板+ナット	(マツツ)	マツツ	NS/ 白	NS/ 白	中・少	—	66.8	2.8
197	SEc005	G 10	0	頸部器	杆	圆板+ナット	(マツツ)	マツツ	10Y7/1 白	N7/ 黑	中・少	—	66.8	2.8
198	SEc005	G 10	0	頸部器	杆	圆板+ナット	(マツツ)	マツツ	75Y8/1 黑	75Y8/1 黑	中・少	62.5	—	—
199	SEc005	G 10	0	頸部器	杆	圆板+ナット	(マツツ)	マツツ	10Y8/3 黄	10Y8/3 黄	中・少	61.0	—	67.4
200	SEc005	G 10	0	頸部器	杆	圆板+ナット	(マツツ)	マツツ	75Y8/3 黄	75Y8/3 黄	中・少	64.0	—	—
201	SEc005	G 10	0	頸部器	杆	高合削出	(マツツ)	マツツ	N7/ 黑	N7/ 黑	—	—	67.0	4.8

報告書番号	地名	層位	種類	断面	調整(外)	調整(内)	色調(%)	粘土	砂粒 (cm)	口径 (cm)	高さ (cm)	保存率	備考
202	SCe016	G10	0	須恵器 杯	回転ナメ ナメ	回転ナメ ナメ	N7/灰白	N8/灰白	中・少 (17.0)	—	—	1.8	
203	SCe016	G10	0	須恵器 杯	回転ナメ ナメ	回転ナメ ナメ	N7/灰白	N7/灰白	中・少 (10.6)	—	—	1.8	
204	SCe016	G10	0	須恵器 杯	回転ナメ ナメ	回転ナメ ナメ	N7/灰白	N7/灰白	中・少 (10.6)	—	—	6.0	1.8
205	SCe016	G10	0	須恵器 杯	回転ナメ ナメ	回転ナメ ナメ	25Y8.1灰白	10YR7.3に5%黄 褐色	中・多 —	—	—	7.2	4.8
206	SCe016	G10	0	須恵器 杯	回転ナメ ナメ	回転ナメ ナメ	5Y8.1灰白	5Y8.1灰白	中・少 —	—	—	6.0	1.8
207	SCe016	G10	0	須恵器 杯	回転ナメ ナメ	回転ナメ ナメ	5Y8.1灰白	5Y8.1灰白	中・多 —	—	—	6.0	1.8
208	SCe016	G10	0	須恵器 杯	回転ナメ ナメ	回転ナメ ナメ	N8/灰白	N7/灰白	中・少 (12.6)	2.8	7.0	1.8	
209	SCe016	G10	0	須恵器 甕	回転ナメ ナメ	回転ナメ ナメ	N5/灰 青海波文模様ナメ	N5/灰 青海波文模様ナメ	中・少 (12.4)	—	—	1.8	
210	SCe016	G10	0	須恵器 甕	回転ナメ ナメ	回転ナメ ナメ	N6/灰 板子ナメ模様ナメ	N6/灰 板子ナメ模様ナメ	中・少 (12.1)	—	—	1.8	洗削の痕跡内側に爪 型有
211	SCe016	G10	0	須恵器 甕	回転ナメ ナメ	回転ナメ ナメ	N8/灰白	N7/灰白	中・少 —	—	—	7.0	1.8
212	SCe016	G10	0	須恵器 甕	回転ナメ ナメ	回転ナメ ナメ	N4/灰 滑石模様ナメ	N8/灰白	中・多 —	—	—	(13.0)	2.8
213	SCe016	G10	0	須恵器 甕	滑石ナメ ナメ	滑石ナメ ナメ	5Y7.1灰白	5Y8.1灰白	中・多 —	—	—	—	碗片
214	SCe016	G10	0	須恵器 甕	滑石ナメ ナメ	滑石ナメ ナメ	N5/灰 青海波文模様ナメ	N5/灰 青海波文模様ナメ	中・少 —	—	—	—	碗片
215	SCe016	G10	0	須恵器 甕	回転ナメ ナメ	回転ナメ ナメ	5Y7.1灰白	3Y7.1灰白	中・少 (5.0)	—	—	—	碗片
216	SCe016	G10	0	須恵器 甕	回転ナメ ナメ	回転ナメ ナメ	5Y7.1灰白	5Y6.1灰 青海波文模様ナメ	中・少 (0.0)	—	—	—	1.8
217	SCe016	G10	0	須恵器 甕	回転ナメ ナメ	回転ナメ ナメ	25Y8.2灰白	25Y8.2灰白	中・遠 —	—	—	—	碗片
218	SCe016	G10	0	土器甕 杯	回転ナメ ナメ	回転ナメ ナメ	10Y8.8.2灰白	5Y5.1灰	中・近 —	—	—	6.0	1.8
219	SCe016	G10	0	土器甕 杯	回転ナメ ナメ	回転ナメ ナメ	25Y8.7灰 青海波文模様ナメ	25Y8.7灰 青海波文模様ナメ	中・近 —	—	—	7.0	2.8
220	SCe016	G10	0	土器甕 杯	回転ナメ ナメ	回転ナメ ナメ	25Y8.3灰 青海波文模様ナメ	25Y8.3灰 青海波文模様ナメ	中・少 (13.8)	2.4	6.7	4.8	
221	SCe016	G10	0	土器甕 杯	回転ナメ ナメ	回転ナメ ナメ	25Y8.3灰 青海波文模様ナメ	10Y8.8.4灰 青海波文模様ナメ	中・近 —	—	—	7.0	2.8
222	SCe016	G10	0	土器甕 杯	回転ナメ ナメ	回転ナメ ナメ	10Y8.8.2灰白	25Y8.1黄 褐色	中・近 (23.7)	—	—	1.8	
223	SCe016	G10	0	土器甕 杯	回転ナメ ナメ	回転ナメ ナメ	横方向のナメ ナメ	7.5YR6.4に5%黄 褐色	中・近 (28.6)	—	—	碗片	
224	SCe016	G10	0	土器甕 杯	回転ナメ ナメ	回転ナメ ナメ	10Y8.6.3に5%黄 褐色	10Y8.6.3に5%黄 褐色	中・近 (67.9)	—	—	碗片	
225	SCe016	G10 2~3 m	0	土器甕 杯	回転ナメ ナメ	回転ナメ ナメ	N3/陶 瓦	10Y8.3灰 青海波文模様ナメ	中・近 (38.2)	—	—	1.8	
226	SCe017	G10	0	須恵器 杯	回転ナメ ナメ	回転ナメ ナメ	5Y8.1灰白	5Y8.1灰白	中・少 —	—	—	7.0	2.8
227	SCe017	G10	0	須恵器 杯	回転ナメ ナメ	回転ナメ ナメ	N6/灰	N6/灰	中・近 (12.3)	3.1	7.0	1.8	
228	SCe017	G10	上層	須恵器 杯	回転ナメ ナメ	回転ナメ ナメ	N8/灰白	N8/灰白	中・少 —	—	—	7.0	1.8
229	SCe017	G10	上層	須恵器 杯	回転ナメ ナメ	回転ナメ ナメ	25Y7.1灰白	25Y7.1灰白	中・少 —	—	—	7.0	1.8

報文番号	報告書名	場所名	部位	種類	器種	調整 (外)	調整 (内)	色調 (外)・輪	色調 (内)・輪	砂粒	口径 (mm)	薬量 (kg)	底括 (cm)	参考
230	SEd07	G10	0	須毛器	透	回転・ホイール	回転ナット	N7/灰白	N7/灰白	中・少	—	(10.4)	2.8	
231	SEd07種豆用	G10	0	須毛器	透	切り抜きナット	回転ナット	25Y8.2灰白	25Y8.2灰白	中・少	—	(13.9)	1.8	
232	SEd07	G10	0	須毛器	透	青海波ナット	回転ナット	25Y8.1灰白	25Y8.1灰白	中・少	—	—	—	繊片
233	SEd07	G10	0	須毛器	鉢	格子ナット(マツツ)	回転ナット	5Y8.1灰白	5Y8.1灰白	中・少	—	(11.6)	—	1.8
234	SEd07	G10	下部	土脚器	杆	指オサエ回転ナット	回転	73Y8.7/4/5/6/7	10Y8.7/3/4/5/6/7	中・少	—	—	—	繊片
235	SEd07	G10	0	土脚器	杆	回転ナット	回転ナット	10Y8.5/1灰白	10Y8.5/1灰白	中・少	—	—	—	繊片
236	SEd07	G10	0	土脚器	杆	回転ナット	回転ナット	10Y8.8/3灰黄	10Y8.8/3灰黄	中・少	(14.0)	—	—	1.8
237	SEd07	G10	0	黒色土器	桿	ヘラ切り後台付耐油塗	ヘラミガタ(マツツ)	5Y7G.4/5/6/7	10Y7A.1耐油	中・少	—	—	(6.1)	3.8
238	SEd08	G10	0	須毛器	杆	回転ナット	回転ナット	25Y8.2灰白	25Y8.3淡黄	中・少	12.8	3.5	7.5	7.8
239	SEd08	G10	0	須毛器	杆	回転ナット	回転ナット	N8/灰白	N8/灰白	中・少	(16.6)	—	—	繊片
240	SEd08	G10	0	須毛器	透	青海波ナット	回転ナット	N6/灰	N7/灰白	中・少	—	—	—	繊片
241	SEd08	G10	0	須毛器	透	格子ナット	回転ナット	73Y8.1灰白	25Y8.1灰白	中・少	—	—	—	ナリ用し不十分当
242	SEd09	G10	0	須毛器	鉢	回転ナット(マツツ)	回転ナット	73Y8.7/6	73Y8.7/6	中・少	6.0	0.9	0.58	1.8
243	SEd09	G10	0	須毛器	小皿	回転ナット	回転ナット	5Y8.7/6	5Y8.7/6	中・少	(7.1)	1.0	6.2	2.8
244	SEd07	G 8	0	土脚器	小皿	回転ナット	回転ナット	10Y8.8/3灰黄	10Y8.8/3灰黄	中・少	—	—	—	繊片
245	SEd07	G 8	0	土脚器	小皿	不定方ナット	回転ナット	10Y8.8/3灰黄	10Y8.8/3灰黄	中・少	—	—	—	繊片
246	SEd07	G 8	0	土脚器	小皿	回転ナット	回転ナット	10Y8.8/3灰黄	10Y8.8/3灰黄	中・少	(7.6)	1.1	6.4	2.8
247	SEd07	G 8	0	須毛器	杆	回転ナット	回転ナット	N8/灰白	N8/灰白	中・少	—	—	—	繊片
248	SEd07	G 8	0	須毛器	杆	回転ナット	回転ナット	73Y8.1灰	73Y8.1灰	中・少	—	—	—	繊片
249	SEd07	G 10	0	須毛器	桿	回転ナット	回転ナット	25Y8.4灰白	25Y8.4灰白	中・少	—	—	—	繊片
250	SEd07	G 8	0	須毛器	桿	高台付後ナット	回転ナット	10Y8.8/2灰白	5Y8.1灰白	中・少	—	—	(7.0)	2.8
251	SEd07	G 8	0	黒色土器	桿	ヘラミガタ(マツツ)	ヘラミガタ(マツツ)	5Y7.1灰白	5Y7.1灰	中・少	—	—	—	繊片
252	SEd07	G 8	0	黒色土器	桿	横方向のヘラミガタ	指オサエ回転ナット	10Y8.8/2灰白	10Y8.8/2灰白	中・少	(16.4)	—	—	繊片
253	SEd07	G 8	0	土脚器	属	ヨコナット	指オサエ回転ナット	10Y8.4/1灰白	10Y8.4/1灰白	中・少	—	—	—	繊片
254	SEd07	G 8	0	瓦器	桿	指オサエ後台付耐油ナット	ハケ飛ナットヘタミガタ	73Y8.1灰	73Y8.1灰	中・少	—	—	—	繊片
255	SEd07	G 8	0	瓦器	桿	指オサエナット	高台付耐油ナット	N5/灰	N5/灰	中・少	—	—	—	1.8
256	SEd07	G10	0	須毛器	圓筒型	回転ナット	回転ナット	25G7.1明オリアーブ	25G7.1明オリアーブ	中・少	—	—	—	繊片
257	SEd07	G10	0	白磁	桿	施施	—	5Y7.1灰白	5Y7.1灰白	中・少	(17.7)	—	—	1.8
258	SEd07	G 8	0	土脚器	管状土清	—	—	5Y7.1灰白	5Y7.1灰白	中・少	33	11.3	1.2	7.8

輸文 番号	報告送達済名	地名	届け先	種類	記録	調整(外)	調整(内)	色調(外)・輪	色調(内)・輪	砂粒	口径 (cm)	管筋 (cm)	管壁 (cm)	管外半 径(cm)	備考
259	SEd028	G10	0	須毛器	皿	回転ナード 回転ヘタ切り後 不定方孔ナード	N7/灰白	N7/灰白	10Y88.2灰白	中・少	143.9	1.7	(10.2)	1.8	
260	SEd028	G10	0	須毛器	皿	高品質仕上ナード (マツリ) ナード (マツリ)	25Y8.4灰黄	25Y8.4灰黄	5PB6.1青灰	中・少	—	—	6.7	3.8	
261	SEd034	G10	0	土面器	杯	回転ナード 回転ヘタ切り後 高品質仕上ナード (マツリ) ナード (マツリ)	N6/灰	5PB6.1青灰	5PB6.1青灰	中・少	—	—	6.8	2.8	
262	SEd044	G10	0	須毛器	皿	回転ナード 格子目タキシ 優	5PB6.1青灰	5PB6.1青灰	中・少	—	—	—	3.8	—	
263	SEd072	G.8	0	須毛器	皿	回転ナード 回転ヘタカキナード 指サエ工後回	25Y8.1灰白	25Y8.1灰白	N6/灰	中・少	153.0	—	—	2.8	
264	SEd072	G.8	0	須毛器	皿	回転ナード 回転ヘタカキナード 指サエ工後回	N7/灰白	N7/灰白	N6/灰	中・少	153.0	—	—	1.8	
265	SEd072	G.8	0	須毛器	皿	回転ナード 回転ヘタカキナード 指サエ工後回	N7/灰白	N7/灰白	N6/灰	中・少	111.0	—	—	2.8	
266	SEd072	G.8	0	須毛器	杯	回転ナード 回転ヘタカキナード 指サエ工後回	N6/灰	N6/灰	N6/灰	中・少	111.0	—	—	1.8	
267	SEd072	G.8	0	須毛器	皿	回転ヘタカキナード 腹部内側 回転ナード	N7/灰白	N7/灰白	N5/灰	中・少	—	—	—	5.8	
268	SEd072	G.8	0	須毛器	皿	青海波文鏡ナード	N5/灰	N5/灰	N7/灰白	中・少	—	—	—	碗	
269	SEd072	G.8	0	須毛器	皿	回転ナード 回転ヘタカキナード	N7/灰白	N7/灰白	N6/灰	中・少	—	—	—	1.8	
270	SEd072	G.8	0	須毛器	皿	回転ナード 1条北縁 手持 回転ナード	5Y7.1灰白	5Y7.1灰白	N6/灰	中・少	—	—	(4.6)	8.8 (母乳化)	
271	SEd072	G.8	0	須毛器	皿	回転ナード ヨコナード 指サエ工後ナード	10Y87.2/15.4灰青	10Y87.2/15.4灰青	75. YR 8.4浅原	中・少	21.0	—	—	1.8	
272	SEd072	G.8	0	土面器	皿	回転ナード 指サエ工後ナード	10Y88.2灰白	10Y88.2灰白	75. YR 8.4浅原	中・少	—	—	碗	—	
273	SEd073	G.8	0	土面器	皿	回転ナード 見落	N7/灰白	N7/灰白	N7/灰白	中・少	—	—	—	碗	
274	SEd074	G.8	0	須毛器	皿	回転ナード 回転ヘタカキナード 回転ナード	N7/灰白	N7/灰白	N6/灰	中・少	143.9	—	—	1.8	
275	SEd074	G.8	0	須毛器	皿	平行タキシ 后カキ日 回転 回転ナード 青海波文	N5/灰	N5/灰	N7/灰白	中・少	135.0	—	—	2.8	
276	SEd074	G.8	0	須毛器	皿	回転ナード 回転ヘタカキ日 青海波文	N7/灰白	N7/灰白	N6/灰	中・少	—	—	—	碗片	
277	SEd074	G.8	0	土面器	皿	高品質仕上回転ヘタ切り後 回転ナード	10Y88.2灰白	10Y88.2灰白	N5/灰	中・少	—	—	(4.3)	2.8	
278	SEd074	G.8	0	須毛器	皿	回転ナード 高品質仕上回転ヘタ切り後 不定方向の板ナード	25Y8.1灰白	25Y8.1灰白	N5/灰白	中・少	143.9	4.0	5.4	3.8	
279	SEd074	G.8	0	須毛器	皿	回転ナード 不定方向の板ナード 鋸形する板ナード	N7/灰白	N7/灰白	5Y8.1灰白	中・少	—	—	—	1.8	
280	SEd074	G.8	0	須毛器	皿	回転ナード ナード化ナード	5Y8.1灰白	5Y8.1灰白	5Y8.1灰白	中・少	—	—	5.6	3.8	
281	SEd074	G.8	0	須毛器	皿	回転ナード ヘタ切り風船状 回転ナード 高台付後見込	75Y8.1灰白	75Y8.1灰白	75Y8.1灰白	中・少	—	—	(4.6)	2.8	
282	SEd074	G.8	0	須毛器	皿	回転ナード 傷目状ナード	N7/灰白	N7/灰白	N5/灰	中・少	—	—	—	碗	
283	SEd074	G.8	0	須毛器	皿	ナード	10Y88.2灰白	25Y8.2灰白	N5/灰	中・少	—	—	5.6	1.8	
284	SEd074	G.8	0	須毛器	皿	回転ナード 回転ヘタ切り後 不定方向の板ナード	N8/灰白	N8/灰白	N8/灰白	中・少	—	—	(4.7)	3.8	
285	SEd074	G.8	0	五貫土器	皿	回転ナード (マツリ) ナード (マツリ)	25Y8.1灰白	25Y8.1灰白	5Y6.1灰	中・少	143.2	—	—	碗	
286	SEd074	G.8	0	土面器	皿	(共にマツリ)	10Y87.3/15.4灰青	10Y87.3/15.4灰青	75Y7.1灰白	中・少	—	—	(12.2)	2.8	
287	SEd074	G.8	0	須毛器	皿	指サエ工後見込	25Y7.1灰白	25Y7.1灰白	N7/灰白	中・少	—	—	6.5	2.8	
288	SEd074	G.8	0	上端	皿	回転ナード ヨコナード	N6/灰	N6/灰	N6/灰	中・少	—	—	—	碗	
289	SEd074	G.8	0	須毛器	皿	指サエ工後見込	N6/灰	N6/灰	N6/灰	中・少	—	—	—	碗	

報文番号	報告書標名	場所名	部位	種類	器種	調整(例)	調整(例)	色調(例)・輪	色調(例)・輪	口径 (cm)	器高 (cm)	底括 (cm)	操作半 径	参考
290	SRc001	G 8	0	頸部器	鏡	平行リラキ	板ナード	N5/灰	N7/灰白	細・少	—	—	—	鏡片
291	SRc001	G 8	0	頸部器	鏡	格子リラキ	板ナード	N5/灰	N7/灰白	細・少	—	—	—	鏡片
292	SRc001	G 8	0	頸部器	鏡	回転ナード	回転ナード	N8/灰白	N7/灰白	細・少	—	—	—	鏡片
293	SRc001	G 8	0	頸部器	鏡	回転ナード後板ナード後指ナード	回転ナード	73Y7/1灰白	N8/灰白	中・多	(28)6	—	—	内面下手方に鏡面に付く。あらざれのアーチ
294	SRc001	G 8	0	頸部器	鏡	切削後板ナード	回転ナード(物織なナード)	N7/灰白	N7/灰白	細・少	—	—	—	アーチ
295	SRc001	G 8	0	頸部器	鏡	回転ナード	回転ナード	N6/灰	N6/灰	細・少	(21)4	—	—	鏡片
296	SRc001	G 8	0	頸部器	鏡	回転ナード	回転ナード	N7/灰白	N7/灰白	細・少	(12)5	—	—	鏡片
297	SRc001	G 8	0	頸部器	鏡	回転ナード	回転ナード	N4/灰	N6/灰	細・少	(11)1	—	—	2.8
298	SRc001	G 8	0	頸部器	鏡	回転ナード	回転ナード	N8/灰白	N8/灰白	細・少	(11)8	—	—	1.8
299	SRc001	G 8	0	頸部器	鏡	回転ナード	回転ナード	N7/灰白	N7/灰白	中・少	(14)7	—	—	鏡片
300	SRc001	G 8	0	頸部器	鏡	回転ナード	回転ナード	N7/灰白	N8/灰白	細・少	—	—	—	3.8
301	SRc001	G 8	0	音匣	鏡	高台切り後施	露施	73Y6/2灰モリード	無	—	—	6.0	3.8	—
302	SRc001	G 8	0	頸部器	鏡	回転ナード	回転ナード	73Y7/6灰	73Y7/6灰	中・少	(5)5	0.8	(5)4	2.8
303	SRc001	G 8	0	頸部器	鏡	回転ナード	回転ナード	5YR7/6 級	5YR7/6 級	細・少	6.5	1.4	14.2	鏡片
304	SRc001	G 8	0	頸部器	鏡	回転ナード	回転ナード	23Y8/2灰白	23Y8/2灰白	—	—	—	—	—
305	SRc001	G 8	0	頸部器	鏡	回転ナード	回転ナード	73Y8/3灰黄橙	73Y8/3灰黄橙	細・少	(8)0	1.0	(5)8	1.8
306	SRc001	G 8	0	頸部器	鏡	回転ナード	回転ナード	23Y8/2灰白	23Y8/2灰白	中・差	14.6	3.7	8.3	4.8
307	SRc001	G 8	0	頸部器	鏡	回転ナード	回転ナード	73Y8/2灰白	73Y8/2灰白	細・少	(13)0	—	—	1.8
308	SRc001	G 8	0	頸部器	鏡	回転ナード	回転ナード	10Y8/2灰白	10Y8/2灰白	中・少	13.3	3.2	6.5	7.8
309	SRc001	G 8	0	頸部器	鏡	回転ナード	回転ナード	23Y8/1灰白	23Y8/1灰白	中・少	(12)0	—	—	3.8
310	SRc001	G 8	0	頸部器	鏡	回転ナード	回転ナード	10Y8/3灰黄橙	10Y8/3灰黄橙	細・少	(10)9	—	—	鏡片
311	SRc001	G 8	0	頸部器	鏡	回転ナード	回転ナード	10Y8/3灰黄橙	10Y8/3灰黄橙	中・少	(6)8	—	(6)3	2.8
312	SRc001	G 8	0	頸部器	鏡	回転ナード	回転ナード	10Y8/2灰白	10Y8/2灰白	細・少	(6)7	—	6.7	1.8
313	SRc001	G 8	0	頸部器	鏡	回転ナード	回転ナード	10Y8/3灰黄橙	10Y8/3灰黄橙	細・少	6.0	—	—	2.8
314	SRc001	G 8	0	頸部器	鏡	高台切り後コナナード	板ナード	10Y8/2灰白	10Y8/2灰白	細・少	(22)0	—	—	2.8
315	SRc001	G 8	0	頸部器	鏡	回転ナード	回転ナード	10Y8/3/4灰黄橙	10Y8/3/4灰黄橙	細・少	(26)0	—	—	1.8
316	SRc001	G 8	上端	頸部器	鏡	ヨコナード	ヨコナード	10Y8/3/4灰黄橙	10Y8/3/4灰黄橙	中・少	(19)0	—	—	鏡片
317	SRc001	G 8	0	頸部器	鏡	ヨコナード	ヨコナード	23Y5/2灰灰黄	23Y5/2灰灰黄	中・差	(18)1	—	—	1.8

報告書番号	地名	層位	種類	断面	調整(%)	調整(%)	色調(%)	断土	砂粒	口径(cm)	漂砾(cm)	風化率	備考
318	SBCd01	G 8	0	土壌器	足跡	指オサニ後ナデ	ナデ	23Y58.3に赤い黄	—	中・少	16.2	2.8	—
319	SBCd01	G 8	0	土壌器	足跡	指オサニ後ナデ	指オサニ後ナデ	10Y85.2灰黄褐	10Y85.4灰黄褐	中・差	16.2	2.5	—
320	SBCd01	G 8	0	土壌器	足跡	ヨコナダ ^ア 指ナダ ^ア	ヨコナダ ^ア 指ナダ ^ア	10Y85.3に赤い黄褐	10Y87.3に赤い黄褐	中・差	10.9	2.5	—
321	SBCd01	G 8	0	土壌器	足跡	ヨコナダ ^ア 指ナダ ^ア	ヨコナダ ^ア 指ナダ ^ア	10Y86.3に赤い黄褐	10Y87.4に赤い黄褐	中・少	10.9	2.5	—
322	SBCd01	G 8	0	土壌器	足跡	指オサニ後ナデ	指オサニ後ナデ	10Y83.2黒褐	10Y87.3に赤い黄褐	中・少	10.6	2.5	—
323	SBCd01	G 8	0	土壌器	足跡	ハケ	ハケ	7AY87.3に赤い黄褐	10Y87.3に赤い黄褐	中・差	—	0.9	—
324	SBCd01	G 8	0	土壌器	足跡	指ナダ ^ア 指ナダ ^ア	指ナダ ^ア 指ナダ ^ア	10Y85.3に赤い黄褐	10Y87.4に赤い黄褐	中・差	—	0.9	—
325	SBCd01	G 8	0	土壌器	足跡	指オサニ後ナデ	指オサニ後ナデ	23Y56.5灰褐	10Y88.4灰黄褐	中・多	—	0.9	—
326	SBCd01	G 8	0	土壌器	足跡	指ナダ ^ア 指ナダ ^ア	指ナダ ^ア 指ナダ ^ア	5Y44.1灰	3Y44.1灰	中・少	3.4	1.2	1.1
327	SBCd02	G 10	0	瓦質土器	足跡	ヨコナダ ^ア ハケ	ヨコナダ ^ア ハケ	23Y54.1灰灰	75Y86.4に赤い黄	中・差	31.8	—	—
328	SBCd02	G 10	0	土壌器	足跡	ナダ ^ア (アツアツ)	ナダ ^ア (アツアツ)	10Y88.2灰白	10Y88.3灰黄	中・差	27.9	—	—
329	SBCd02	G 10	0	土壌器	足跡	指オサニ後ナデ	指オサニ後ナデ	23Y58.3灰黄	10Y88.4灰黄褐	中・少	25.4	—	—
330	SBCd06	G 8	0	土壌器	足跡	指オサニ後ナデ	指オサニ後ナデ	23Y58.3灰黄	10Y88.4灰黄褐	中・少	18.0	—	—
331	SBCd06	G 8	0	土壌器	足跡	指オサニ後ナデ	指オサニ後ナデ	7AY87.6灰	75Y86.4灰黄褐	中・差	31.8	—	—
332	SBCd06	G 8	0	土壌器	足跡	指オサニ後ナデ	指オサニ後ナデ	10Y88.2灰白	10Y88.3灰黄	中・少	25.4	—	—
333	SBCd06	G 8	0	土壌器	足跡	指オサニ後ナデ	指オサニ後ナデ	23Y58.3灰黄	10Y88.4灰黄褐	中・少	18.0	—	—
334	SBCd06	G 8	0	土壌器	足跡	指オサニ後ナデ	指オサニ後ナデ	10Y88.2灰白	10Y88.3灰黄	中・少	18.0	—	—
335	SBCd06	G 8	0	土壌器	足跡	指オサニ後ナデ	指オサニ後ナデ	7AY87.6灰	75Y86.4灰黄褐	中・少	18.0	—	—
336	SBCd06	G 8	0	土壌器	足跡	指オサニ後ナデ	指オサニ後ナデ	10Y88.2灰白	10Y88.3灰黄	中・少	26.3	—	—
337	SBCd06	G 8	0	土壌器	足跡	指オサニ後ナデ	指オサニ後ナデ	10Y88.2灰白	10Y88.3灰黄	中・少	28.1	—	—
338	SBCd06	G 8	0	土壌器	足跡	指オサニ後ナデ	指オサニ後ナデ	10Y84.2灰白	10Y88.2灰白	中・少	29.2	—	—
339	SBCd06	G 8	0	土壌器	足跡	指オサニ後ナデ	指オサニ後ナデ	23Y58.2灰白	10Y88.2灰白	中・少	43.0	—	—
340	SBCd06	G 8	0	土壌器	足跡	指オサニ後ナデ	指オサニ後ナデ	10Y85.1灰灰	10Y87.3に赤い黄	中・少	30.4	—	—
341	SBCd06	G 8	0	土壌器	足跡	指オサニ後ナデ	指オサニ後ナデ	10Y85.2灰黄褐	10Y88.3灰黄	中・少	30.4	—	—
342	SBCd06	G 8	0	土壌器	足跡	指オサニ後ナデ	指オサニ後ナデ	7AY88.2灰黄	23Y58.2灰白	中・差	30.4	—	—
343	SBCd06	G 8	0	土壌器	足跡	指オサニ後ナデ	指オサニ後ナデ	10Y85.1灰白	10Y88.2灰白	中・少	30.4	—	—
344	SBCd06	G 8	0	陶器	足跡	指オサニ後ナデ	指オサニ後ナデ	7AY88.2灰白	10Y85.1灰白	中・少	—	—	—
345	SBCd06	G 8	0	瓦質土器	足跡	ヨコナダ ^ア 指方向のハケ	ヨコナダ ^ア 指方向のハケ	75Y86.4に赤い黄	75Y86.4に赤い黄	中・差	34.2	—	—
346	SBCd06	G 8	0	陶器	小皿	圓形ナダ ^ア	圓形ナダ ^ア	23Y58.4に赤い黄	23Y58.4に赤い黄	中・少	29.8	—	—
347	SBCd07	G 8	0	須世器	足跡	圓形ナダ ^ア	圓形ナダ ^ア	NG/灰	NG/灰	中・少	—	—	—
350	包含層	G 8	0	土壌器	足跡	圓形ナダ ^ア	圓形ナダ ^ア	10Y87.4に赤い黄	75Y87.6灰	中・少	6.3	0.9	6.0
351	包含層	G 8	0	須世器	足跡	圓形ナダ ^ア	圓形ナダ ^ア	5Y71.1灰白	3Y71.1灰白	中・少	16.8	—	—
352	包含層	G 10	0	須世器	足跡	圓形ナダ ^ア 別形ナダ ^ア	圓形ナダ ^ア 別形ナダ ^ア	10Y85.4に赤い黄	23Y55.2灰	中・少	13.7	—	—
353	包含層	G 10	0	須世器	足跡	圓形ナダ ^ア 別形ナダ ^ア	圓形ナダ ^ア 別形ナダ ^ア	NG/灰	NG/灰	中・多	—	—	1.8
354	包含層	G 10	0	須世器	足跡	圓形ナダ ^ア 別形ナダ ^ア	圓形ナダ ^ア 別形ナダ ^ア	7AY85.3に赤い黄	75Y85.1灰	中・多	—	—	1.8
355	包含層	G 10	0	須世器	足跡	圓形ナダ ^ア 別形ナダ ^ア	圓形ナダ ^ア 別形ナダ ^ア	NG/灰	NG/灰	中・少	—	—	0.9

報文番号	報告者情報名	場所名	部位	種類	器種	調整 (外)	調整 (内)	色調 (%) - 色	色調 (%) - 斜上	砂粒	口径 (mm)	薬筒 (mm)	底括 (mm)	操作半	備考
356	包含層	G 8	0	須毛器	杆	回転ナット	回転ヘーラ切り	N4/灰	N4/灰	中・少	—	—	6.5	2.8	
357	包含層	G 8	0	須毛器	杆	回転ナット	回転ヘーラ	N7/灰白	N7/灰白	中・少	(11.8)	—	—	2.8	
358	包含層	G 8	0	須毛器	杆	回転ナット	火薬有	N7/灰白	N7/灰白	中・少	(11.8)	—	—	1.8	
359	包含層	G 8	0	須毛器	杆	回転ナット	回転ナット	N5/灰	N5/灰	中・少	(11.8)	—	—	1.8	
360	包含層	G 8	0	須毛器	杆	回転ナット	回転ナット	N7/灰白	N7/灰白	中・少	(11.0)	—	—	1.8	鏡片
361	包含層	G 8	0	須毛器	杆	回転ナット	回転ナット	N6/灰	N6/灰	中・少	(17.4)	—	—	1.8	
362	包含層	G 8	0	須毛器	杆	回転ナット	回転ナット	N6/灰	N6/灰	中・少	—	—	9.7	鏡片	
363	包含層	G 8	0	須毛器	桿	回転ナット	回転ナット	N7/灰白	N8/灰白	中・少	—	—	4.6	2.8	
364	包含層	G10	0	須毛器	桿	回転ナット	回転ヘーラ切り後	N7/灰白	N7/灰白	中・少	—	—	6.7	2.8	
365	包含層	G 8	0	須毛器	桿	回転ナット	ヘーラ	N7/灰白	N8/灰白	中・多	(15.8)	—	—	1.8	
366	包含層	G10	0	須毛器	桿	平行タッキ後ナット	青海波文巻ナット	73Y4/1灰	73Y4/1灰	中・多	—	—	—	1.8	
367	包含層	G 8	0	土面器	小皿	回転ナット	回転ヘーラ切り	73Y86/6灰	73Y86/6灰	細・少	6.0	1.3	6.4	1.8	
368	包含層	G10	0	土面器	小皿	回転ナット	回転ヘーラ	5Y88/4灰	5Y88/4灰	中・少	(8.9)	0.9	6.7	3.8	
369	包含層	G 8	0	土面器	杆	回転ナット	回転ナット	23Y8/1灰白	23Y8/2灰白	中・少	(13.0)	—	—	鏡片	
370	包含層	G10	0	土面器	杆	回転ナット	回転ナット	10Y88/4灰	10Y88/4灰	中・少	(11.7)	3.6	4.4	3.8	
371	包含層	G 8	0	土面器	杆	回転ナット	回転ヘーラ切り	10Y88/4灰	10Y88/4灰	細・少	(11.4)	—	—	6.6	1.8
372	包含層	G 8	0	土面器	杆	回転ナット	回転ヘーラ	23Y8/2灰白	23Y8/2灰白	細・少	10.6	3.3	4.7	6.8	
373	包含層	G 8	0	土面器	杆	回転ナット	回転ヘーラ切り	10Y88/3灰	10Y88/3灰	細・少	(10.7)	2.3	6.7	1.8	
374	包含層	G 8	0	土面器	杆	回転ナット	回転ヘーラ	10Y88/3灰	10Y88/3灰	細・少	(11.1)	—	—	鏡片	
375	包含層	G 8	0	土面器	杆	回転ナット	回転ヘーラ	10Y88/3灰	10Y88/3灰	細・少	(10.8)	2.4	6.7	1.8	
376	包含層	G 8	0	土面器	杆	回転ナット	回転ヘーラ	10Y88/2灰	10Y88/2灰	中・立	—	—	6.0	1.8	
377	包含層	G 8	0	土面器	杆	回転ナット	回転ヘーラ切り	10Y88/3灰	10Y88/3灰	細・少	—	—	6.8	2.8	
378	包含層	G 8	0	土面器	杆	回転ナット	回転ナット	73YR7/4±灰	23Y7/2灰	細・少	—	—	鏡片	SIC00627の写真参考	
379	包含層	G10	0	土面器	桿	回転ナット	回転ナット	10Y88/6灰	10Y88/6灰	中・立	—	—	4.9	1.8	
380	包含層	G 8	0	土面器	足	回転ナット	回転ヘーラ	10Y87/2±灰	10Y87/2±灰	細・少	(22.2)	—	—	1.8	
381	包含層	G 8	0	土面器	足	回転ナット	指サエ	73Y86/3±灰	73Y86/3±灰	細・少	(22.0)	—	—	1.8	
382	包含層	G 8	0	土面器	足	回転ナット	指サエ工機	23Y7/6灰	23Y7/6灰	中・立	(22.6)	—	—	1.8	
383	包含層	G 8	0	土面器	足	回転ナット	指サエ工機ナット	10Y87/3±灰	10Y87/3±灰	中・少	(25.0)	—	—	鏡片	
384	包含層	G 8	0	土面器	足	コロナギ	コロナギ	10Y86/2灰	10Y86/2灰	細・少	—	—	—	鏡片	

編文 番号	報告遺跡名	地名	層位	種類	断面	調整 (%)	調整 (%)	色調 (Hs)	地質 (Hs)・地質	砂粒 (cm)	口径 (cm)	高さ (cm)	保存率	備考
385	包含層	G 8	0	土器	足	指オサエ後指ナナメ	—	10YR7.4(12.5)-1 黄褐色	—	細・少	15.7	2.5	—	—
386	包含層	G 8	0	土器	足	指オサエ後指ナナメ	—	10YR6.4(12.5)-1 黄褐色	—	粗・少	15.7	2.8	—	—
387	包含層	G10	0	黒色土器	楕	指オサエ後指ナナメ	—	25Y8.2(2) 白	7.5Y2.1 黑	中・粗	15.0	6.2	6.3	2.8
388	包含層	G10	0	黒色土器	楕	指オサエ後指ナナメ	—	5Y4.1 黑	10YR8.2(2) 白	中・少	15.0	—	—	1.8
389	包含層	G 8	0	黒色土器	楕	ヨコナナメ	—	N3. 開片	N3. 開片	粗・少	14.4	—	—	鏡片
390	包含層	G10	0	黒色土器	楕	ヨコナナメ	—	25YR7.6 橙	25Y7.2 橙	中・粗	—	—	6.8	5.8
391	包含層	G10	0	黒色土器	楕	ヨコナナメ	—	7.5Y3.4(1.9)-7 黑	N3. 開片	粗・少	—	—	6.2	3.8
392	包含層	G10	0	黒色土器	楕	ヨコナナメ	—	5YR7.6 橙	10YR4.1 開片	粗・少	—	—	6.4	5.8
393	包含層	G 8	0	瓦器	楕	指オサエ後指ナナメ	—	N5. 黑	N5. 黑	粗・少	—	—	6.7	1.8
394	包含層	G10	0	灰釉陶器	楕	ヨコナナメ	—	25Y7.7 橙黃	25Y7.7 橙黃	粗・少	—	—	6.9	1.8

第3表 西末則遺跡IV出土石器観察表

編文 番号	報告遺跡名	施設名	層位	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材
100	SP-0480	G 8	0	石臼	23.0	18.0	18.0	22.76	基床石
120	SKC-019	G 8	0	削器	69.0	107.5	9.0	80.76	中空カット
121	SKC-019	G 8	0	削片	50.0	38.5	5.0	10.01	中空カット
122	SKC-019	G 8	0	削片	40.0	52.0	4.5	10.62	中空カット
123	SKC-019	G 8	0	削片	45.0	56.0	5.0	10.34	中空カット
124	SKC-019	G 8	0	削片	84.0	61.0	9.0	71.12	中空カット
125	SKC-019	G 8	0	削片	37.5	50.0	5.0	9.12	中空カット
126	SKC-021	G 8	0	彫形石器	34.0	33.5	10.0	12.97	中空カット
135	SKC-021	G 8	0	石頭	16.0	12.5	—	0.57	中空カット
126	SKC-021	G 8	5層	石頭	21.5	17.0	3.5	1.01	中空カット
137	SKC-021	G 8	6層	石頭	23.0	13.0	3.0	0.90	中空カット
138	SKC-021	G 8	3層	石頭	18.0	11.5	3.0	0.41	中空カット
139	SKC-021	G 8	0	彫形石器	33.0	41.0	11.0	16.96	中空カット
140	SKC-021	G 8	0	彫形石器	24.5	18.0	8.0	5.54	中空カット
141	SKC-021	G 8	6層	石块	196.0	23.0	16.0	281.98	中空カット
142	SKC-021	G 8	0	彫形石器	24.0	29.0	6.0	4.67	中空カット
143	SKC-021	G 8	0	彫形石器	32.0	51.0	9.0	18.42	中空カット
144	SKC-021	G 8	0	削片	35.0	53.0	4.0	8.01	中空カット
145	SKC-021	G 8	0	二次加工有剥片	38.0	47.0	6.0	13.35	中空カット
146	SKC-021	G 8	3層	削片	41.0	51.0	8.0	13.60	中空カット

編文 番号	報告遺物名	地区名	層位	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材
147	SKc-G21	G.8	7層	二次加工有削片	580	70.0	6.0	41.51	半刃为铁上
148	SKc-G21	G.8	3層	二次加工有心刮片	365	56.5	5.0	10.30	半刃为铁上
149	SKc-G21	G.8	0	刮片	460	42.0	5.0	11.86	半刃为铁上
150	SKc-G21	G.8	最下層	刮片	380	52.0	5.5	10.31	半刃为铁上
151	SKc-G21	G.8	7層	刮片	435	67.0	4.0	12.38	半刃为铁上
152	SKc-G21	G.8	最下層	刮片	320	58.0	4.0	8.40	半刃为铁上
160	SKc-G22	G.8	2層	石鑿	150	180	3.0	0.73	半刃为铁上
161	SKc-G22	G.8	2層	椭形石器	530	71.0	12.0	60.47	半刃为铁上
162	SKc-G22	G.8	0	椭形石器	395	31.5	12.0	16.16	半刃为铁上
163	SKc-G22	G.8	0	椭形石器	300	38.0	5.0	6.88	半刃为铁上
164	SKc-G22	G.8	0	椭形石器	220	40.0	3.0	3.11	半刃为铁上
165	SKc-G22	G.8	1層内	石鑿	730	60.0	30.0	153.89	半刃为铁上
166	SKc-G22	G.8	0	二次加工有削片	410	38.0	5.0	10.74	半刃为铁上
167	SKc-G22	G.8	2層	刮片	51.0	33.0	4.0	9.83	半刃为铁上
168	SKc-G22	G.8	0	刮片	31.0	42.0	3.0	5.36	半刃为铁上
169	SKc-G22	G.8	0	椭形石器	61.0	50.0	7.0	16.2	半刃为铁上
170	SKc-G22	G.8	0	椭形石器	50.0	43.0	10.5	16.80	半刃为铁上
171	SKc-G22	G.8	0	刮片	50.0	50.0	7.0	19.25	半刃为铁上
172	SKc-G22	G.8	0	刮片	50.5	63.5	7.0	21.46	半刃为铁上
173(17+172)	SKc-G22	G.8	0	刮片	50.5	103.5	7.0	40.77	半刃为铁上
331	SKc-G22	G10	0	石鑿	1口径15.4cm	16.5cm	9.0cm	976.41	角质通灰岩
334	SKc-G22	G10	0	石臼	12.0	162.0	50.0	1,986.86	麻灰岩
347	SYc-G6	G.8	0	石臼	11.0	72.5	62.5	507.78	麻灰岩
348	SYc-G6	G.8	0	火打石	23.0	73.0	25.0	85.03	半刃为铁上

第4表 西末期遺跡IV出土金属器觀察表

編文番号	報告遺物名	地区名	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	材質
189	STc-G01	G.8	刀	240.0	30.4	1.0	194.59	銅
193	SdNc01	G10	神符金玉添方	15.0	22.0	2.0	3.47	銅

第5表 西末削遺跡IV出土瓦類緊表

番号	報告者姓名	地区名	器種	調査(古面)	調査(古面)	色調(古面)	色調(古面)	白色 砂粒	黑色 砂粒	分類(古面) 台面(厚さ mm) 傷面(厚さ mm)	段	片付半 厚さ mm	備考
114	SBS-018	G 8	平瓦 (φ 4mm 程度の網巻 模様付)	タタキ目 布目压痕 (約 4mm 程度の網巻 模様付)	10本/cm NS/灰	7.5Y7/1灰白 NS/灰	7.5Y6/1灰 NS/灰	細・少	細・少	5.8 台面(厚さ 18mm) 傷面(厚さ 10mm)	—	破片	厚さ 22mm
395	包含層	G 8	平瓦 (φ 4mm 程度の網巻 模様付)	タタキ目 布目压痕 (約 4mm 程度の網巻 模様付)	8本/cm NS/灰	NS/灰	NS/灰	中・少	6.9	7.9 台面(厚さ 23mm) 傷面(厚さ 23mm)	—	無	タタキ目焼粘土を呈する
396	包含層	G 8	平瓦 (φ 3mm 程度の網巻 模様付)	タタキ目 布目压痕 (約 3mm 程度の網巻 模様付)	10本/cm NS/灰	7.5Y7/1灰白 NS/灰	7.5Y7/1灰白 NS/灰	細・少	7.3	4.6 台面(厚さ 23mm) 傷面(厚さ 23mm)	—	破片	厚さ 23mm
327	SBS-001	G 8	丸瓦 板ナデ	布目压痕(12本/cm の糸)	NS/灰	NS/灰	NS/灰	細・少	10.5	14.2 台面(厚さ 30mm) 傷面(厚さ 30mm)	—	破片	
328	SBS-001	G 8	平瓦 (φ 3mm 程度の網巻 模様付)	タタキ目 布目压痕 (約 3mm 程度の網巻 模様付)	9本/cm NS/灰	NS/灰	NS/灰	細・少	11.0	11.8 台面(厚さ 25mm) 傷面(厚さ 25mm)	—	破片	
329	SBS-001	G 8	平瓦 (φ 2mm 程度の網巻 模様付)	タタキ目 布目压痕 (約 2mm 程度の網巻 模様付)	4~5本/ cm 程度の糸	NS/灰	5Y7/1灰白 NS/灰	中・少	8.6	9.4 台面(厚さ 17mm) 傷面(厚さ 17mm)	—	無	破片
397	包含層	G10	平瓦 (φ 5mm 程度の網巻 模様付)	タタキ目 布目压痕 (約 5mm 程度の網巻 模様付)	10本/cm NS/灰	NS/灰白 NS/灰	中・少	9.8	7.2 台面(厚さ 18mm) 傷面(厚さ 18mm)	—	破片		

写 真 図 版



E 地区 (G10) 北壁土層 南から



E 地区 (G10) SDc001 中央畔土層断面 西から

図版 2



E 地区 (G10) SBc012-P10 遺物出土状況 北から



E 地区 (G8) STc002 土層 東から

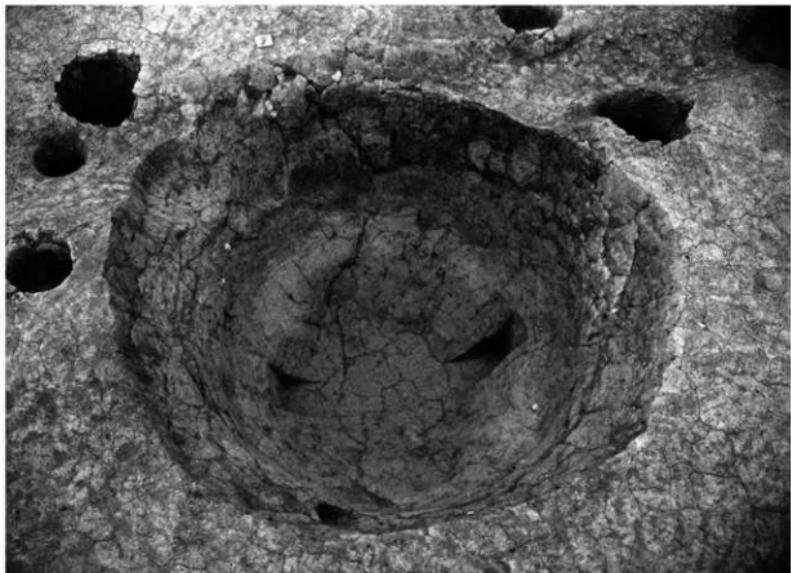


E 地区 (G10) SDc017 土層 西から



E 地区 (G10) SDc018・016 土層 西から

図版 4



E 地区 (G8) SKc021 完掘状況 南から



E 地区 (G8) STc001 土層 南東から



E 地区 (G8) STc001 土層 南から



E 地区 (G8) SBc006・008 南から

図版 6



E 地区 (G8) 全景 東から



E 地区 (G8) SDc027 全景 南から



E 地区 (G8) STc001 人骨検出状況 南から



E 地区 (G8) STc001 人骨検出状況 東から

図版 8



E 地区 (G8) STc001 完掘状況 南から



E 地区 (G8) STc002 棺跡？ 南から



E 地区 (G8) STc002 棺跡？ 西から



E 地区 (G8) SKc021 土層 南から

図版 10



E 地区 (G10) SAc001 (西半) 東から



E 地区 (G10) SBc009-P06 遺物出土状況 南から



E 地区 (G10) 古代掘立柱建物群全景 南から



E 地区 (G10) 古代掘立柱建物群全景 東から

圖版 12



51



61



60



75



62



78



85



104



111

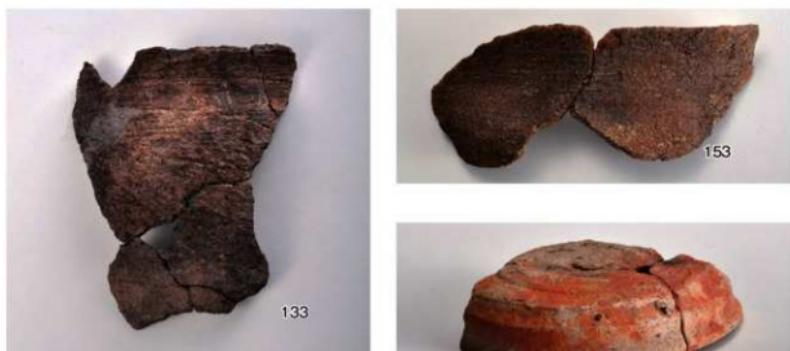


119



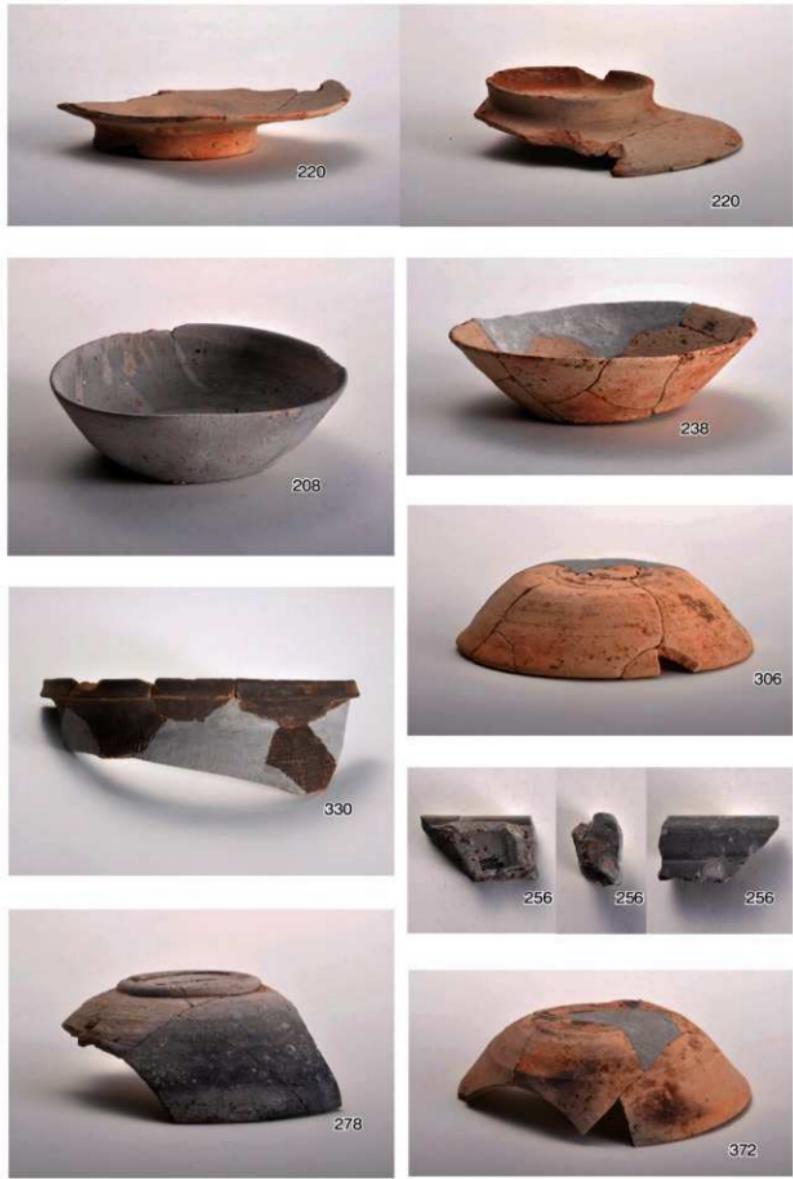
119

出土遺物（1）



出土遺物（2）

圖版 14



出土遺物 (3)

報告書抄録

ふりがな	にしすえのりいせきIV							
書名	西末則遺跡IV							
副書名	香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告							
巻次	第4冊							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	小野秀幸							
編集機関	香川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒 762-0024 香川県坂出市府中町字南谷 5001-4 Tel 0877-48-2191 Fax 0877-48-3249							
発行機関	香川県教育委員会							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °・'"	東經 °・'"	発掘期間	発掘面積 (m ²)	調査原因
		市町	遺跡 番号					
にしすえのり 西末則 いせき 遺跡	かがわけんあやうたぐんあやがわちょう 香川県綾歌郡綾川町 きた・やまとじょ 北・山田下	37381		34° 13' 35"	133° 56' 15"	2002040 ～ 20030331	2,542	香川県農 業試験場 移転
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
西末則 遺跡	集落跡	縄文時代	土坑	土器・石器				
		弥生時代 古代～中世	溝状遺構 掘立柱建物・柱穴・ 溝状遺構・土坑・土 坑墓	須恵器・土師器・石製品 須恵器・土師器・銅帶金具				
要 約								
縄文時代晚期の土坑を検出し、当該期の土器・石器が出土した。古代～中世にかけての掘立柱建物跡を多数検出し、隣接調査区と併せて古代・中世集落の景観を復元できる資料となった。								

香川県農業試験場移転事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告
第4冊
西末則遺跡IV

2014年3月20日

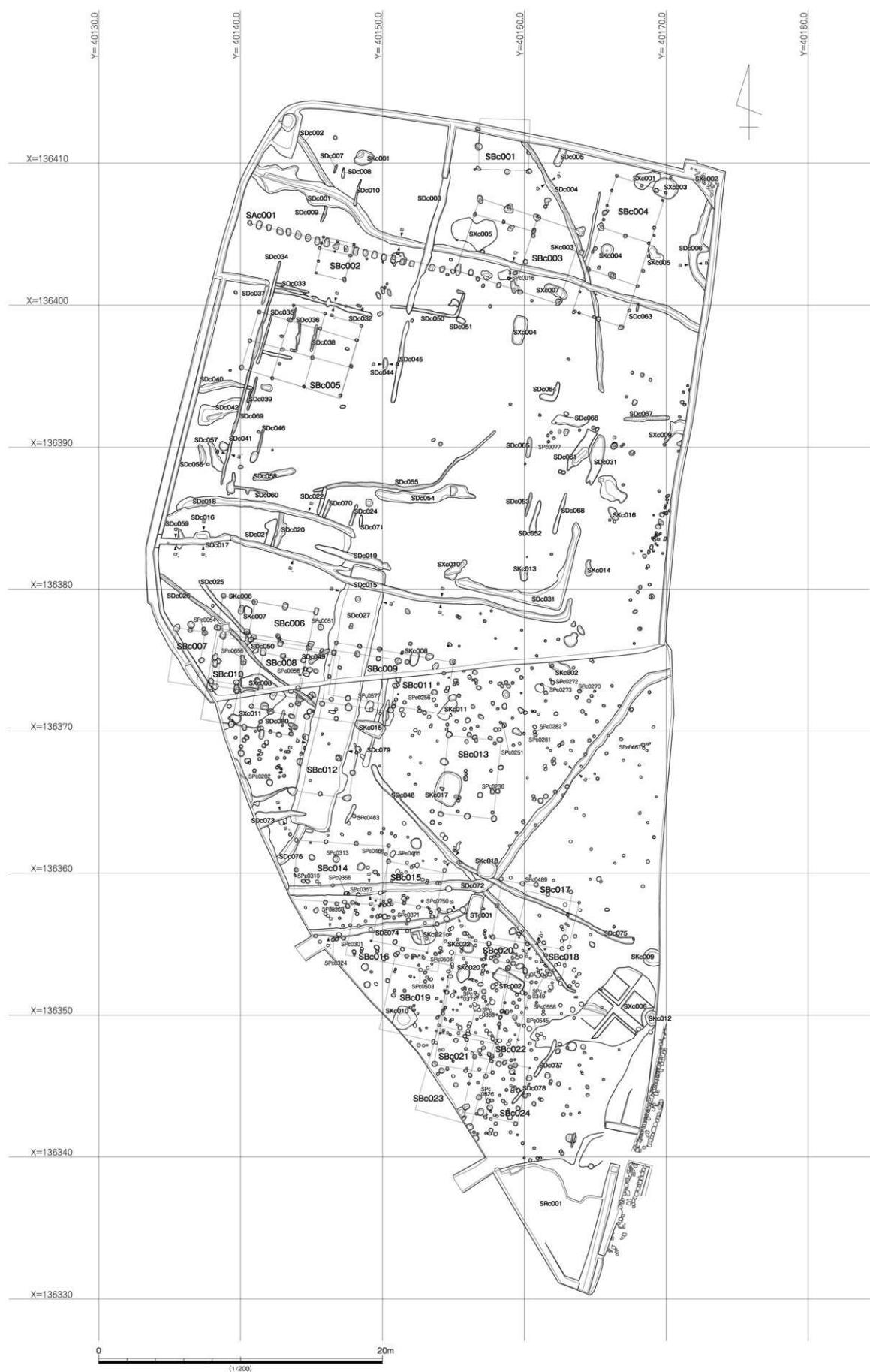
編集 香川県埋蔵文化財センター

〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷 5001-4

Tel 0877-48-2191 Fax 0877-48-3249

発行 香川県教育委員会

印刷 ナカハタ印刷株式会社



付図 西末則遺跡IV遺構配置図